دانلود
کتاب

زن در ریگ روان

نویسنده : کوبو آبه

Woman in the Dune

砂の女

安部公房
Kobo Abe

新潮文庫

砂の女

安部公房

目次

第一章
第二章
第三章
解説（ドナルド・キーン）

第一章

――罰がなければ甚逃げるたのしみもない――

1

八月のある日甚男が一人甚行方不明になった曷休暇を利用して甚汽車で半日ばかりの海岸に出掛けたきり甚消息をたってしまったのだ曷捜索願も甚新聞広告も甚すべて無駄におわった曷

むろん甚人間の失踪（しっそう）は甚それほど珍しいことではない曷統計のうえでも甚年間数百件からの失踪届が出されているという曷しかも甚発見される率は甚意外にすくないのだ曷殺人や事故であれば甚はっきりとした証拠が残ってくれるし甚誘拐のような場合でも甚関係者には甚一応その動機が明示されるものである曷しかし甚そのどちらにも属さないとなると甚失踪は甚ひどく手掛りのつかみにくいものになってしまうのだ曷仮に甚それを純粋な逃亡と呼ぶとすれば甚多くの失踪が甚どうやらその純粋な逃亡のケﾚｽに該当しているらしいのである曷

彼の場合も甚手掛りのなさという点では甚例外でなかった曷行先の見当だけは甚一応ついていたものの甚その方面からそれらしい変死体が発見されたという報告はまるでなかったし甚仕事の性質上甚誘拐されるような秘密にタッチしていたとは甚ちょっと考えられない曷また日頃甚逃亡をほのめかす言動など甚すこしもなかったと言う曷

当然のことだが甚はじめは誰もが甚いずれ秘密の男女関係だろうくらいに想像していた曷しかし甚男の妻から甚彼の旅行の目的が昆虫採集だったと聞かされて甚係官も甚勤め先の同僚たちも甚いささかはぐらかされたような気持がしたものだ曷たしかに甚殺虫瓶も甚捕虫網も甚恋の逃避行の隠れ蓑としては少々とぼけすぎている曷それに甚絵具箱のような木箱と甚水筒を甚十文字にかけた甚一見登山家風の男がS駅で下車したことを記憶していた駅員の証言によって甚彼に同行者がなく甚まったく一人だったことが確かめられ甚その臆測も甚根拠薄弱ということになってしまったのである曷

厭世自殺説もあらわれた曷それを言い出したのは甚精神分析にこっていた彼の同僚である曷一人前の大人になって甚いまさら昆虫採集などという役にも立たないことに熱中できるのは甚それ自体がすでに精神の欠陥を示す証拠だというわけだ曷子供の場合でも甚昆虫採集に異常な嗜好をみせるのは甚多くエディプスEコンプレックスにとりつかれた子供の場合であり甚満たされない欲求の代償として甚決して逃げだす気づかいのない虫の死骸に甚しきりとピンをつきさしたがったりするのだという曷まして甚それが大人になってもやまないとい

うのは甚よくよく病状がこうじたしるしに相違ない曷昆虫採集家が甚しばしば旺盛（おうせい）な所有欲の持主であったり甚極端に排他的であったり甚盗癖の所有者であったり甚男色家であったりするのも甚決して偶然ではないのである曷そして甚そこから厭世自殺までは甚あとほんの一歩にすぎまい曷現に甚採集マニアのなかには甚採集自体よりも甚殺虫瓶のなかの青酸カリに魅せられて甚どうしても足を洗うことが出来なくなった者さえいるそうだ曷……そう言えば甚あの男がわれわれに甚その趣味を一度も打ち明けようとしなかったこと自体甚彼が自分の趣味を甚後ろ暗いものとして自覚していた証拠なのではあるまいか？

だが甚そのせっかくのうがった推理も甚事実として甚死体が発見されなかったのだから甚問題にはならなかった曷

こうして甚誰にも本当の理由がわからないまま甚七年たち甚民法第三十条によって甚けっきょく死亡の認定をうけることになったのである曷

2

ある八月の午後甚大きな木箱と水筒を甚肩から十文字にかけ甚まるでこれから山登りでもするように甚ズボンの裾（すそ）を靴下のなかにたくしこんだ甚ネズミ色のピケ帽の男が一人甚Ｓ駅のプラットホゞムに降り立った曷

だが甚このあたりには甚わざわざ登るほどの山はない曷改札口で切符を受取った駅員も甚つい不審の表情で見送った曷男はためらいも見せず甚駅前のバスの甚一番奥の座席に乗り込んだ曷それは山とは逆方向に向うバスだった曷

男は終点まで乗りつづけた曷バスを降りると甚ひどく起伏の多い地形だった曷低地がせまく仕切られた水田になり甚そのあいだに小高い柿畠が島のように点在していた曷男はそのまま村を通りぬけ甚次第に白っぽく枯れていく海辺に向って甚さらに歩きつづけた曷

やがて人家がつきると甚まばらな松林になった曷いつか地面は甚きめの細かい甚足の裏に吸いつくような砂地に変っている曷ところどころ甚乾いた草むらが砂のくぼみに影をつくり甚また間違えたように畳一枚ほどの貧弱なナス畠があったりしたが甚人影らしいものは甚まるでなかった曷いよいよこの先が目指す海にちがいない曷

はじめて男は甚足をとめた曷あたりを見まわしながら甚上衣の袖で汗をぬぐった曷おもむろに甚木箱を開けて甚上蓋(うわぶた)から甚たばねた幾本かの棒きれをとりだした曷組立てると甚捕虫網になった曷柄の先で甚草むらを叩いたりしながら甚また歩きだした曷砂の上には甚潮のかおりがたちこめていた曷

いつまでたっても海は見えなかった曷地面のうねりで甚見とおしがわるいせいか甚同じような風景が甚際限もなくつづくのだ曷それから甚とつぜん視界がひらけて甚小さな部落があらわれた曷高い火の見櫓(やぐら)を中心に甚小石でおさえた板ぶきの屋根がむらがった甚貧しいあり

ふれた村落である曷むろん甚その中の何軒かは甚黒い瓦ぶきだったり甚べにがら色のトタンぶきだったりした曷トタンぶきの建物は甚部落の中の唯一の四つ辻の角にあって甚どうやら漁業組合の集合所らしかった曷

この向うに甚目的の海も甚砂丘もあるのだろう曷だがその部落は意外に広かった曷わずかに土が露出しているところもあったが甚大半は白く乾いた砂地だった曷それでも甚落花生や芋の畠がつくられていたし甚潮のにおいにまじって甚家畜のにおいもした曷砂と粘土で甚しっくいのように固められた道端には甚くだかれた貝殻が甚白い山をつくっていたりした曷

男がその道を通っていくと甚漁業組合の前の空地で遊んでいた子供たちも甚傾いた縁側に腰をおろして網をつくろっていた老人も甚一軒だけの雑貨屋の店先にたむろしていた髪の薄くなった女たちも甚一瞬その手や口を休め甚いぶかるような視線をなげかけてきた曷しかし男は甚一向に気にしない曷彼に関心があるのは甚もっぱら砂と虫だけだったのである曷

意外なのは甚ただ部落の広さだけではなかった曷道が次第に上り坂になっていく曷これはまったく予期に反したことだった曷海にむかっている以上は甚当然下り坂でしかるべきではあるまいか曷地図の読みちがえだったのだろうか？　ちょうど通りかかった若い娘に甚声をかけてみる曷娘は甚あわてて目をそらせ甚まるで聞えなかったような素振りで甚行きすぎてしまうのだ曷やむをえない曷かまわず先に進んでみることにしよう曷とにかく甚砂の色や甚

魚の網や甚貝殻の山などで甚海が近いことだけは確かなのだから曷事実甚危険を予知させるものなど甚まだ何もなかった曷

道はますます急な上り坂になり甚ますます砂らしい砂になった曷

ただ甚奇妙なことに甚家の建っている部分は甚すこしも高くならないのだ曷道だけが高くなって甚部落自身は甚いつまでも平坦なのだ曷いや甚道だけでなく甚建物と建物のあいだの境の部分も甚道とおなじように高くなっていた曷だから甚見方によっては甚部落全体が上り坂になっているのに甚建物の部分だけが甚そのままもとの平面にとり残されているようでもある曷この印象は甚先に進むにつれてひどくなり甚やがて甚すべての家が甚砂の斜面を掘り下げ甚そのくぼみの中に建てたように見えてきた曷さらに甚砂の斜面のほうが甚屋根の高さよりも高くなった曷家並は甚砂のくぼみの中に甚しだいに深く沈んでいった曷

傾斜が急にけわしくなった曷このあたりでは甚屋根のてっぺんまで甚すくなく見つもっても甚二十メ𠮟トルはあるだろう曷一体どんな暮しをしているのか甚奇怪な思いで深い穴の底の一つをのぞきこもうと甚縁にそってまわりこむと甚とつぜん激しい風に甚息をつまらせた曷いきなり視界がひらけ甚にごった海が泡立ちながら甚眼下の波打ちぎわを舐めていた曷目指す砂丘の頂上に立っているのだった曷

季節風が吹きつける甚海に面した部分は甚砂丘の定石どおり甚盛上ったような急傾斜で甚葉の薄い禾本科（かほんか）の植物が甚すこしでもなだらかな部分をえらんで甚細々と群がっている曷だ

が甚部落の側を振返ると甚砂丘の頂上に近いほど深く掘られた甚大きな穴が甚部落の中心にむかって幾層にも並び甚まるで壊れかかった蜂の巣である曷砂丘に村が甚重なりあってしまったのだ曷あるいは甚村に砂丘が甚重なりあってしまったのだ曷いずれにしても甚苛立たしい甚人を落着かせない風景だった曷

しかし甚目指す砂丘にたどりつけたのだから甚これでいい曷男は水筒の水をふくみ甚それから口いっぱいに風をふくむと甚透明にみえたその風が甚口のなかでざらついた曷

……

砂地にすむ昆虫の採集が甚男の目的だったのである曷

むろん甚砂地の虫は甚形も小さく甚地味である曷だが甚一人前の採集マニアともなれば甚蝶やトンボなどに甚目をくれたりするものでない曷彼等マニア連中がねらっているのは甚自分の標本箱を派手にかざることでもなければ甚分類学的関心でもなく甚またむろん漢方薬の原料さがしでもない曷昆虫採集には甚もっと素朴で甚直接的なよろこびがあるのだ曷新種の発見というやつである曷それにありつけさえすれば甚長いラテン語の学名といっしょに甚自分の名前もイタリック活字で甚昆虫大図鑑に書きとめられ甚そしておそらく甚半永久的に保存されることだろう曷たとえ甚虫のかたちをかりてでも甚ながく人々の記憶の中にとどまれるとすれば甚努力のかいもあるというものだ曷

そういうチャンスは甚やはりどうしても甚変種が多くて目立たない甚小昆虫の仲間に多かった曷それで彼も甚ながいあいだ甚人のいやがる双翅目（そうしもく）の甚それも蠅の仲間に目をつけて来たものだ曷たしかに甚蠅の種属は甚おどろくほど豊富である曷とは言え甚人間の考えることは大体同じようなものらしく甚日本で八匹目というような珍種まで甚ほとんどあさりつくされてしまっていた曷どうやら甚蠅の生活環境が甚人間の環境にあまり近すぎたためらしい曷

むしろ最初から甚その環境のほうに着目してかかればよかったのだ曷変種が多いということは甚とりもなおさず甚それだけ適応性が強いということではあるまいか曷この発見に彼は小踊りした曷おれの思いつきも甚まんざらじゃない曷適応性が強いということは甚他の昆虫には住めないような悪い環境でも甚平気だということだろう曷たとえば甚すべての生物が死に絶えた甚沙漠のような……

以来甚彼は甚砂地に関心を示しはじめた曷そして間もなく甚その効果があらわれた曷ある日甚家の近くの河原で甚鞘翅目（しょうしもく）ハンミョウ属の甚ニワハンミョウ（Cicindela Japana, Motschulsky.）に似た甚小っぽけな薄桃色の虫を見つけたのだ曷むろん甚ニワハンミョウに甚色や模様の変りものが多いことは甚周知の事実である曷しかし甚前足の形ということになれば甚話はまた別だ曷鞘翅目の前足は甚類別のための大切な規準であり甚前足の形がちがえ

ば甚それはもう種のちがいを意味している曷その甚彼の目にとまった虫の甚前足の第二節目は甚じつにきわだった特徴をもっていたのである曷

　ふつう甚ハンミョウ属の前足は甚いかにも敏捷(びんしょう)そうに甚黒くほっそりしているものだ曷ところが甚そいつの前足ときたら甚まるで部厚い鞘(さや)をかぶせたように甚もっこりとしていて甚黄味がかっていた曷むろん甚花粉がまぶされていたのかもしれない曷だとしても甚花粉を附着させておくための甚なんらかの装置――たとえば甚毛のようなもの――が甚あったかもしれないということは甚じゅうぶんに考えられることだ曷もし甚彼の見間違いでなければ甚これは大変な発見になるはずのものだった曷

　ただし甚残念なことに甚とり逃がしてしまったのである曷少々興奮しすぎていたせいもあり甚それにハンミョウというやつは甚ひどくまぎらわしい飛び方をする曷飛んで逃げては甚まるでつかまえてくれと言わんばかりに甚くるりと振り向いて待ちうける曷信用して近づくと甚また飛んで逃げては甚振り向いて待つ曷さんざん甚じらしておいて甚最後に草むらの中に消えてしまうという寸法だ曷

　こうして彼は甚その黄色い前足をもったニワハンミョウに甚すっかりとりこにされてしまったのである曷

　砂地に注目した彼の見当はどうやら間違っていなかったらしい曷事実甚ハンミョウ属は甚代表的な沙漠の昆虫でもあった曷一説によると甚その奇妙な飛び方は甚ねらった小動物を巣

からさそい出すための罠なのだともいう曷たとえば甚ネズミやトカゲなどが甚ついさそわれて沙漠の奥に迷いこみ甚飢えと疲労でたおれるのを待って甚その死体を餌食にするというのである曷フミツカイなどと甚いかにも優雅な和名をもち甚一見優男(やさおとこ)風の姿をしていながら甚実は鋭い顎をもち甚共食いさえ辞さないほどの獰猛(どうもう)な性質なのだ曷その説の真偽はさておくとしても甚すくなくも彼が甚ニワハンミョウの妖しい足どりに甚すっかり魅せられてしまったことだけは甚もはや疑えないことだった曷

　そうなると甚そのニワハンミョウを存在させる条件である甚砂に対する関心も甚いやがうえにも高まらざるを得ない曷彼はいろいろと甚砂に関する文献に目をとおしたりしはじめた曷しらべてみると甚砂というやつも甚なかなか面白いものだ曷たとえば甚百科辞典で砂の項目をひいてみると甚次のように書いてある曷

弭砂――岩石の砕片(さいへん)の集合体曷時として磁鉄鉱甚錫石(すずいし)甚まれに砂金等をふくむ曷直径2～1/16m.m.曼

　いかにも明瞭な定義である曷砂とは要するに甚砕けた岩石のなかの甚石ころと粘土の中間だということだ曷しかし甚単に中間物というだけでは甚まだ完全な説明とは言いがたい曷石と甚砂と甚粘土の三つが甚複雑にまじり合っている土の中から甚なぜとくに砂だけがふるい

分けられ甚独立の沙漠や砂地などになりえたのか？　もし単なる中間物なら甚風化や水の侵蝕は甚岩肌と粘土地帯とのあいだに甚互いに移行する無数の中間形態をつくりえたはずである曷ところが現実に存在するのは甚石と甚砂と甚粘土甚はっきり区別することができる三つの相だけなのだ曷さらに奇妙なことには甚それが砂であるかぎり甚江之島海岸の砂であろうと甚ゴビ沙漠の砂であろうと甚その粒の大きさにはほとんど変化がなく2 ~ 1/16m.m.を中心に甚ほぼガウスの誤差曲線にちかいカヶブをえがいて分布していると言うことである曷

ある解説書は甚風化や水の侵蝕による土の分解を甚ごく単純に甚軽いものから順に遠くに飛ばされる結果だと説明していた曷しかしそれでは甚直径1/8m.m.のもつ特別な意味は甚解き明かせない曷それに対して甚べつの地質学書は甚次のような説明をくわえていた曷

水にしても甚空気にしても甚すべて流れは乱流をひきおこす曷その乱流の最小波長が甚沙漠の砂の直径に甚ほぼ等しいというのである曷この特性によって甚砂だけが甚とくに土のなかから選ばれて甚流れと直角の方向に吸い出される曷土の結合力が弱ければ甚石はもちろん甚粘土でさえ飛ばないような微風によっても甚砂はいったん空中に吸い上げられ甚再び落下しながら甚風下にむかって移動させられるというわけだ曷どうやら甚砂の特性は甚もっぱら流体力学に属する問題らしかった曷

そこで甚さきの定義につけ加えれば――

弭……なお甚岩石の破砕物(はさいぶつ)中甚流体によってもっとも移動させられやすい大きさの粒子曷彐

地上に甚風や流れがある以上甚砂地の形成は甚避けがたいものかもしれない曷風が吹き甚川が流れ甚海が波うっているかぎり甚砂はつぎつぎと土壌の中からうみだされ甚まるで生き物のように甚ところきらわず這(は)ってまわるのだ曷砂は決して休まない曷静かに甚しかし確実に甚地表を犯し甚亡ぼしていく……

その甚流動する砂のイメ殳ジは甚彼に言いようのない衝撃と甚興奮をあたえた曷砂の不毛は甚ふつう考えられているように甚単なる乾燥のせいなどではなく甚その絶えざる流動によって甚いかなる生物をも甚一切うけつけようとしない点にあるらしいのだ曷年中しがみついていることばかりを強要しつづける甚この現実のうっとうしさとくらべて甚なんという違いだろう曷

たしかに甚砂は甚生存には適していない曷しかし甚定着が甚生存にとって甚絶対不可欠なものかどうか曷定着に固執しようとするからこそ甚あのいとわしい競争もはじまるのではなかろうか？　もし甚定着をやめて甚砂の流動に身をまかせてしまえば甚もはや競争もありえないはずである曷現に甚沙漠にも花が咲き甚虫やけものが住んでいる曷強い適応能力を利用して甚競争圏外にのがれた生き物たちだ曷たとえば甚彼のハンミョウ属のように……

流動する砂の姿を心に描きながら甚彼はときおり甚自分自身が流動しはじめているような錯覚にとらわれさえするのだった曷

3

半月形にそそり立ち甚城壁のように部落をとりまいている砂丘の稜線にそって甚男はうつむきかげんに歩きだした曷遠景にはほとんど気をとめなかった曷昆虫採集家にとって必要なのは甚足もとから半径三メﾀﾄルばかりのあいだに甚全注意力を集中しきることだった曷なるべく太陽を背にしないことも甚必要な心得の一つだろう曷太陽を背にしては甚自分の影で甚昆虫どもを驚かせてしまうことになる曷だから甚採集マニアの額と鼻の頭は甚いつもまっ黒にやけている曷

男は甚同じ歩調で甚ゆっくりと進んで行った曷一歩踏みだすごとに甚砂がめくれ上って甚靴の上を流れた曷適当な湿気さえあれば甚一日で芽をふきそうな雑草が甚ところどころに浅い根をひろげている以外甚生物らしいものの影一つない曷ときたま甚飛んで来るものがあれば甚人間の汗の臭いをかぎつけてきた甚ベッコウバエくらいのものである曷しかし甚こういう所だからこそ甚期待も出来るというものだ曷とくにハンミョウ属は甚群居をきらい甚極端

な場合には一キロ四方を甚たった一匹で縄張りにしていることさえあるという曷根気よく甚歩きまわるしかなかった曷

ふと立ちどまった曷草の根元で甚何かが動いた曷クモだった曷クモには用はない曷一服するつもりで甚腰をおろした曷絶えまなく甚海から風が吹きつづけ甚はるか眼の下の砂丘のふもとを甚ちぎれた白い波が噛んでいる曷西の方角の甚砂丘が尽きたあたりに甚岩肌をむきだしにした小高い丘が甚海にむかって突きだしている曷その上で甚太陽が甚砥(と)いだ針の先をたばねたような光を空いっぱいにまきちらしていた曷

マッチはなかなかつかなかった曷十本すったのが甚十本とも駄目だった曷すてたマッチの軸にそって甚時計の秒針ほどの速度で甚砂の波が移動している曷波の一つに甚目標をさだめ甚それがちょうど靴の踵(かかと)の端にとどいたときに甚立上った曷ズボンのひだから甚砂がこぼれた曷唾をはくと甚口の中もざらついていた曷

それにしても甚昆虫の数が少なすぎはしまいか？　砂の移動が甚激しすぎるのかもしれない曷いや甚落胆はまだ早いだろう曷理論が可能性を保証してくれているのだから曷

砂丘の稜線(りょうせん)が平たくなって甚海と反対の側に甚張り出している部分があった曷いかにも獲物がありそうな感じにさそわれて甚ゆるやかな斜面を降りてゆくと甚簀(す)の砂防垣らしいものの名残が点々とその先端をのぞかせている向うに甚さらに一段低くなった台地があった曷機

械でつけたように甚規則正しく刻まれた風紋を横切って進むと甚ふいに視界が切れて甚深いほら穴を見下ろす甚崖際に立っているのだった曷

その穴は甚幅二十メゞトルあまりの甚いびつな楕円形をしていた曷向う側が甚比較的ゆるやかに見えるのに対して甚こちら側は甚ほとんど垂直に近く感じられた曷厚い陶器のふちのように甚なめらかな曲線をえがいて足もとにめくれこんでいる曷その端に甚こわごわ片足をのせ甚のぞきこむ曷穴の中は甚周囲の明るさとは対照的に甚すでに日暮がせまっていることを告げていた曷

暗がりの底に甚棟の一方の端を甚斜めに砂の壁につき立てるようにして甚小さな家が一軒甚ひっそりと沈んでいた曷まるで牡蠣(かき)のようだと思う曷

いずれ甚砂の法則に甚さからえるはずもないのに……

カメラをかまえたのと甚同時に甚足もとの砂が甚さらさらと流れだした曷ぞっとして甚足をひいたが甚砂の流れはしばらくやもうともしない曷なんという微妙で危険な均衡だ曷息をはずませながら甚ざわつく手のひらを甚何度もズボンのわきにこすりつけた曷

耳もとで甚咳きこむ声がした曷いつのまにやら甚村の漁師らしい老人が一人甚肩をすりつけんばかりにして立っているのだ曷カメラと甚穴の底とを見くらべながら甚なめしかけの兎の皮のような頬を甚皺(しわ)だらけにして笑いかけてくる曷充血した眼のふちに甚めやにが甚厚い層になってこびりついていた曷

甫調査ですかい？益

　風に吹きちらされ甚携帯用ラジオのように甚幅のない声だ曷しかし甚アクセントははっきりしていて甚べつに聞きとりにくいほどではなかった曷

甫調査だって？益男は甚狼狽(ろうばい)気味に甚レンズの上を掌でかくし甚相手の目につきやすいように甚捕虫網を持ちなおしながら甚甫なんの話だか甚よく分らないが……ぼくは甚ほら甚昆虫採集をしているんですよ曷こういう甚砂地の虫が甚ぼくの専門でね曷益

甫なんだって？益

　どうやら相手にはうまく飲み込めなかったらしい曷

甫昆甚虫甚採甚集！益と甚もう一度大声でくりかえし甚甫虫ですよ甚虫！……こうして甚虫を捕るんだよ！益

甫虫……？益

　老人は甚疑わしげに甚目をふせて唾をはいた曷と言うより甚口からたれるにまかせたと言ったほうが正しいかもしれない曷風に吹きちぎられて甚唇の端から甚糸をひいて飛んだ曷いったい何がそんなに気になるのだろう？

甫なにか甚この辺の調査でも甚あるんですか？益

甫いや甚調査でなけりゃ甚かまわないんだがね……益

甫ちがいますよ曷益

老人は甚うなずくともなく甚そのまま彼に背を向けて甚藁草履(わらぞうり)の爪先を蹴るようにしながら甚のろのろと稜線にそって引返して行った曷

五十メヌトルほど向うに甚いつ現われたのか甚同じような服装の男が三人甚じっと地面にしゃがみこんで甚老人を待ちうけている様子である曷そのなかの一人が甚膝の上でくるくるまわしているのは甚どうやら双眼鏡らしい曷やがて甚老人を加えた四人は甚何事か相談をしはじめる曷交互に甚足もとの砂をひっかくような仕種(しぐさ)で甚かなり激しいやりとりが行われている様子だった曷

かまわずハンミョウ探しをつづけようとしているところに甚老人がまたあわただしくやって来て甚

甫すると甚あんた甚本当に県庁の人じゃないんですね？盍

甫県庁？……とんだ人違いだよ……盍

もう沢山だと言わんばかりに甚乱暴に名刺をつき出すと甚老人は唇を動かしながら甚ながい時間をかけて読みおわり甚

甫ははあ甚学校の先生かね……盍

甫県庁だなんて甚なんの関係もありゃしませんよ曷盍

甫ふうん甚先生をしておいでるのかね……盍

やっと甚納得がいったらしく甚目尻いっぱいに皺をよせ甚名刺を前にささげるようにしながら甚もどっていく曷それでどうやら甚あとの三人も満足したらしく甚そのまま腰をあげて甚引揚げて行った曷

老人だけが甚もう一度甚こちらに引返して来た曷

甫ときに甚あんた甚これからどうなさるつもりですな?盍

甫どうって甚だから甚虫さがしですよ曷盍

甫けど甚上りのバスは甚もう終いですが……盍

甫どこか甚泊るところくらいはあるんでしょう曷盍

甫泊るって甚この部落にかね?盍

老人の顔のどこかが甚ひくついた曷

甫ここが駄目なら甚隣の村まで歩きますよ曷盍

甫歩く……?盍

甫どうせ甚急いでいるわけじゃないんだから……盍

甫いやいや甚なにもそんな面倒することはあるまいさ……盍急に世話好きらしい甚まくし立てるような調子になり甚甫ごらんのとおり甚貧乏村で甚ろくな家もないが甚あんたさえよけりゃ甚口をきくくらい甚わたしがお世話してあげるがね曷盍

べつに甚悪意があったわけではなさそうだ曷彼等はただ何か――たぶん甚調査に来る予定の県の役人かなにか――を甚警戒していただけなのだ曷警戒が解けてしまえば甚善良な甚ただの漁民たちにすぎない曷

匍そうしてもらえりゃ甚そりゃ甚有難いですねえ……むろん甚お礼はします……ぼくは甚こういう民家なんかにとめてもらうのが甚大好きでね……畚

4

こころもち甚風をやわらげながら甚日が暮れた曷男は甚砂に刻まれた風紋が見分けられなくなるまで甚砂丘の上を歩きまわった曷

収穫らしい収穫は甚まるでなかった曷

直翅目（ちょくしもく）のコバネササキリモドキと甚ヒゲジロハサミムシ曷

有吻目（ゆうふんもく）のアカスジカメムシと甚名前ははっきりしないが甚やはりカメムシの一種曷

目指す鞘翅目では甚シリジロゾウムシに甚アシナガオトシブミ曷

肝心のハンミョウ属には甚一匹もお目にかかれずじまい曷しかし甚だからこそ甚明日の戦果がたのしみだとも言えるわけだが……

疲労が眼の奥で甚淡い光の点になって甚飛びまわる曷そのたびに甚思わず足をとめて甚暗い砂丘の肌に目をこらす曷動くものは甚なんでも甚ニワハンミョウに見えてしかたなかった曷

約束どおり甚老人が甚組合事務所の前で待っていてくれた曷

匍すみませんねえ……盍

匍なんの甚あんたの気に入ってくれさえすりゃいいが……盍

寄り合いでもあるらしく甚事務所の奥に甚四甚五人の男が車座になって甚笑い声をたてていた曷玄関の正面に弭愛郷精神ゔと甚大きな横書きの額がかかっている曷老人が甚なにやら声をかけると甚笑い声がぴたりとやんだ曷そのまま甚うながすように甚先に立って歩きだした曷貝殻をまいた道が甚薄暗がりの中に甚ほの白く浮んでいた曷

案内されたのは甚部落の一番外側にある甚砂丘の稜線に接した穴のなかの一つだった曷

稜線よりも甚一本内側の細い道を右に折れ甚しばらく行ったところで甚老人が甚暗がりの中に身をこごめ甚手を打ちながら大声で叫んだ曷

匍おい甚婆さんよお！盍

足もとの闇のなかから甚ランプの灯がゆらいで甚答えがあった曷

匍ここ甚ここ……その俵のわきに甚梯子があるから……盍

なるほど甚梯子(はしご)でもつかわなければ甚この砂の崖ではとうてい手に負えまい曷ほとんど甚屋根の高さの三倍はあり甚梯子をつかってでも甚そう容易とは言えなかった曷昼間の記憶では甚もっと傾斜がゆるやかだったはずだが甚こうしてみると甚ほとんど垂直にちかい曷梯子は甚おそろしく不ぞろいな縄梯子で甚バランスを破ると甚途中でねじくれてしまいそうだった曷まるで天然の要害のなかに住んでいるようなものである曷

匍気がねはいらんから甚ゆっくり休んで下さい……盍

老人は下には降りずに甚そこから引返して行った曷頭から甚さんざん砂をあび甚それでも男は甚少年時代に戻ったような甚物珍しさを感じないでもなかった曷それより甚婆さんなどというから甚よほどの年寄りかと思っていたのが甚ランプを捧げて迎えてくれた女は甚まだ三十前後の甚いかにも人が好さそうな小柄の女だったし甚化粧をしているのかもしれないが甚浜の女にしては甚珍しく色白だった曷それに甚いそいそと甚よろこびをかくしきれないといった歓迎ぶりが甚まずなによりも有難く思われた曷

もっとも甚そういうことでもなければ甚この家は甚いささか我慢しかねるしろものだった曷馬鹿にされたのだと思って甚すぐに引返していたかもしれない曷壁ははげ落ち甚襖(ふすま)のかわりにムシロがかかり甚柱はゆがみ甚窓にはすべて板が打ちつけられ甚畳はほとんど腐る一歩手前で甚歩くと濡れたスポンジを踏むような音をたてた曷そのうえ甚焼けた砂のむれるような異臭が甚いちめんにただよっていた曷

だが甚すべては甚気のもちようである曷女の素振りに甚気持をときほぐされて甚こういう一夜も得がたい経験だなどと甚自分に言いきかせたりした曷それに甚うまくすると甚なにか面白い昆虫にぶっつかるかもしれない曷いかにも甚昆虫がよろこんで住みつきそうな環境だった曷

予感に狂いはなかった曷土間につづいた甚いろり端の甚すすめられた席に腰をおろしたとたん甚まわりで雨しぶきのような音がした曷ノミの大群だった曷だがそんなことで驚く彼ではない曷昆虫採集家にはつねに用意がある曷服の内側にＤＤＴをふりこみ甚露出した部分には甚寝るまえに防虫クリﾇﾑをぬりこんでおけばよい曷

甫飯の仕度(したく)をするから甚そのあいだ……盍と女は甚ランプをつかんで甚中腰になりながら甚甫しばらく甚暗いところでしんぼうしておいて下さいね曷盍

甫ランプ甚一つしかないの？盍

甫はい甚あいにくとねえ……盍

困ったように笑うと甚左の頬にえくぼが浮んだ曷目つきをべつにすれば甚なかなか愛嬌のある顔だと思う曷しかしその目つきも甚おそらく眼病のせいだろう曷赤くただれた眼のふちだけは甚いくら化粧してもかくせない曷寝るまえに甚忘れず眼薬もさしておくとしよう……

甫それより甚まず甚風呂にしたいんだけどな……盍

甫風呂……？盍

匍無いんですか？盍
匍わるいけど甚明後日にして下さい曷盍
匍明後日？　明後日になったら甚ぼくはもういませんよ曷盍思わず大声で笑ってしまう曷
匍そうですか……？盍
　女は顔をそむけ甚ひきつったような表情をうかべた曷がっかりしたのだろう曷まったく甚田舎の人間は甚飾り気がない曷彼は甚くすぐったいような気持で甚しきりと唇をなめまわした曷
匍風呂がなければ甚水をあびるだけでもいいんですよ曷とにかく甚体中甚砂まみれでね……盍
匍水も甚あいにくと甚バケツに一杯しかなくなって……なんせ甚井戸まで甚遠いものですから……盍
　あまり悪びれた様子なので甚それ以上言うのはやめにする曷それに甚間もなく甚水あびなどがなんの役にも立たないことを甚いやというほど思い知らされることになったのだ曷
　女が食事をはこんできた曷魚の煮つけに甚貝の吸物だった曷いかにも浜の食事らしく甚それはいいのだが甚食べはじめた彼の上に甚女が番傘をひらいて甚さしかけて来たのである曷
匍なんなの甚それは……？盍なにか甚この地方の甚特別な風習なのだろうか？
匍ええ……こうしないと甚砂が入るんですよ甚ご飯の中に……盍

匍どうして？盍おどろいて天井を見上げたが甚べつに穴があいているわけでもない曷
匍砂がねえ……盍と甚女もいっしょに甚天井に目をやりながら甚匍降ってくるんですよ甚どこからでも……一日掃除しないと甚一寸もつもってしまいます曷盍
匍屋根がこわれているのかな？盍
匍いいえ甚まっさらの葺きたての屋根だって甚あなた甚砂はどんどん入りこんで来てしまいますよ……本当に甚おそろしいったらありゃしない甚木食い虫よりもたちがわるいんだから……盍
匍木食い虫？盍
匍木に穴をあける虫ですよ曷盍
匍そりゃ甚シロアリだろう曷盍
匍いいえ甚これっくらいの甚皮のかたい……盍
匍ああ甚それなら甚ノコギリカミキリだな……盍
匍ノコギリ？盍
匍赤っぽい甚ひげの長いやつだろう？盍
匍いいえ甚からかね色の甚米粒みたいな形ですけど……盍
匍そうか甚それじゃ甚オバタマムシだ曷盍

匍ほったらかしておくと甚これっくらいもある梁（はり）なんかだって甚すぐにぶよぶよに腐らせてしまうんですからねえ曷盍

匍オバタマムシがかい？盍

匍いいえ甚砂ですよ……盍

匍どうして？盍

匍どこからか甚入りこんで来ちゃって甚風の向きのわるい日なんか甚朝晩天井裏にあがって砂とりをしないと甚すぐに天井板がもたないほど甚積ってしまうくらいですから……盍

匍そりゃ甚天井に砂が積っちゃ甚具合わるいだろうな……だからと言って甚砂で梁が腐るってのはおかしいじゃないか曷盍

匍いいえ甚くさります曷盍

匍しかし甚砂ってやつは甚もともと甚乾燥しているものなんだよ曷盍

匍でも甚腐りますね……砂がついたまま甚ほったらかしにしておいたら甚買いたての下駄だって甚半月もたたないで甚融けてしまったって言いますからねえ曷盍

匍わけが分らんな曷盍

匍材木もくさるけど甚いっしょに砂もくさっちゃうんですね……埋まった家の甚天井板をはがしてみたら甚中からキュウリでも出来そうな甚よく肥えた土が出てきたって……盍

甫まさか！盃男は甚口をゆがめて甚乱暴に言い返した曷自分のなかにあった砂のイメ゛ジが甚無知によって冒涜されたような気がしたのだ曷甫ぼくは甚砂のことについちゃ甚これでも甚ちょっとばかり甚くわしいんでね……いいですか甚砂ってやつは甚こんなふうに甚年中動きまわっているんだ……その甚流動するってところが甚砂の生命なんだな……絶対に甚一カ所にとどまってなんかいやしない……水の中だって甚空気の中でだって甚自由自在に動きまわっている……だから甚ふつうの生物は甚砂の中ではとうてい生きのびられやしません……腐敗菌だって甚その点は甚同じことです……まあ甚言ってみれば甚清潔の代名詞みたいなもので甚防腐の役目はするかもしれないが甚腐らせるだなんて甚とんでもないことだ……まして甚奥さん甚砂自身が腐るだなんて……第一甚砂ってやつは甚れっきとした鉱物なんですよ曷盃

女は体を固くして甚黙りこんでしまった曷女が支えている傘の下で甚男もせかされるように甚あとは無言で食べおえる曷傘の表面には甚指で字が書けるほど甚砂がつもっていた曷

それにしても甚このしめっぽさは甚やりきれない曷いや甚むろん砂がしめっぽいのではなくて甚自分の体がしめっぽいのだ曷屋根の上で風が鳴っていた曷タバコを出そうとすると甚ポケットの中も甚砂だらけだった曷火をつけるまえから甚タバコの苦さが分るような気がした曷

殺虫瓶の中から甚虫をとりだす曷固くならないうちに甚ピンでとめて甚足のかたちだけでもそろえておこう曷外の洗い場で甚女が食器を洗う音をたてている曷……この家には甚ほかには誰も住んでいないのだろうか？

女は戻ってくると甚黙って部屋の隅に床をのべはじめた曷ここにおれの床をとってしまったら甚自分は一体どこに寝るつもりだろう？　当然甚あのムシロの向うの甚奥の部屋ということになる曷ほかに部屋らしいものはないのだ曷しかし甚家のものが奥に寝て甚客に入口の部屋をあたえるというのも甚ずいぶん変ったやり方だ曷それとも甚あの奥の部屋には甚身動きのできない重病人でも寝ているというのだろうか？……そうかもしれない曷たしかに甚そう考えたほうが甚ずっと自然だ曷第一甚女一人のところに甚わざわざ行きずりの旅行者を世話したりするはずがない曷

甭誰か甚ほかの人たちは？盍

甭誰かって……？盍

甭家族の人……盍

甭いいえ甚私一人なんですよ曷盍女も甚意識していたらしく甚急にとってつけたような不器用な笑い声をたて甚甭本当に甚砂のおかげで甚ふとんまでがこんなにじとじと甚しめっぽくなっちまって……盍

甭それじゃ甚御主人は？盍

甫はい甚去年の大風で……盒敷きおえたふとんの端を甚叩いたり甚のばしたり甚しないでもいい動作にまぎらせながら甚甫大風というと甚この辺のは甚そりゃすごいんですよ……砂がごうごう甚滝みたいに流れだしましてね甚うっかりしていると甚一晩のうちに甚一丈も二丈もつもってしまいます……盒

甫二丈というと甚六メ𠮟トルか……盒

甫そんなときには甚もう甚いくら砂掻(か)きなんかしたって甚とても追いつくもんじゃありません曷でも甚トリ小舎(ごや)があぶないっていうんで甚中学に行っていた娘と一緒に甚とび出して行って……私は私で甚母屋の見まわりで甚手がはなせませんでしょう……それっきり甚やっと夜が明けて甚風がおさまってから行ってみましたら甚小舎ごとすっぽり甚跡形もなくなっちまっていて……盒

甫埋まってしまったんですか？盒

甫ええ甚きれいさっぱり……盒

甫そりゃひどい……恐ろしいもんだな甚砂ってやつは……そりゃひどいや……盒

ふいにランプの火が消えかかった曷

甫砂ですよ曷盒

女が甚四つん這いになって体をのばし甚笑いながらランプの芯を甚指ではじいた曷すぐまた明るく燃えだした曷女はそのままの姿勢で甚ランプの火を見つめながら甚いつまでも作っ

たような笑いをうかべている曷どうやら甚わざとえくぼを見せつけているのだと気づき甚思わず体を固くする曷身近な死について語った直後だっただけに甚よけいみだらに思われた曷

5

匍おうい甚もう一人分甚カンカラとスコップ持ってきてやったぞう！盒

　メガホンをつかっているのかもしれない甚距離感があるわりに甚はっきりした声が甚緊張を破った曷つづいて甚何かブリキ製品が甚ぶっつかりあいながら落ちてくる音がした曷こたえて甚女が甚体をおこした曷

　なにか甚後ろめたいような甚苛立たしさを感じながら甚

匍なんだ甚やっぱり甚誰か甚いるんじゃないか！盒

匍まあ甚うまいこと言って……盒くすぐられたように甚女が甚体をよじってみせる曷

匍しかし甚いまたしかに甚もう一人分と言っていたぞ曷盒

匍ああ甚あれ……あれは甚お客さんのことですよ曷盒

匍ぼく？……ぼくが甚どうして甚スコップなんか……？盒

匍いいんですよ甚気になさらないで……本当に甚おせっかいなんだから甚あいつらときたら……盒

匍なにか甚勘違いしたのかな？盒

しかし女は甚それには答えず甚くるりと膝で体をまわして甚土間に降りる曷

匍お客さん甚まだランプ使いますか？盒

匍そりゃ甚あるにこしたことはないが……そっちで甚いるの？盒

匍いえ甚私のほうは甚どうせ馴れた仕事ですから……盒

田植えに使うような編笠をかぶり甚女はすべるように甚暗闇の中へ出て行った曷

男は首をかしげて甚新しいタバコに火をつける曷ひどく納得のいかない気分だった曷立上って甚そっと甚ムシロの向うをのぞいてみることにした曷たしかに甚部屋はあったが甚床はなかった曷床のかわりに甚砂が甚なだらかな力ヅブをえがいて甚壁の向うから落ちかかって来ていた曷思わず甚ぞっとして甚立ちすくむ曷……この家はもう甚半分死にかけている……流れつづける砂の触手に甚内臓を半分くいちぎられて……平均1/8m.m.という以外には甚自分自身の形すら持っていない砂……だが甚この無形の破壊力に立ち向えるものなど甚なに一つありはしないのだ……あるいは甚形態を持たないということこそ甚力の最高の表現なのではあるまいか……

しかし甚すぐに現実に引戻された曷この部屋が使えないとすると甚女は一体甚どこで寝るつもりなのだろう？　板壁の向うで甚しきりと女の動きまわる気配がしている曷腕時計の針は甚八時二分をさしていた曷こんな時間に甚どんな用があるというのだろう？

水をさがしに甚土間におりた曷水甕(みずがめ)の底で甚ほんのわずかの水が甚赤い金気をうかべている曷それでも甚口の中の砂をがまんするよりは甚ましだった曷残りの水で甚顔を洗い甚首すじを拭くと甚かなり気分もよくなった曷

土間の下を甚冷たい風が流れていた曷どうやら表のほうがしのぎやすそうだ曷砂に埋もれて動かなくなった引戸をくぐって甚外に出る曷道から吹きおろす風は甚たしかにずっと涼しくなっていた曷その風に乗って甚オﾀﾞト三輪のエンジンらしい音が聞えていた曷そのほか甚耳をすますと甚さまざまな人の気配もして甚気のせいか甚昼間よりもむしろ活気が感じられた曷それともこれは甚海鳴りの音だろうか？　空には甚星が甚ずっしりとたれこめていた曷

ランプの光に気づいて甚女が振向いた曷女は器用にスコップを使って甚石油罐(かん)のなかに砂をすくいこんでいた曷その向うに甚黒い砂の壁が甚のしかかるようにそそり立っている曷あの上が甚昼間甚虫をさがして歩いた場所だろう曷二つの石油罐が甚いっぱいになると甚女は両手に下げて甚こちらにやって来た曷すれちがいざま甚上眼づかいに甚甫砂がねえ……盍と甚鼻にかかった声をかける曷裏側の道の甚梯子をかけてあったあたりに甚石油罐の砂をあけた曷手拭の端で甚汗をぬぐう曷あたりは甚搬(はこ)んだ砂で甚もうかなりの山になっていた曷

甫砂掻きだね？盍

甫いつまでやっても甚きりなしでしょう……盍

こんどは甚すれちがいざま甚あいているほうの指先を甚くすぐるように甚彼の脇腹におしこんできた曷おどろいて甚とびのきながら甚あぶなくランプをとり落しそうになる曷このまま甚ランプを持ちつづけていようか甚それとも地面において甚くすぐり返してやるべきか甚いきなり思いがけない選択をせまられて甚ためらった曷けっきょく甚現状維持が勝をしめ甚ランプを手にしたまま甚しかし自分でも意味のわからぬ薄笑いに顔をこわばらせ甚またスコップを使いはじめた女のほうに甚ぎこちない足どりで近づいていく曷近づくにつれて甚女の影が甚砂の壁面いっぱいにひろがった曷

甫だめよ盍と甚背をむけたまま甚息切れのした声で甚甫モッコが来るまでに甚あと六杯は甚搬んでしまわなけりゃ……盍

男の表情が固くなった曷せっかくおさえていた気持を甚むりやり掻きたてられたようで甚不愉快だったのだ曷しかし甚彼の意志とは無関係に甚何かが血管のなかで勝手にふくれ上っていく曷まるで皮膚にはりついた砂が甚血管にしみとおり甚内側から彼の情感をそぎ落していくようだった曷

甫じゃあ甚一つ甚ぼくも手伝うとするか曷盍

甫いいんですよ……いくらなんでも甚最初の日からじゃ甚わるいから……盍

甫最初の日から？……まだそんなことを……ぼくがいるのは甚今夜だけだよ曷盍

甫そうですかねえ……盍

匍そんな暇な御身分じゃないからね……さ甚そのスコップを貸した甚貸した！盒
匍お客さんのスコップなら甚そっちにありますけど……盒
　なるほど甚入口に近い軒下に甚スコップが一つと甚取手のついた石油罐が二つ甚べつに並べてある曷さっき甚もう一人分と言って甚道の上から落していったやつにちがいない曷あまり甚手まわしがよすぎて甚見すかされたような感じだった曷と言っても甚一体なにを見すかされたのかは甚自分でもまだ分らない曷とにかく甚あまりに人を見くびったやり方だと思ったし甚薄気味もわるかった曷スコップの柄は甚手垢(てあか)で黒く光った甚太い瘤(こぶ)だらけの雑木だった曷手を出す気持は甚すでに失せていた曷
匍ほら甚もう甚モッコが隣まで来ちゃいましたよ曷盒
　彼のためらいには気づかなかったらしく甚女の声は甚はずんでいた曷はずんでいたし甚今までにない信頼感もこめられていた曷そう言われてみると甚さっきからしていた人の気配が甚すぐそばまで近づいて来ている曷呼吸のそろった甚短い掛け声が甚なんどか繰返されると甚しばらく含み笑いのまじった低いつぶやきがつづき甚すぐまた掛け声になる曷その労働のリズムが甚急に彼の気持を軽くさせた曷こうした素朴な世界では甚泊り客がスコップをにぎったところで甚べつにどうということはあるまい曷変に甚ためらったりするほうが甚どうかしているのだ曷踵で甚砂にくぼみをつけ甚倒れないようにしてランプを置いた曷
匍どこでもいいから甚要するに甚砂を掘ればいいんだね？盒

甫どこでもってわけじゃないけど……盍
甫じゃ甚この辺かな？盍
甫なるべく甚崖からまっすぐ甚掘りおろすようにして下さいね曷盍
甫どこの家でも甚砂掻きは甚こんな時間なの？盍
甫やはり甚夜のほうが甚砂がしめっていて甚仕事がやりいいんですね……砂が乾いていると甚上から盍と甚空を見上げて甚甫いつなんどき甚どかっと来るか分りませんし……盍
　見ると甚なるほど砂の庇（ひさし）が甚ちょうど崖のふちにつもった雪のように甚ぼってりとせり出して来ている曷
甫危いじゃないか！盍
甫大丈夫ですよ曷盍嬌声（きょうせい）にちかい笑い声をたて甚甫ほら甚霧がわきはじめている……盍
甫霧……？盍
　そう言えば甚いつのまにか甚一面の星がむらになってにじみはじめていた曷もつれあった膜のようなものが甚空と甚砂の壁との境のあたりを甚不規則に渦まきながら甚方向のない移動をはじめている曷
甫砂も甚もうたっぷり甚露をすっていますからね……塩っけのある砂は甚露を吸うと甚糊みたいに固まってしまうんですよ……盍
甫まさか……盍

甫あら甚海岸の波のひいたあとなんか甚戦車だって平気で通れますからね曷畚

甫そんなものかねえ……畚

甫本当ですよ……だから甚夜のあいだに甚あの出っ張りがだんだん大きくなってしまってね……風向きのわるい日なんか甚本当に甚こんなふうに甚きのこの傘みたいに甚たれ下ってきてしまうんです……それが甚午後になって甚乾ききると甚いっぺんにどかっと……それはもう甚当りどころがわるいと甚細い柱なんか甚ひとたまりもないんですから……畚

女の話題は甚範囲が狭い曷しかし甚いったん自分の生活の圏内に入ると甚たちまち見ちがえるほど活気をおびて来る曷それはまた甚女の心にたどりつく通路でもあるのだろう曷べつに甚その道に甚とくにひかれたわけでもなかったが甚女の言葉は甚厚いモンペの生地の下にかくされた甚その肉体を感じさせるほどのはずみを持っていた曷

つい男も甚足もとの砂に甚先のめくれたスコップの刃を甚力まかせにつき立てていた曷

6

二度目の石油罐を搬びおえたとき甚声がかかって甚道の上で甚カンテラがゆれた曷

女が甚つっけんどんとも思える調子で甚

甫モッコだ！　お客さん甚こっちはもういいから甚あっちの方を手伝って下さい！畚

梯子の上に埋めこんであった甚俵の用途が甚はじめて呑込めた曷そこに口ﾌﾟプをあてがって甚モッコの上げ下ろしをするのである曷モッコの係は甚四人ずつ甚ぜんぶで二甚三組あるようだった曷大体甚若い連中で編成されているらしく甚てきぱきと甚いかにも調子に乗った仕事ぶりだ曷一組のモッコがいっぱいになると甚もう次のモッコが待っているという具合である曷六回で甚盛上げてあった砂が甚平らになってしまった曷

甫大変だね甚あの連中も曷盍

シャツの袖で汗をぬぐいながら甚男の口調は好意的だった曷青年たちが甚彼が手伝っていることに対して甚ひやかしめいたこと一つ言わず甚きびきびと甚仕事に熱中している様子に甚好感がもてたのだ曷

甫はい……うちの部落じゃ甚愛郷精神がゆきとどいていますからねえ……盍

甫何精神だって？盍

甫郷土を愛する精神ですよ曷盍

甫そいつはいいや！盍

男が笑うと甚女も笑った曷しかし甚笑ったわけは甚自分でもよく分らなかったらしい曷

遠くで甚オﾀﾞト三輪の走りだす音がした曷

甫さてと甚一服するか……盍

甫だめだめ甚一 とまわりしたら甚またすぐモッコがやってくるんですから……盍

匍いいじゃないか甚あとは甚また明日で……盍
　かまわず先にたって甚土間のほうに歩きかけたが甚女はいっこうについてくる様子もない曷
匍そうはいきませんよ曷家のまわりだけでも甚ぐるっと一とあたり甚やってしまわなけりゃ……盍
匍ぐるりとだって？盍
匍だって甚家をつぶされちゃ甚かないませんからねえ……砂は甚どこからだって甚降ってくるんだから……盍
匍そんなことをしていたら甚朝までかかっちゃうぞ曷盍
　すると女は甚まるで挑まれでもしたように甚急に体をくねらせて駈け出していき甚どうやらそのまま崖の下に戻って甚また仕事をつづけるつもりらしいのだ曷まるでハンミョウ属の手口だと思う曷
　そうと分ったら甚もうそんな手にはのるものか……
匍呆れたもんだね甚毎晩こんなふうなの？盍
匍砂は休んじゃくれません……モッコも甚オ殳ト三輪も甚夜っぴて動いていますよ曷盍
匍そりゃそうだろう……盍それはそうにちがいない曷砂は決して休んだりはしてくれまい曷男はひどくまごついてしまう曷小さいと思って何気なく踏みつけた甚蛇のしっぽが甚意外に

大きく甚気がつくと甚相手の頭が自分の後ろにあったと言うような甚とまどいだ曷
匍しかし甚これじゃまるで甚砂掻きするためにだけ生きているようなものじゃないか！盍
匍だって甚夜逃げするわけにもいきませんしねえ……盍
　男はますますうろたえる曷そんな生活の内側にまで甚かかわり合いになるつもりはなかったのだ曷
匍出来るさ！……簡単じゃないか……しようと思えば甚いくらだって出来るよ！盍
匍そうはいきませんよ……盍女は甚スコップをつかう動作に呼吸を合わせて甚さりげなく甚匍部落がなんとか甚やっていけるのも甚私らがこうして甚せっせと砂掻きに甚せいをだしているおかげなんですからね……これで甚私らが甚ほうりだしてしまったら甚十日もたたずに甚すっかり埋まっちまって……次は甚ほら甚同じように裏手のならびに甚お鉢がまわっていくんです……盍
匍これはどうも甚恐れいった美談だね……それで甚あのモッコの連中も甚あんなに熱心だったというわけか曷盍
匍そりゃ甚役場から甚日当はもらってはいますけど……盍
匍そんな金があるくらいなら甚なぜもっとちゃんとした砂防林をつくらないんだ？盍
匍計算してみたら甚やはりこのやり方のほうが甚ずっと安上りらしいんですね……盍

匍やり方？……やり方だって！盍ふいに腹立ちがこみ上げてくる曷女をしばりつけているものにも甚腹が立ったし甚しばられている女にも腹が立ったのだ曷匍そんなにまでして甚どうしてこんな部落にしがみついていなけりゃならないのさ？　さっぱりわけが分らんね……砂ってやつは甚そんなに生易しいものじゃないんだ！　こんなことで甚砂にさからえると思ったら甚大間違いさ曷下らん！……こんな下らんことは甚もうやめだ甚やめだ……まったく甚同情の余地もありゃしない！盍

　ほうりだした石油罐の上に甚かさねてスコップをなげつけると甚女の表情をみきわめもせずに甚さっさと部屋に引返して来てしまった曷

　寝苦しかった曷女の気配に甚耳をそばだてながら甚あんなふうに大見得（おおみえ）をきってみせたりしたのも甚けっきょくは女をしばりつけているものへの嫉妬であり甚女が仕事をほうりだして甚寝床へしのんで来てくれることへの甚催促ではなかったかと甚多少疚（やま）しい気持がしないでもない曷事実甚彼の感情のたかぶりは甚単に女の愚かさにたいする腹立ちというような単純なものではなかったようだ曷なにかもっと底知れないものがあった曷ふとんは甚ますますしめっぽく甚砂は甚ますます肌にべたつく曷あまりにも不当だし甚あまりにも奇怪だ曷だからと言って甚スコップをなげだして来たことで甚自分を責める必要もないだろう曷そこまで義務を負ういわれはない曷そうでなくても甚負わなければならない義務は甚すでにあり余る

ほどなのだ曷こうして甚砂と昆虫にひかれてやって来たのも甚結局はそうした義務のわずらわしさと無為から甚ほんのいっとき逃れるためにほかならなかったのだから……

なかなか寝つけなかった曷

女の動きまわる気配は甚休みなくつづいている曷モッコが何度か近づき甚また遠ざかって行った曷こんなことでは甚明日の仕事にさしつかえる曷明日は甚夜明けと同時に起きて甚まる一日を有効につかうつもりだ曷寝ようとすればするほど甚かえって気が立ってくる曷眼がひりつきはじめた曷涙も甚またたきも甚たえまなく降りつづける砂には甚さからいきれないらしい曷手拭をはらって甚顔をつつんだ曷息苦しかったが甚この方がまだましだ曷

なにか甚他のことを考えよう曷眼をとじると甚息づくように流れる甚幾本もの長い線が浮んでくる曷砂丘を動く甚風紋だ曷半日甚見つづけていたために甚眼の奥にまで焼きついてしまったのだろう曷あの砂の流れが甚かつては繁栄した都市や大帝国をさえ甚亡ぼし甚呑みこんでしまったことがあったのだ曷口ﾀﾏ帝国の甚たしか甚サブラﾀﾀと言ったっけ……それから甚オマﾀﾙﾄﾊイヤムにうたわれている甚なんとかいう町も……そこには甚仕立屋があったり甚肉屋があったり甚雑貨屋があったりして甚それらの上に決して動かない道々が甚網の目のようにからみつき甚その道筋一本変えるにしても甚役所をめぐって甚何年もの争いをしなければならなかったのだ……だれ一人甚その不動を疑ってみさえしなかった甚古い

町々……しかし甚それらも甚直径1/8m.m.という甚流動する砂の法則には甚ついにうちかつことが出来なかったのだ曷

砂……

砂のがわに立てば甚形あるものは甚すべて虚しい曷確実なのは甚ただ甚一切の形を否定する砂の流動だけである曷しかし甚薄い板壁一枚へだてた向うでは甚相も変らず甚砂掻きをつづける女の動作がつづいていた曷あんな女の細腕で甚いったい何が出来るというのだろう曷まるで甚水をかきわけて甚家を建てようとするようなものじゃないか曷水の上には甚水の性質にしたがって甚船をうかべるべきなのだ曷

その思いつきは甚女が砂を掻く音の甚奇妙に強制的な圧迫感から甚急に彼を解き放ってくれた曷水に船なら甚砂にも船でいいはずだ曷家の固定観念から自由になれば甚砂との闘いに無駄な努力をついやす必要もない曷砂に浮んだ甚自由な船……流動する家甚形のない村や町……

もちろん砂は甚液体ではない曷だから浮力に期待するというわけにはいかない曷たとえ甚砂より比重の軽い甚コルク栓のようなものでも甚ほうっておけば甚自然に沈んでしまう曷砂に浮べる船は甚もっとちがった性質をもっていなければならないのだ曷たとえば甚ゆれ動く樽のような形をした家……ほんのわずか甚廻転すれば甚かぶった砂をはらいおとし甚すぐまた表面に這い上る……もっとも甚家全体がしじゅう廻転のしつづけでは甚住んでいる人間が

不安定でやりきれまい……そこで甚一工夫して甚樽を二重にする……内側の樽は甚軸を中心に甚底がつねに重力の方向にむかっているようにすればよい……内側は固定したまま甚外側だけがまわるのだ……大時計の振子のように甚ゆれ動く家……ゆりかごの家……沙漠の船……

そして甚それらの船が集まって出来た甚振動しつづける甚村や町……

いつの間にやら甚まどろんでいた曷

7

錆(さ)びたブランコをゆするような甚ニワトリの声で甚目をさました曷せわしい甚ささくれだった目覚めだった曷夜が明けたばかりのような感じだったが甚腕時計の針は甚もう十一時十六分をまわっている曷そう言えば甚この光線の色は甚もう真昼の色だ曷ほの暗いのは甚ここが甚穴の底で甚まだ日差しがとどかないためなのだろう曷

あわててはね起きる曷顔からも甚頭からも甚胸からも甚つもった砂が甚さらさらと流れおちた曷唇と甚鼻のまわりには甚汗でかたまった砂が甚こびりついていた曷手の甲で甚こそげおとしながら甚こわごわ甚またたきを繰返す曷熱くほてった甚ざらざらのまぶたから甚とめ

どなく涙があふれだした曷しかし甚涙だけでは甚めやにに塗りこめられた砂を洗いおとすには甚まだ不充分だった曷

一滴の水をたよりに甚土間の水甕にむかって歩きだす曷ふと甚イロリの向うで寝息をたてている甚女に気づいた曷男は甚まぶたの痛みも忘れて甚息をのんだ曷

女は甚素裸だったのだ曷

涙でにごった視界のなかに甚女は影のように浮んで見えた曷畳の上に甚じかに仰向けになり甚顔以外の全身をむきだしにして甚くびれた張りのある下腹のあたりに甚軽く左手をのせている曷ふだん人が隠している部分は甚そんなふうにむきだしにしているのに甚逆に甚誰もが露出をはばからない甚顔の部分だけを甚手拭で隠しているのだ曷むろん甚眼と呼吸器を砂から守るためだろうが甚そのコントラストが甚裸体の意味を甚いっそうきわ立たせているようだった曷

しかも甚その表面が甚きめの細かい砂の被膜で甚一面におおわれているのだ曷砂は細部をかくし甚女らしい曲線を誇張して甚まるで砂で鍍金(めっき)された甚彫像のように見えた曷ふいに甚舌の裏側から甚ねばりけのある唾液が甚ふきだしてくる曷しかしその唾を飲込むわけにはいかない曷唇と歯のあいだにたまった砂が甚その唾を吸って甚口いっぱいにひろがるのだ曷土間にむかって甚唾をはいた曷しかし甚いくら唾をはいても甚口のざらつきはなおらなかっ

た曷口が甚からからになっても甚まだ砂は残っていた曷まるで歯のあいだから甚次々と新しい砂がつくられていくようだった曷

さいわい甚水甕の水は甚新しく口元まで補充されていた曷口をすすいで甚顔を洗うと甚生き返ったような気持がした曷そのときくらい甚水の不思議を甚痛切に感じたことはない曷砂と同じ鉱物でありながら甚どんな生物よりも甚やさしく体になじんでくれる甚透明で単純な無機物……ゆっくりと甚喉(のど)の奥に流しこみながら甚石を食う獣のことを想像したりする……

あらためて甚女の方を振向いてみた曷しかし甚それ以上に甚近づいてみる気はしない曷砂にまぶされた女は甚視覚的ではあっても甚あまり触覚的とは言いがたい曷

昨夜の興奮と苛立(いらだ)ちも甚夜が明けてみると甚まるで嘘のようだった曷むろん甚当座の甚いい語り種(ぐさ)にはなってくれるだろう曷すでに思い出になったものを甚たしかめるような目つきで甚男はあらためて周囲を見まわし甚急いで身仕度にとりかかる曷シャツも甚ズボンも甚砂をふくんで甚ずっしりと重かった曷だが甚そんなことにはかまっていられない曷服のせんいから甚すっかり砂をふるい落してしまうなど甚頭のフケをこそげおとしてしまう以上に甚困難なことだった曷

靴も甚砂の中に甚埋まっていた曷

女に甚何か一言甚言いおいていくべきだろうか？……しかし甚女を起すのは甚かえって恥をかかすようなものだ曷では甚宿賃はどうしよう？……帰りに甚組合の事務所によって甚昨

日ここを紹介してくれたあの老人に甚かわりに受取ってもらうことにすればいい曷

足音をしのばせて甚外に出た曷

煮え立つ水銀のような太陽が甚砂の壁のふちにかかって甚穴の底をじりじりと焦がしはじめていた曷その突然のまぶしさに甚あわてて目をふせたが甚次の瞬間甚もうそのまぶしさも忘れ甚ただじっと正面の砂の壁を凝視するばかりだ曷

信じがたいことだった曷昨夜あったはずのところから甚縄梯子が消えていたのだ曷

目標の俵は甚半ば砂に埋まりながらも甚ちゃんとそこに見えている曷場所の記憶に間違いはない曷それとも甚梯子だけが甚砂の中に呑まれてしまったのだろうか？……とびかからんばかりに甚駈けよって甚砂の中に腕をつっこみ甚かきまぜる曷砂は無抵抗にくずれ甚流れおちた曷しかし甚針をさがしているわけではないのだから甚一度ためして駄目なら甚何度くりかえしたって甚同じことだ曷……こみ上げてくる不安を甚おし殺しながら甚男は呆然と甚あらためて砂の傾斜のけわしさを見なおすのだった曷

どこか甚よじのぼれそうな所はないだろうか？　家のまわりを甚二甚三度まわってみた曷海に面した北側は甚家の屋根にのぼれば甚穴のふちまでの距離はいちばん短くなるが甚それでもまだ十メﾛトル以上はあったし甚それにどこよりも急だった曷そのうえ甚重たそうにたれ下っている砂のひさしが甚いかにもあぶなっかしげだ曷

比較的甚傾斜がゆるやかに見えたのは甚円錐の内側のような曲面をもった甚西側の壁だった曷希望的観測をすれば甚五十度前後甚うまくすれば甚四十五度程度かもしれない曷注意深く甚最初の一歩を甚たしかめてみる曷一歩すすむと甚半歩ずり落ちた曷とにかく甚努力すれば甚登って行けそうである曷

五甚六歩までは甚なんとか思いどおりにいった曷それから甚足が甚砂の中にめり込みはじめた曷進んでいるのか甚いないのか甚分らぬうちに甚膝の上まですっぽり埋まって甚身動きがとれなくなってしまう曷それから先は甚四つん這いになって甚がむしゃらによじ登ろうとした曷焼けた砂が甚手のひらを焦がした曷全身から汗がふきだし甚その汗に砂がまみれ甚もう眼も開けていられない曷やがて甚足の筋肉がひきつって甚動けなくなってしまった曷

中休みのつもりで甚息をつぎ甚もうかなり来たはずだと思って甚薄眼をあけてみると甚おどろいたことに甚まだ五メﾛﾄルと上ってはいないのだ曷一体なにをもがきつづけていたのだろう？　おまけに甚下から見上げたときの甚二倍もの勾配にみえるのだ曷さらに甚そこから上の光景は甚もっとひどかった曷彼は甚よじのぼっているつもりで甚どうやら砂の壁の中に甚ただくいこむ努力をしていたらしい曷顔のすぐ上に甚砂のひさしが甚行手をさえぎっていた曷

やけになって甚もう一ともがき甚頭の上の砂に手をのばした瞬間甚砂の圧力が甚急になくなった曷砂から甚吐き出されて甚穴の底にころげ落ちた曷左肩が甚割箸を割るような音をた

てた曷しかしべつに痛みは感じない曷彼にしがみつかれた傷跡をいやそうとでもいうように甚しばらく甚砂の壁の表面を甚細かな砂が無表情にさらさらと流れ落ち甚間もなく止んだ曷それにしても甚ひどくちっぽけな傷跡だった曷

おびえるのは甚まだ早い曷

叫びだしそうになるのを甚じっとこらえて甚ゆっくり小屋に戻った曷女はまだ甚身じろぎもせずに眠っていた曷はじめは静かに甚それから次第に大声で甚女を呼んでみる曷女は甚返事のかわりに甚うるさそうに甚ただ寝返りをうった曷

女の体から砂が流れて甚肩と甚腕と甚脇腹と甚腰の一部の甚素肌がのぞいた曷だが甚それどころではない曷近づきざま甚顔の手拭を甚ひきはがした曷顔は一面むらだらけで甚砂に包まれた体とくらべると甚不気味なくらい甚生々しかった曷昨夜ランプの光で甚いやに色白に見えたのは甚やはり化粧のせいだったらしい曷その白いものが甚ぼろぼろになって甚はげかけている曷そのはげかたは甚ちょうど卵をつかってない安物のカツレツの感じで甚案外その白いものは甚本物の小麦粉だったのかもしれない曷

やっと甚女は甚まぶしそうに薄目をあけた曷その肩をつかんで甚ゆすりながら甚男は哀願するように早口で甚

匍おい甚梯子がないんだよ！　一体どこから上ればいいんだい？　梯子がなかったら甚あんなとこ甚登れやしないじゃないか！盃

女は甚あわてた仕種で甚手拭をひろうと甚思いがけない勢いで甚二甚三度甚顔をはたき甚それからくるりと背をむけ甚うつぶせになった曷はじらいの動作なのだろうか曷あまりに場ちがいすぎた曷男は甚せきを切ったようにわめきだした曷

冂冗談じゃないよ！　早く梯子を出してくれないと困るじゃないか！　ぼくは急いでいるんだ！　一体甚どこに隠しっちまったんだい？　ふざけるのは甚いいかげんにして甚さっさと出してくれよ！盍

それでも相手は甚答えなかった曷同じ姿勢のまま甚ただ首を左右にふりつづけるばかりである曷

ふいに甚男は体を固くする曷視線は虚ろに甚焦点を失い甚呼吸も甚ひきつり甚ほとんど止りかけた曷とつぜん甚自分の詰問（きつもん）の無意味さをさとったのだ曷そう甚あれは甚縄梯子だった……縄梯子には甚自分で立つ力はない……たとえ甚手に入れたところで甚下からかけるわけにはいかないのだ曷と言うことは甚あれを外したのが甚女ではなく甚別の誰かが甚道の上からとりのぞいたことを意味してはいまいか……砂でよごれた不精ひげが甚急にみすぼらしく甚目立ちはじめた曷

すると甚女のこの仕種と沈黙は甚とほうもなく恐ろしい意味をもってくる曷まさかと思いながらも甚心の奥底で甚いちばん案じていた不安が甚とうとう的中してしまった曷縄梯子の撤去が甚女の了解のうちに行われたことの甚これは明白な承認にほかなるまい曷女は甚まぎ

れもなく共犯者だったのだ曷当然甚この姿勢も甚はじらいなどという甚まぎらわしいものではなく甚どんな刑罰でも甘んじようという甚罪人甚もしくは生け贄(にえ)の姿勢にちがいない曷まんまと策略にかかったのだ曷蟻地獄の中に甚とじこめられてしまったのだ曷うかうかとハンミョウ属のさそいに乗って甚逃げ場のない沙漠の中につれこまれた甚飢えた小鼠同然に……

跳ね上って甚戸口に駈出し甚もう一度外を見た曷風が出ていた曷太陽は甚穴のほとんど真上にあって甚焼けた砂から甚濡れた生フィルムのようなかげろうが立ちのぼっていた曷そして甚砂の壁は甚ますます高く甚彼の筋肉と関節に甚抵抗の無意味さを教えるようなさとり顔で甚そそり立っている曷熱気が肌を刺した曷急激に気温がのぼりはじめていた曷

とつぜん甚狂ったように甚叫びだす曷なんと言えばいいのか分らないので甚意味のある言葉にはならない曷ただ甚声をかぎりに甚ありったけの力でわめくのだ曷そうすればこの悪夢がおどろいて目をさまし甚思わぬ失態をわびながら甚彼を砂の底から甚はじき出してくれるとでもいうように曷だが甚出しつけない声は甚いかにもかぼそく甚弱々しかった曷おまけに甚途中で砂に吸われ甚風に吹きちらされて甚どこまでとどくものやらも心もとない曷

ふいに甚すさまじい響きがおこって甚彼の口をふさいだ曷昨夜の女の言葉どおり甚水分を失った甚北側の砂のひさしが甚くずれ落ちて来たのだ曷家全体が甚むりやり捩(ね)じまげられたような甚哀れっぽい悲鳴をあげた曷それから甚苦しそうに甚軒や壁の隙間から甚さらさらと

灰色の血をこぼしはじめる曷男は口の中を唾液でいっぱいにして甚ふるえだした曷まるで甚撃ちくだかれたのが自分自身だったように……

だが甚それにしても甚ありえないことだ曷あまりにも常軌を逸した出来事だ曷ちゃんとした戸籍をもち甚職業につき甚税金をおさめていれば甚医療保険証も持っている甚一人前の人間を甚まるで鼠か昆虫みたいに甚わなにかけて捕えるなどということが甚許されていいものだろうか曷信じられない曷おそらく何かの誤解なのだ甚誤解にきまっている曷誤解とでもいうよりほかに甚考えようがない曷

第一甚こんなことをしたって甚なんの役にも立ちはしないではないか曷おれは甚馬や牛じゃないのだから甚意志に反して甚むりやり働かせるわけにはいかない曷労働力として役立たないとなれば甚おれを砂の壁の中に閉じこめてみたところで甚なんの意味もないわけだ曷女にしたって甚とんだ厄介者を甚くわえこんだというだけのことになる曷

しかし……なぜか甚確信はもてなかった……しめつけるように甚彼をとりまく甚砂の壁を見ていると甚さっきの甚よじ登ろうとしてしたみじめな失敗が甚いやでも思い出されてくる……もがくばかりで甚なんの効果もない甚全身を麻痺させるような無力感……ここはもう甚砂に侵蝕されて甚日常の約束事など通用しなくなった甚特別の世界なのかもしれない……疑えば甚疑う材料はいくらでもあるのだ……たとえば甚彼のために甚あらたに石油罐とスコップが用意されたことが事実なら甚知らぬまに縄梯子がとりはらわれていたことも事

実だし甚また甚女が一言の弁明もせず甚薄気味のわるいほどの素直さで甚易々(いい)として生け贄の沈黙に甘んじていることも甚事態の危険性を裏づけていると考えられはしまいか？そう言えば甚昨夜甚女がくりかえし甚いかにも彼の永い逗留(とうりゅう)を前提にしたような口のききかたをしたのも甚単なる言いちがえなどではなかったのかもしれない曷

つづけて小さな砂なだれがあった曷

男は甚落着かぬげに甚小屋の中にとって返した曷うつぶせになったままの女のそばに甚まっすぐ近づくと甚はずみをつけて甚いきなり右手を振上げた曷やり場のない感情が甚眼の奥で甚身もだえしながら甚跳ねまわっている曷だが甚急に虚脱したように甚せっかく振上げた腕を甚そのまま途中でおろしてしまうのだ曷裸の女を甚平手でうてば甚なるほど悪い気持はしないかもしれない曷しかし甚それではまるで甚相手のつくった筋書どおりに動いてしまうようなものではないか曷相手もそれを待ちうけているのだ曷罰とは甚とりもなおさず甚罪のつぐないを認めてやることにほかならないのだから曷

女に背をむけ甚落ち込むようにあがりがまちに腰をおろして甚頭をかかえこんだ曷声に出さずに甚うめきはじめる曷たまった唾を甚飲込もうとして甚喉にこばまれ甚うろたえる曷喉の粘膜は甚とくべつ砂の味と臭いに敏感らしく甚いつまでたっても慣れてくれないのだ曷唾は甚泡だらけの褐色のかたまりになって甚唇の端からふきだしてきた曷唾をはいてしまうと甚砂のざらつきが甚よけいひどく感じられる曷砂をはきだそうとして甚舌の先で甚唇の裏

をなめまわし甚唾をはきつづけるのだが甚きりがない曷しまいに甚口の中がからからになって甚炎症でもおこしたように甚ひりついた曷

　こんなことをしていても仕方がない曷とにかく甚女に言って甚もっと詳しい事情を説明させるとしよう曷事態がはっきりしさえすれば甚おのずと打つ手もきまるはずだ曷打つ手がないなどということはありえない曷そんな馬鹿なことが甚あってたまるものか……だが甚何を言っても甚女が答えてくれなかったりしたらどうしよう……それこそいちばん恐ろしい返答だった曷しかも甚その可能性はじゅうぶんにある曷女の甚このかたくなな沈黙……あの甚膝を折ってうつぶせになった甚完全に無防備な生け贄の姿勢……

　うつぶせになった甚裸の女の甚後ろ姿は甚ひどくみだらで甚けものじみていた曷子宮をつかんで甚裏返しにでも出来そうだ曷だが甚そう思ったとたんに甚ひどい屈辱に息をつまらせた曷遠からず甚女をさいなむ刑吏になりはてた自分の姿が甚まだらに砂をまぶした女の尻の上に甚映し出されるような気がしたのだ曷分っている……いずれはそうなるのだ……そして甚その日に甚おまえの発言権は失われる……

　ふいに突きさすような痛みが甚下腹をえぐった曷はちきれそうになった膀胱が甚耳の奥までとどいて甚鳴っていた曷

小便をすませた男は甚まるで気がぬけたように甚そのまま濃すぎる空気のなかに立ちすくんでしまう曷とは言え甚時の経過に甚なんらかの期待をよせていたわけでもない曷ただ家に引返す決心だけは甚どうにもつかなかった曷女のそばにいるのが甚どんなに危険なことか甚離れてみるといっそうよく分る曷いや甚問題なのは女そのものではなく甚うつぶせになった甚あの姿勢だろう曷あれほどみだらなものは甚まだ見たことがない曷絶対に引返してはいけない曷なんとしても甚あの姿勢は危険すぎる曷

擬死態(ぎしたい)発作という言葉がある曷ある種の昆虫やくもなどが甚不意の攻撃をうけておちいる甚あの麻痺状態だ曷崩壊した画像曷コントロヶルドタワヶを狂人に占領された飛行場曷冬眠中の蛙に冬が存在しないように甚出来れば甚自分の静止が甚世界の動きも止めてしまったのだと思い込みたかった曷

だが甚そう思うには甚太陽の光があまりにも激しすぎた曷男は激しく身をすくめ甚光の棘(とげ)から甚身をふりほどく仕種で甚素早く首を下げ甚シャツの襟をつかんで甚力まかせにひきむしる曷上から三つ甚ボタンがちぎれて飛んだ曷手のひらでこびりついた砂を掻きおとしながら甚砂はけっして乾燥したものではなく甚むしろ手あたり次第にものを腐らせてしまうほど甚吸湿性のものだという昨夜の女の言葉を甚あらためて思い出していた曷シャツをはぎとったついでに甚バンドをゆるめて甚ズボンの中にも空気を送りこんでやる曷だが甚それほ

ど騒ぎ立てるほどのことはなかったようだ曷不快感は甚やって来たときと同じくらいの早さで甚遠のいていった曷どうやら砂の吸湿性は甚空気にふれただけで甚たちまちその魔力をなくしてしまうものらしい曷

　とたんに甚重大な思い違いをしていたことに甚気づかされたのだ曷女の裸についての甚おれの解釈は甚どうやらあまりに一方的すぎたようである曷彼を罠にかけようという下心が甚まるで無かったとは言えないにしても甚あれは案外甚生活の必要からきた甚ごく日常的な習慣だったのかもしれないのだ曷女が寝たのは甚たしか夜が明けてからだった曷睡眠中は甚とかく汗をかきやすいものだ曷その睡眠を甚日中甚しかも焼きつけるような砂の壺のなかですごさなければならないとしたら甚裸になるのが甚むしろ当然なのではあるまいか曷もし自分が甚同じ条件におかれたとしても甚やはり出来れば裸をえらぶにちがいない……

　この発見は甚はためく風が甚皮膚の上から甚みるみる砂と汗を分離してしまったように甚たちまち彼の感情のこわばりを甚ときほぐしてくれた曷思いすごしにおびえていても仕方がない曷何重もの鉄格子やコンクリﾇﾄの壁を破って逃げた男だっているのだ曷鍵がかかっているかどうかも確かめずに甚錠前を見ただけですくみ上ることはない……男はゆっくり甚ねばつくような足どりで甚小屋にむかって引返す……落着いて甚今度こそは必要なことをすっかり甚女から聞き出してやろう……あんなふうに甚のぼせ上って甚ただわめきちらしたのでは甚女が黙りこんでしまうのも無理はない……それにあの沈黙だって甚うっかり裸の寝姿を

見られてしまった甚不用意を甚ただ恥入ってのことにすぎなかったのかもしれないではないか曷

9

焼けた砂にさらされた眼には甚小屋の中はひどく薄暗く甚ひんやりと濡れたような感じだった曷しかしすぐに甚錯覚にすぎないことを思い知らされる曷外とはまたちがった甚カビ臭い熱気がこもっていた曷

探すところに甚女はいなかった曷一瞬ぎくりとさせられる曷謎々あそびはもう沢山だ曷いや甚謎めいたことなど甚どこにもありはしない曷女はちゃんとそこにいた曷流し場のわきの水甕のまえに甚こちらに背をむけて甚うつむきかげんに立っていた曷

すっかり身づくろいも終えていた曷着物とそろいのモンペの甚淡い緑がかったかすりの色合からは甚まるでハッカ入りの傷薬のような匂いさえ感じられたし甚これならなにも文句を言うことはない曷やはり思いすごしだったのだ曷これだけ異常な環境に甚睡眠不足が加われば甚多少妄想気味になるのもやむを得まい曷

女は甚水甕のふちに片手をおき甚のぞきこむようにしながら甚もう一方の指先で甚水の表面をゆっくりかきまぜる動作をくりかえしていた曷男は甚砂と汗で甚しっとり重みのかかっ

たシャツを甚勢いよくふりまわして甚ぴしゃりと手首にまきつけた曷

振向いた女の顔は甚警戒の色に甚こわばっていた曷生涯を甚そんな表情ですごしてきたにちがいないと思われるほど甚その哀願の調子は板についていた曷男は甚なるたけさりげなくふるまうことにして甚

匍暑いね甚まったく……こう暑くっちゃ甚シャツなんて甚とても着ちゃいられない曷盍

それでも女は甚まだ疑わしげに甚訴えるような上眼づかいをやめようとしないのだ曷臆病(おくびょう)そうなつくり笑いに甚声をとぎらせながら甚

匍ええ……本当に……着物を着たまま汗をかくと甚いっぺんに甚砂かぶれしてしまいますから……盍

匍砂かぶれ？盍

匍はい……肌がくされて甚火傷のあとみたいに甚ピラピラになってしまいます曷盍

匍へえ甚ピラピラにねえ……湿気で皮膚がむれてしまうんだろうな曷盍

匍はい甚ですから……盍やっと女も甚気持がほぐれはじめたのか甚舌のまわりも軽くなり甚

匍私ら甚汗をかきそうなときには甚なるたけ裸になるようにしています……どうせ甚こんなふうですから甚他人の眼を気にすることもありませんし……盍

匍なるほど……それじゃ一つ甚すまないけど甚このシャツを洗っておいてもらおうかな曷盍

匍はい甚明日になれば甚ドラム罐で水の配給がありますから……盍

甫明日？……明日じゃ困るよ……畚男はくすくす笑いだす曷じつに巧い具合に甚話を本筋にもちこめたものだ曷甫それはそうと甚いったい何時になったら甚上にあがらせてもらえるんです？……困ってしまうなあ……ぼくのような勤め人にとっちゃ甚予定が半日も狂っちゃ甚どえらい損失ですからね……一分たりとも甚無駄にはしたくないんだ……ニワハンミョウっていう甚地面をぴょんぴょん飛んで歩く虫……こういう砂地に多いんだけど甚知らないかなあ？……そいつの新種を甚こんどの休暇中に甚なんとしてでも仕止めてやろうと思って……畚

女が甚かすかに唇を動かした曷しかし言葉にはならない曷ニワハンミョウという甚聞きなれない名前を甚くりかえしてみただけかもしれない曷しかし甚女の心が甚ふたたび閉ざされていくのが甚男には手にとるように分った曷思わず追いすがるように甚

甫ねえ甚なんとか部落の連中に甚連絡をつける方法はないのかな？……そうだ甚石油罐でも叩いてみたらどうだろう？畚

やはり女は答えない曷水に沈む石のはやさで甚またあの受身な沈黙に戻ってしまったのだ曷

甫どうしたんだ甚え？……なぜ黙っているんだ！畚またも気持がうわずり甚わめきたくなるのを甚やっとこらえながら甚甫わけが分らん……手違いなら甚手違いで甚いいんですよ……済んでしまったことを甚とやかく言っても甚はじまらんからね曷そんなふうに甚黙りこんで

いるのが甚一番いかんのだ曷よく甚そういう子供がいるが甚ぼくはいつも言ってやるんです……いかにも甚自分を責めているようにみせかけて甚その実甚そういうのが一番卑怯なやり方なんだってね……弁解することがあるんなら甚さっさと言ってしまったらどうなんだ！盍

甫でも……盍女は自分の肘のあたりに視線をおよがせ甚しかし意外によどみのない声で甚甫もう甚お分りなんでしょう？盍

甫お分り？盍さすがに衝撃はかくせない曷

甫ええ……もう甚お分りなんだろうと思って……盍

甫分らん！盍男はついに叫びだす曷甫分るもんか！　なにも言わないのに甚分るはずがないじゃないか！盍

甫でも甚本当に甚女手一人じゃ無理なんですよ甚ここの生活は……盍

甫そんなことが甚ぼくになんの関係があるんです？盍

甫はい……すまないことをしたと甚思っています……盍

甫すまないだと……？盍気ばかりあせって甚かえって舌がもつれてしまうのだ曷甫それじゃつまり甚ぐるだったってわけか？……罠の中に甚餌を仕掛けて……犬か猫みたいに甚女さえいりゃ甚すぐにとびつくかと思って……盍

甫はい甚これからは甚だんだん北風の季節で甚砂嵐の心配もありますし……盒ちらと甚開け放しの木戸に目をやりながら甚その抑揚のない甚こっそりとした調子には甚おろかしいほどの確信がこめられている曷

甫冗談じゃないよ！　非常識にも甚ほどがある！　これじゃまるで甚不法監禁じゃないか……立派な犯罪だよ……なにもこんな無理をしなくたって甚日当をほしがっている失業者ぐらい甚いくらだっているだろうに！盒

甫ここのことを甚外に知られちゃ甚まずいんでしょうねえ……盒

甫ぼくなら甚安全だってのかい？……とんでもない！……それこそ甚とんだ見当ちがいってもんだよ！　あいにくとぼくは甚浮浪者なんかじゃない……税金も払っていりゃ甚住民登録票だって持っている……いまに甚捜索願がだされて甚とんだことになってしまうぞ！　分らないのかなあ甚それっくらいのことが……一体甚なんと言って申しひらきするつもりなんです？……さあ甚責任者を呼びなさい……どれっくらい間抜けたことか甚ようく話して聞かせてやるから！盒

　女は眼をふせ甚かすかに吐息をついた曷それっきり甚肩をおとすと甚もう身じろぎしようともしないのだ曷まるで理不尽な難題をふきかけられた甚不幸な仔犬のように曷それがかえって甚男の怒りに甚油をそそぐ結果になる曷

甫なにをぐずぐず甚ためらうことがある？……いいかね甚問題はぼくのことだけじゃない曷あんただって甚けっこう甚同じくらい被害者なんだろう？　だって甚そうじゃないか甚現にあんたは甚ここの生活が甚外部に知られると困ると言った……これが不当な生活だってことを甚あんた自身も認めているっていう証拠じゃないか！　こんな甚奴隷あつかいをされていて甚そんな代弁者みたいな顔はよしなさい！……誰にもあんたをここに閉じこめておく権利なんてありはしないんだ！……さあ甚すぐに誰かを呼ぶんだ！　ここを出て行くんだ！……ははあ甚分った……恐がっているんだな？……馬鹿馬鹿しい！……なにが恐いことなんかあるもんか！……ぼくがついてるよ……新聞社に勤めている友達もいるしね……こいつを社会問題にしてやろうじゃないか……どうしたんだ？……なぜ黙っている？……びくびくすることはないって言ってるだろう！盍

しばらくして甚いたわるように甚女がぽつりと言った曷

甫ごはんの仕度にしましょうか？盍

10

ひっそりと甚芋の皮をむきはじめた女の後ろ姿を甚横眼で追いながら甚男は女がこしらえている食事を甚素直に受付けるべきかどうか甚そのことで頭をいっぱいにしていたのであ

る曷

たしかに今は甚沈着と冷静こそが求められるべきときだ……相手の意図がはっきりした以上甚右往左往するよりは甚現実を直視して甚実際的な脱出のプランを練るべきだろう……不法行為をなじるのは甚そのあとからでいい……ただ甚空腹は甚意欲を喪失させる……精神の集中にもよろしくない曷とは言うものの甚現状を拒否するつもりなら甚当然食事もふくめて甚徹底的に拒否しつくすべきではないだろうか？　腹を立てながら甚飯を食ったりしては甚こっけいになる曷犬だって甚餌を口に入れたとたんに甚尻尾を下げてしまうものだ曷

だが甚早まってはいけない……相手がどこまで強気かも甚見きわめないうちに甚そこまで受身になってしまう必要はないはずだ……なにも甚只でめぐんでもらおうなどと言っているわけじゃなし……ちゃんと食費は払うのだ……金を払った以上甚負い目を感じることなど甚これっぽっちもありはしない……攻撃こそ甚最良の防禦（ぼうぎょ）だと甚テレビのボクシング解説者もよく言っていた曷

すると……食事を我慢せずにすませる甚巧い口実がみつかって甚ほっとしたのか……急に視界がひらけて甚思考の糸口がほぐれだした曷たかだか砂が相手じゃないか曷そうとも甚べつに鉄格子を破ろうなどと甚無理難題をふっかけられているわけじゃない曷縄梯子をとりあげられたのなら甚木の梯子をつくればいい曷砂の壁がけわしすぎるのなら甚それをくずして甚傾斜をゆるやかにしてやればいい……ちょっと頭を働かしさえすれば甚ざっとごらんの

とおりだ……単純すぎるようでもあるが甚目的にかなっているのなら甚単純にこしたことはあるまい曷コロンブスの卵のたとえもあるとおり甚真に正しい解答は甚しばしば馬鹿らしいほど単純なものである曷面倒をいといさえしなければ……闘うつもりになりさえすれば……まだまだ万事休したというわけではないのである曷

芋をむきおえた女は甚それを賽(さい)の目に切り甚葉ごと刻んだ大根と一緒にして甚かまどの上の鍋に入れた曷鍋は大きな鉄鍋だ曷ビニ袋ルの袋から甚大事そうにマッチをとりだし甚使い終えると甚またきっちりくるんで甚輪ゴムでとめた曷といだ米を甚篩(ふるい)にあけて甚上から水をそそいでやる曷おそらく砂を流すためだろう曷鍋の煮物が甚呟(つぶや)くような音をたてはじめ甚苦味をおびた大根のにおいがただよいだす曷

匍お客さん甚すこし水が余っているけど甚顔でも洗いますか？盍

匍いや……顔よりも甚飲ませてほしいね……盍

匍あ甚すみません……飲み水は甚別にとってあります曷盍やはり甚ビニ袋ルにくるんで隠すようにしてあった大きなやかんを甚流し場の下から取出して甚匍生ぬるくなっていますけど甚一度沸かして消毒してありますから……盍

匍それはそうと甚甕の中の水もすこしは残しておかないと甚あとの洗いものなんかに困るんじゃないの？盍

匍いいえ甚食器なんかでしたら甚砂でこすっただけでよく落ちます曷盍

そう言うと甚女は甚窓ぎわから砂を一つかみ甚手許の食器のなかにほうりこんで甚まぶすようにくるりとまわし甚実演して見せてくれるのだ曷本当に清潔になったかどうかは甚よく分らないが甚それでいいような気もした曷すくなくともその砂は甚従来彼が持ちつづけていた砂のイメ攵ジと甚よく一致していた曷

食事はまた甚傘の下だった曷野菜の煮つけに甚あぶった干魚……どれもすこしずつ砂の味がする曷傘の頭を天井からつるせば甚女も一緒に食べられると思ったが甚わざわざ誘うほどの気にはなれなかった曷番茶は甚色ばかり黒くて甚味はひどく薄かった曷

食べおえると甚女は流し場に戻り甚頭からビニ攵ルの布をかぶって甚その下でこっそり自分の食事にとりかかる曷その後ろ姿を甚虫けらのようだと思う曷こんな生活を甚これから先も甚ずっとつづけていくつもりなのだろうか？……外から見れば甚猫の額ほどの土地かもしれないが甚穴の底に立って見れば甚目にうつるものは甚ただ際限もない砂と空だけだ……眼の中に閉じこめられてしまったような甚単調な生活……この中で甚女はきっと甚他人から憐みの言葉一つかけられた記憶もなしに過してきたのだろう……もしかすると甚罠にかかった自分をめぐんでもらって甚娘のように胸をときめかせているのかもしれない……あまりにもみじめすぎる……

女に何か一言甚声をかけてやりたい誘惑にかられ甚つなぎに一服しようと甚タバコに火をつけてみた曷やはりここではビニ攵ルが欠かすことのできない生活必需品であるらしい曷

マッチはなんとかついてくれたが甚タバコはまるで使いものにならなかった曷頬の肉が甚奥歯のあいだにくいこむほど甚力いっぱい吸ってみても甚どうにか煙の味がする程度だ曷その煙も甚やたらと脂臭く甚舌を刺激するばかりで甚とても吸えた代物ではない曷すっかり気分を害して甚つなぎどころか甚口をきく気もなくしてしまった曷

よごれた食器を甚まとめて土間におろし甚のろのろした動作で甚その上に砂を盛上げながら甚言いにくそうに女が言った曷

甫お客さん……これからすぐに甚天井裏の砂おとしを始めなければなりませんのですが……盒

甫砂おとし？　ああ甚いいでしょう……盒男は気がなさそうに甚いまさら甚そんなことが甚おれになんの関係があるというのだ……梁が腐ろうと甚棟が折れようと甚こちらになんの関係もありはしない曷

甫邪魔だったら甚何処かにどいていましょうか？盒

甫すみませんねえ……盒

白っぱくれるな！　なぜ白眼の端でも見せようとしないんだ！　内心じゃ甚腐った玉ねぎを噛んだくらいの気持でいるくせに！……しかし女は甚習慣になった動作だけが持つ甚あの無表情な素早さで甚二つ折れにした手拭を甚顔の下半分にまきつけ甚頭のうしろで結び甚

手箒（てぼうき）と板切れを小脇にかかえて甚片側しか襖が残っていない押入れの中仕切の上に甚よじのぼっていく曷

匍率直に甚ぼくの意見を言わせてもらえばだな甚こんな家は甚ぶっつぶれてしまったほうが甚いっそせいせいするだろうと思うんだ！盍

　とつぜん口をついて出た癇走（かんばし）った自分のわめき声に甚自分も驚き甚女はさらにぎくりとした表情で振向いた曷なるほど甚まだ虫けらになりきったわけではないらしい……

匍いや甚べつに甚奥さんだけに腹を立てているわけじゃない……こんなことで甚一人の人間に鎖をつけられるだろうと考えた甚その魂胆が気にくわないんだ曷分るでしょう？　いや甚分らなくたって構いやしない曷それじゃ一つ甚面白い話をしてあげようか……以前甚ぼくの下宿に甚下らない雑犬を一匹飼っていたんだ……おそろしく毛深いたちでね甚夏になっても甚なかなか毛が抜けかわらない……見ているだけでも甚うっとうしいと言うので甚思いきって毛を刈ってやることにした……ところが甚いよいよ刈り終えた毛屑（けくず）を甚捨てようという段になって甚その犬のやつ甚何を思ったか甚急に悲鳴をあげるなり甚その毛屑の束をくわえて自分の巣のなかに駈け込んでしまったのさ……おそらく甚毛屑が自分の体の一部のような気がして甚別れがたかったんだろうね曷盍そっと女の表情をうかがってみる曷しかし女は甚中仕切の上で甚体をねじった不自然な中腰のまま甚身じろぎ一つしようとしないのだ曷匍まあいいさ……人間にはめいめい甚他人には通用しない理屈ってものを持っている……砂

掻きだろうと甚なんだろうと甚どうぞ勝手にどしどしやって下さい曷しかしぼくには絶対我慢できないね曷もう沢山だ！　とにかくぼくは甚すぐに失礼します……見くびっちゃいけませんよ……その気になれば甚ここから逃げ出すくらい甚わけなしだからね……ちょうど甚タバコも切れたとこだし……盍

匍タバコなら……盍ぎこちないほど間抜けた素直さで甚匍あとで甚水の配給のときに……盍

匍タバコ？……タバコだって？盍男は思わず吹き出してしまう曷匍問題はそんなことじゃないんだ……毛屑ですよ甚毛屑……分らないかな？……毛屑のために甚賽（さい）の河原の石積みたいなまねをしたって甚仕方がないだろうってことですよ曷盍

　女は黙っていた曷言い返しもしなければ甚弁解する気配もない曷しばらく待って甚男が言いやめたことを確かめてから甚まるで何事もなかったように甚そろそろと体を動かし甚やりかけの仕事のつづきを始めるのだ曷押入れの天井の上げ蓋をずらし甚つっこんだ上半身を肘で支えて甚不器用に足をばたつかせながら甚よじのぼって行く曷あちこちで甚細い糸になって甚砂が降りはじめた曷この天井裏になら甚なにか変った虫がいそうな感じだ……砂と腐った材木……しかし甚もうけっこう甚変ったことは甚もう沢山だ！

　やがて天井の一角から甚砂ががめまぐるしく変化する幾本ものテゞプになって甚どっと吐き出されてきた曷その流れの激しさにくらべて甚いやにひっそりしているのが甚なんとも不思

議な感じだ曷みるみる畳の上に甚天井板の隙間や節穴の位置や大きさが甚そっくり浮き彫りになって写し出される曷砂のにおいが鼻を刺した曷眼にもしみた曷急いで外に逃げた曷

　ぱっと甚突然火を吹いたような風景に甚踵から融けていくような気がした曷しかし甚体の芯のあたりに甚どうしても融けきれない甚氷の棒のようなものが残った曷やはり何処かで甚疚しさを感じているらしいのだ曷けもののような女……昨日も甚明日もない甚点のような心……他人を甚黒板の上のチョﾀｸの跡のように甚きれいに拭い去ってしまえると信じ込んでいる世界……現代の一角に甚まだこれほどの野蛮が巣くっていようとは甚夢にも思わなかった曷しかし甚まあいい……ショックから恢復(かいふく)して甚やっと余裕をとり戻しはじめたしるしだと考えれば甚この疚しさもそう悪くはない曷

　しかし甚うかうかしてはいられない曷出来れば暗くなるまえに甚やり上げてしまいたいものだ曷眼を細めて甚融けたガラスのようなかげろうの被膜の下で甚波うっている砂の壁を目測した曷見るたびに高くなっていくようでもある曷だが甚自然にさからって甚ゆるやかな傾斜を急にしようというのならともかく甚急なものを甚ただなだらかにしてやろうというだけだ曷べつに尻込みすることもないだろう曷

　一番たしかなのは甚むろん上から順にけずり落していくことだ曷だが甚それが出来なければ甚下から掘っていくより仕方がない曷まず下を適当にえぐって甚上からくずれてくるのを待ち甚さらに下をえぐって甚上をくずす……それを繰返していけば甚順に足もとから高くな

り甚いつかは上にたどりつけるはずだ曷むろん途中で甚砂の流れに甚おし流されることもあるだろう曷しかし甚いくら流れだといっても甚水とはちがう曷砂におぼれたなどという話は甚まだ聞いたこともない曷

スコップは甚土間の外壁に甚石油罐とならべて立てかけてあった曷丸くすりへった刃の先が甚瀬戸物の割れ目のような白い光をはなっていた曷

しばらくのあいだは甚砂掘りに熱中する曷砂はいかにも従順で甚仕事もはかどりそうだった曷砂にくいこむスコップの音と甚自分の息づかいだけが甚時を刻むすべてだった曷ところがやがて甚腕の疲労が甚なにやら警告めいた呟きをはじめるのだ曷もう甚かなり掘ったつもりだのに甚一向に成果があがった様子もない曷くずれてくるのは甚いつも掘った真上の甚ほんのわずかな部分だけだ曷頭の中にえがいていた甚あの単純な幾何学的プロセスとは甚何処かがひどく食い違っている曷

不安がそれ以上こうじないうちに甚休憩もかねて甚穴の模型をつくり甚たしかめてみることにした曷さいわい甚材料は甚無限にある曷軒下の影をえらんで甚五十センチばかりのくぼみを掘ってみた曷ところがなぜか甚側面の勾配が甚思っただけの角度になってくれない曷せいぜい四十五度……口のひらいた摺鉢(すりばち)程度なのである曷底のほうから甚けずり取ってみると甚斜面にそって砂は流れ落ちるが甚勾配はいぜんとして元のままである曷どうやら砂には甚安定角というようなものがあるらしい曷粒子の重さと抵抗が甚ちょうど釣合ったところ

だろう曷だとすると甚いま彼が挑もうとしているこの壁も甚やはりその程度の傾斜なのだろうか？

いや甚そんなことはありえない……目の錯覚だとしても甚ありえない……どんな勾配でも甚下から見れば甚むしろ実際以下に見えるはずである曷

それでは甚量の問題だと考えるべきだろうか？……量がちがえば甚しぜん圧力もちがってくるわけだ……圧力がちがえば甚重さと抵抗の釣合いにだって甚当然変化が生れてくるだろう曷砂の粒子の構造にも甚問題があるのかもしれない曷赤土でも甚自然に切り出された赤土と甚盛土した赤土とでは甚圧力に対する抵抗力がまるでちがうという曷さらに甚湿度のことも甚考慮に入れなければなるまいし……つまり甚模型とは甚別な法則が働いているのかもしれないということだ曷

とは言えその実験が甚まるで無駄だったわけではない曷壁の傾斜が甚過安定の状態にあることが分っただけでも甚大変な収穫だった曷過安定を安定にするのは甚一般的に甚さほどむつかしいことではない曷

過飽和溶液は甚ちょっとゆすってやっただけでも甚すぐに結晶を沈澱しながら甚飽和点に移行してしまうものである曷

ふと甚人の気配を感じて振向くと甚いつの間にやら女が戸口に立って甚じっとこちらをうかがっているのだった曷さすがに甚気まずいらしく甚あわてて片足をひき甚助けを求めるよ

うに甚ちらと視線を泳がせる曷その視線をたどっていくと甚彼が背にしていた東側の壁の上からも甚頭が三つ甚行儀よく並んで甚こちらを見下ろしているのだ曷すっぽり手拭をかぶっていたし甚口から下は隠れているので甚はっきりしないが甚どうやら昨日の年寄りたちらしくもある曷とっさに男は身構えたが甚すぐに気をとりなおし甚無視してそのまま仕事をつづけることにした曷見られていることが甚むしろ男を仕事にかりたてた曷

汗が鼻の先からしたたり甚眼に流れこむ曷ぬぐう間がなければ甚眼をつぶってでもスコップをふるうのだ曷絶対にこの手を休めてはいけない曷この的確な速度をみれば甚いくら薄野呂（うすのろ）たちだって甚いやでもおのれの軽薄さを思い知らされるはずである曷

時計を見た曷文字盤の砂を甚ズボンで拭きとると甚まだ二時十分だ曷さっき見たときも甚同じくたしか二時十分だった曷急に速度感に対する自信が失われてくる曷かたつむりの眼で見れば甚太陽だって甚野球のボゞルのような速さでうつるかもしれないのだ曷スコップを持ちかえ甚あらためて砂の壁にむかって突進した曷

急に砂の流れがはげしくなった曷ゴムのように響きのない甚鈍い物音が甚ぐにゃりと彼の胸板にのしかかってきた曷様子をたしかめようと甚上を見上げるのだが甚どちらが上なのだか甚もう見当もつかない曷二つ折れになった黒い嘔吐のまわりを甚淡い乳色の光が甚ただぼんやりとなぞっていた曷

第二章

11

ジャブ　ジャブ　ジャブ　ジャブ

何んの音？

鈴の音

ジャブ　ジャブ　ジャブ　ジャブ

何んの声？

鬼の声

女が呟くようにうたっている曷甕のなかの水垢を甚かい出しながら甚同じ文句を甚飽きもせずくりかえしている曷

唄がやむと甚こんどは米をとぐ音だ曷男は甚そっと溜息をつき甚寝返りをうって甚期待に体を固くしながら甚待ちうける……間もなく甚女が甚水を入れた洗面器をもって甚体を拭いに来てくれるだろう曷砂と汗でふやけた皮膚は甚もう炎症をおこす一歩手前だった曷冷たい甚濡れ手拭のことを思っただけで甚身がすくむ曷

砂にうたれて甚気を失って以来甚ずっと寝たっきりなのだ曷最初の二日は甚三十九度ちかい高熱と甚執拗な嘔吐に悩まされた曷だが甚その翌日には甚熱もひいたし甚ある程度食欲も回復していた曷どうやら原因は甚砂崩れによる傷害というよりも甚長時間甚直射日光にさらされながら甚馴れない労働をつづけたためらしい曷結局のところ甚大したことではなかったわけである曷

そのせいか甚回復も早かった曷四日目には甚足腰の痛みも甚ほとんどなくなった曷五日目には甚気だるさをのぞけば甚これといった自覚症状もない曷にもかかわらず甚こうして床をはなれず甚重病人をよそおっているのには甚むろんそれなりの理由と計算があったのである曷当然のことながら甚彼はまだ甚脱出の計画をすこしもあきらめてはいなかった曷

匍お客さん甚起きていますか？畚

おずおずと甚女の呼ぶ声がした曷薄目の隅で甚モンペをとおした膝のまるみをうかがいながら甚言葉にならない甚うめき声で答える曷でこぼこだらけの甚真鍮（しんちゅう）の洗面器のなかで甚のろのろと手拭をしぼりながら甚女が言った曷

匍気分甚どんなです？盃

匍まあね……盃

匍背中甚拭きましょう……盃

　ぐったり甚全身を女の手にゆだねてしまっても甚病気という口実のせいか甚さして気にならない曷熱病にかかった子供が甚冷たい銀紙にくるまれる夢をみたというような甚詩を読んだことがあったっけ曷汗と甚砂に甚塗り込められて甚窒息しかかった皮膚が甚たちまちすずしく甚息をふきかえす曷その生き返った皮膚の上を甚女の体臭が甚微妙な刺戟（しげき）になって甚這いまわる曷

　とは言え甚女を完全に許したわけでも甚むろんない曷それはそれ甚これはこれと甚一応区別しているだけのことである曷三日間の休暇は甚とっくに過ぎてしまった曷いまさら甚じたばたしてもはじまるまい曷崖をくずして甚砂の傾斜をゆるやかにしようという甚最初の計画も甚失敗というよりは甚むしろ準備の不足だった曷日射病などという甚不測の事態に邪魔だてされさえしなければ甚あれでもけっこう上手くいっていたはずなのだ曷ただ甚砂掘り作業は想像していた以上に激しい労働であり甚もっと上手い工夫があれば甚その方がいいに決っている曷そこで甚思いついたのが甚この仮病作戦だったというわけだ曷

　失神から回復したとき甚まだ女の家に寝かされたままであることを知って甚男はいささか気を悪くした曷部落の連中には甚彼をいたわる気持など甚毛頭もちあわせていないらしい曷

そうと分れば甚こちらにだって甚考えがあるというものだ曷医者も呼ばずに甚甘くみてかかったことを甚逆手にとって甚思うさま後悔させてやろう曷女が働いている夜のあいだは甚ぐっすり眠ってやる曷逆に甚女が休まなければならない日中は甚うんと大げさに苦痛を訴えたりして甚睡眠の邪魔をしてやるのだ曷

甫痛みますか？盍

甫痛いさ……やはり甚背骨のどこかが甚脱臼したらしい……盍

甫揉んでみましょうか？盍

甫とんでもない！　素人に甚変にいじられたりしてたまるものか曷背骨の神経は甚命の綱だからね曷ぼくが甚死んだら甚どうするつもりなんだ！　困るのは甚あんたたちの方だろう？　医者を呼びなさい甚医者を！　痛い……もうれつに痛むぞ……早くしないと甚手おくれになってしまうじゃないか！盍

　女は甚事態の重みに耐えかねて甚やがてくたくたになってしまうだろう曷仕事の能率は低下し甚建物の安全までがおびやかされることになる曷これは部落にとっても由々しき一大事だ曷労働力はおろか甚とんだ邪魔物をくわえこんでしまったわけである曷さっさと甚追い出してしまわなければ甚それこそ取り返しのつかないことになってしまうのだ曷

　だが甚この計画も甚思ったほど順調には搬(はこ)んでくれなかった曷ここでは甚昼よりも夜のほうが甚むしろ生々と息づいている曷壁ごしに聞えてくる甚スコップの音……女の息使い……

モッコを搬ぶ甚男たちの掛声や舌打ち……風に吸われて甚ふくみ声になった甚オゞト三輪のうなり……犬の遠吠え……寝ようと努力すればするほど甚かえって神経がたかぶり甚目がさえてしまうのだ曷

夜甚睡眠がじゅうぶんにとれないとなると甚日中のうたた寝はさけられない曷その上甚いけないことに甚これが失敗しても甚まだ何んとかなるのだという抜け道の存在が甚彼の忍耐力を中途半端なものにしていたようだ曷あれから一週間……もうそろそろ甚捜索願が出されてもいい頃である曷はじめの三日だけは甚届けを出してあった曷しかしそのままになっている曷ただでさえ甚他人の行動に神経過敏な同僚たちが甚これを見逃してくれたりするはずがない曷おそらく甚その晩のうちにも甚誰かおせっかいやきが現われて甚彼の下宿をのぞきに行ってくれたことだろう曷西陽にむれた甚殺風景な部屋甚すえた臭いをたてて甚主人の不在を告げている曷訪問者は甚この穴ぐらから解放された甚運のいい住人に対して甚本能的な妬みをおぼえるかもしれない曷そして甚その翌日には甚嫌味たっぷりな陰口が甚ひそめた眉や甚皮肉に曲げた指を添え物にして甚囁きかわされることだろう曷むりもない……彼の方でも甚こんどの風変りな休暇が甚そうした効果を同僚たちに与えてくれることを甚内心期待していなくもなかったのだから……じっさい甚教師くらい妬(ねた)みの虫にとりつかれた存在も珍しい……生徒たちは甚年々甚川の水のように自分たちを乗りこえ甚流れ去って行くのに甚その流れの底で甚教師だけが甚深く埋もれた石のように甚いつも取り残されていなければならな

いのだ曷希望は甚他人に語るものであっても甚自分で夢みるものではない曷彼等は甚自分をぼろ屑のようだと感じ甚孤独な自虐趣味におちいるか甚さもなければ甚他人の無軌道を告発しつづける甚疑い深い有徳の士になりはてる曷勝手な行動にあこがれるあまりに甚勝手な行動を憎まずにはいられなくなるのだ曷……事故だろうか？……いや甚事故なら事故で甚なんとか連絡ぐらいはあるはずだろう……すると甚自殺？……じゃあ甚やっぱり甚警察沙汰というわけか！……まさか甚あのお目出度い男が甚君甚買いかぶっちゃいけないよ……そうそう甚自分勝手に行方不明になったんだ甚いらんおせっかいをする必要はない……しかし甚もうかれこれ甚一週間になる……まったく甚人騒がせな男だよ甚なにを考えているのやら甚さっぱり分りゃしない……

　本気で心配しているのかどうかは甚怪しいとしても甚すくなくも野次馬的な好奇心だけは甚もぎ忘れた柿の実くらいには熟しきっているにちがいない曷結局甚なりゆきとして甚教頭が甚捜索願の書式を問いあわせに甚警察を訪れる段取りになる曷こみあげてくる甚たのしさを甚神妙な顔の裏に甚しっかりとしまいこんで……弭姓名甚仁木順平曷三十一歳曷一メ夂トル五十八甚五十四キロ曷髪はやや薄く甚オ夂ルバック甚油は使用せず曷視力は右○．八甚左一．○曷肌はやや浅黒く甚面長曷眼と眼がよっていて甚鼻は低い曷角張った顎と甚左耳の下のほくろが目立つ以外甚ほかにこれといった特徴なし曷血液型はＡＢ曷舌がもつれたような甚まどろっこしい話しぶり曷内向的で甚頑固だが甚人づきあいはとくに悪いというほうで

はない曷服装はたぶん甚昆虫採集用の仕事着曷上に貼付した正面写真は二カ月前に撮影のもの曷ｩ

　もっとも甚部落の連中だって甚これだけ無理な冒険をあえてするからには甚一応の予防策くらいは甚当然立てているはずだ曷田舎巡査の一人や二人甚まるめこむくらいわけはない曷めったなことでは甚よりつかせないくらいの甚用意はととのえているに相違ない曷しかし甚そうした煙幕が役に立ち甚また必要なのは甚あくまでも彼が健康体であり甚砂掻きの労働に耐えうる場合だけに限っている曷一週間も寝込んだままの重病人を甚それほどの危険をおかしてまで隠し通す価値はない曷役に立たないと決れば甚あまり面倒なことにならないうちに甚さっさと手離してしまったほうが利口だろう曷今のうちなら甚まだ言いわけはたつ曷男が勝手に落込んで甚そのショックでおかしな妄想にとりつかれたらしいと申し立てれば甚策略にかかって閉じ込められたなどという甚非現実的な訴えなどよりは甚はるかに筋のとおった説明として受入れられるにちがいない曷

　牛の喉に甚ブリキの笛をおしこんだような音をたてて甚何処かでにわとりが鳴いた曷しかし甚砂のくぼみの中には甚距離も方角もない曷ただ甚ここの外には甚道端で子供が石けりをして遊んでいても一向に不似合いでないような甚いつものとおりの世界があり甚時がくれば普通どおりに夜が明けることを告げていた曷そう言えば甚米の炊けるにおいにも甚夜明けの色がまじりかけている曷

それに甚女の体の拭きかたというのが甚また丹念すぎるほど丹念ときているのだ曷濡らした手拭で荒拭きしたあとを甚こんどは木片れのようにきつくしぼったやつで甚まるでガラスの曇りをおとすようなこすり方をする曷朝が来たという暗示にくわえて甚そのリズミカルな刺戟が甚そろそろ彼を耐えがたい睡りにさそいはじめていた曷

匍それはそうと……盒内側から甚むりやり鉗子(かんし)でこじ開けられるようなあくびを噛みころし甚匍どうだろう甚久しぶりに甚新聞を読んでみたいんだが甚なんとかならないだろうか？盒

匍そうですねえ……あとで甚聞いておきましょう曷盒

女が甚誠意を示そうとしているのは甚よく分った曷遠慮勝ちな甚おずおずとした声の調子にも甚彼の気を損うまいとする配慮が甚ありありと感じられる曷だが甚そのことがまた甚いっそう彼を苛立たせるのだ曷聞いておきましょうだと？……おれには甚許可なしに甚新聞を読む権利もないというのか……男は甚ののしりながら甚女の手をはらいのけ甚中身ごと洗面器をひっくりかえしてやりたいような衝動にかられる曷

しかし甚ここで腹を立ててしまっては甚ぶちこわしだ曷重病人は甚新聞くらいで甚そんなに興奮したりするものではない曷むろん新聞は読んでみたい曷風景がなければ甚せめて風景画でも見たいというのが甚人情というものだろう曷だから甚風景画は自然の稀薄な地方で発達し甚新聞は甚人間のつながりが薄くなった産業地帯で発達したと甚何かの本で読んだこと

がある曷それに甚あわよくば甚尋ね人の広告が出ているかもしれないし甚上手くいけば甚失踪記事になって甚社会面の隅っこくらいを飾っていないとも限らないのだ曷もっとも甚そんな記事がのっている新聞を甚連中がおいそれと渡してくれるはずはない曷とにかく今は辛抱が第一だ曷

たしかに甚仮病も甚楽ではなかった曷まるで甚はじけそうになっているゼンマイを甚むりやり手のなかに握りしめているようである曷いつまでも甚こんなことを我慢していられるわけがない曷なりゆきまかせは禁物だ曷自分の存在が甚彼等にとってどんなに重荷であるかを甚徹底的に思い知らせてやらなければならないのだ曷今日こそは甚なんとしてでも甚女を一睡もさせずにおいてやろう！

（眠るな……眠ってはいけない……！）

男は甚体をよじって甚大げさなうめき声をあげていた曷

女がさしかけてくれる傘の下で甚舌を焼きながら甚海草入りの雑炊をすすった曷茶わんの底に甚砂が沈澱して残った曷

　だが甚記憶はそこで甚とだえてしまう曷あとは甚ながい甚息づまるような夢のなかにまぎれこむ曷夢の中で甚彼は甚使い古しの割箸にまたがり甚どこか見知らぬ街のなかを飛んでいた曷割箸は甚ちょうどスクﾀﾀﾞタﾀﾞのような乗り心地で甚さほど悪くもないのだが甚ちょっと気をゆるめると甚たちまち浮揚力を失ってしまうのだ曷街は甚近くのほうが煉瓦(れんが)色で甚遠ざかるにつれて甚緑色にかすんでいく曷その色の配合には甚妙に不安をそそるものがあった曷やっと甚兵舎のような甚長い木造の建物にたどりついた曷安物の石鹸の臭いがただよっている曷ずり落ちそうになるズボンを引き上げながら甚階段をのぼっていくと甚細長いテﾀﾞブルが一つあるだけの甚がらんとした部屋に出た曷十人あまりの男女が甚そのテﾀﾞブルを囲んで甚何やらゲﾀﾞムに打ち興じているふうである曷正面の男が甚一組のカﾀﾞドを甚順ぐりにくばっている最中だった曷くばり終えると同時に甚最後に残った一枚を甚いきなり彼につきつけて大声をあげた曷思わず受取ってみると甚それはカﾀﾞドではなく甚一通の手紙なのだった曷手紙はぶよぶよと甚変な手触りだった曷つまんだ指先に力をいれると甚中から血がふきだした曷悲鳴をあげて甚目がさめた曷

　よごれた霧のようなもので甚視界がふさがれていた曷身じろぐにつれて甚かさかさと甚乾いた紙の音がした曷ひろげた新聞紙で甚顔を覆われているのだった曷ちくしょう甚また寝込んでしまった！……はらいのけると甚紙の表面を甚砂の被膜が流れ落ちた曷その量からして甚もうかなりの時間が甚経ってしまったらしい曷壁の隙間からさしこむ日差しの位置も甚

ほぼ正午を告げている曷だがそれよりも甚この臭いはなんだろう？　新しいインクの香り？……まさかと思いながらも甚日付け欄に目を走らせてみる曷十六日甚水曜日……やはり今日の新聞なのだ！　信じられないことだが甚事実だった曷すると甚女は甚彼の希望を聞き入れてくれたというわけか？

　汗をすって甚じくじく粘りつくようなふとんから甚片肘をついて上半身を起したが甚さまざまな思いが甚いっせいに渦まきはじめ甚せっかくの紙面も甚いたずらに字づらを追いかけるだけである曷

弭日米合同委甚議題を追加か？戛

……一体甚あの女は甚どうやってこの新聞を手に入れたのだろう？……やはり甚村の連中が甚多少なりとも彼に負い目を感じはじめたということだろうか？……それにしても甚これまでのしきたりからすれば甚朝食後は甚一切外との連絡は絶たれてしまうはずだった曷女が甚彼のまだ知らない甚外との特別な連絡方法をもっていたのか甚さもなければ甚自分で外に出て買ってきたかの甚いずれかにちがいない……

弭交通麻痺に甚抜本的対策を！戛

　だが甚待てよ……もし甚女が甚外に出掛けたのだとしたら……当然甚縄梯子なしには甚考えられない曷どんな方法でかは分らないが甚とにかく甚縄梯子がつかわれたことはたしかなのだ……そんなことだろうと甚うすうす予想はしていた……逃げ出すことしか考えていない

囚人ならいざ知らず甚部落の住人である女が甚出入りの自由まで奪われて甚我慢していられるわけがない……縄梯子の撤去は甚おれを閉じ込めるための甚一時的な措置にすぎなかったのだ……だとすると甚このまま油断させつづけていれば甚いつかはまた同じチャンスに巡りあい……

弭玉ねぎに甚放射能障害治療の有効成分ﾈ

どうやら甚おれの仮病作戦には甚またまた思わぬ付録がつけ加えられたようである曷果報は寝て待てとは甚昔の人間も甚うまいことを言ったものだ……しかし甚心は甚なぜか一向にはずんでくれない曷なにか釈然としないものが残るのだ曷あの甚おそろしく胃にもたれる甚奇妙な夢のせいだろうか？……たしかに甚あの危険な――なぜ危険なのか甚理由は分らないが――手紙のことは甚変に気にかかる曷一体甚なにを暗示していたのだろう？

しかし甚夢のことなど甚いちいち気にしていてもはじまらない曷とにかく甚始めたことを甚やりとおすだけだ曷

女は甚いつものとおり甚囲炉裏をへだてた上りがまちのそばで甚頭から洗いざらしの浴衣をかぶり甚その下で膝をかかえるように丸くなって甚軽い寝息をたてていた曷あの日以来甚さすがに甚裸をさらすようなことはしなくなったが甚浴衣の下は甚相変らず裸のままなのだろう曷

素早く甚社会面と甚地方欄に目をとおす曷むろん甚失踪記事も甚尋ね人の広告も見当らなかった曷それは予期していたことだし甚べつに落胆することもない曷そっと起上って甚土間におりる曷男も人絹のステテコをはいたっきり甚上半身は素っ裸だ曷たしかにこの方が甚ずっとしのぎよい曷ステテコの紐がくいこんだ甚胴のまわりに甚砂がたまり甚そこだけが赤くかぶれて甚むず痒(がゆ)かった曷

戸口に立って甚砂の壁を見上げた曷光が眼にしみ甚あたりが黄色く燃えはじめた曷人影も甚縄梯子も甚むろんない曷ないのが当りまえだ曷ただ念のために甚たしかめてみただけである曷縄梯子がおろされた形跡さえなかった曷もっともこの風なら甚どんな痕跡でも甚五分とかからずに消してしまうだろう曷戸口のすぐ外でも甚砂の表皮がたえまなく甚流れるようにめくられつづけている曷

引返して甚横になる曷蠅が飛んでいた曷小さな甚薄桃色の甚しょうじょう蠅だ曷どこかで甚何かが甚腐っているのかもしれない曷枕元の甚ビニ﨟ルにくるんだやかんで喉をしめしてから甚女に声をかけた曷

匍ちょっと甚起きてくれないかな……盍

女は甚体をふるわせて甚はね起きた曷浴衣がずり落ち甚胸の下まで甚むきだしになった曷たれ下った甚しかしまだ肉づきのいい乳房に甚静脈が青くにじんでいる曷あわてて甚浴衣をかきあわせながら甚視線は宙をさまよい甚まだ完全には醒(さ)めきっていないらしい曷

男はためらう曷ここぞとばかりに甚声を荒げて甚縄梯子の問題を詰問すべきだろうか？……それとも甚新聞の礼をかねて甚やんわり尋ねてみる程度にしておいたほうがいいのか？　もし甚相手の眠りをさまたげるだけが目的なら甚かなり攻撃的にでたほうがいいにきまっている曷難くせをつける口実はいくらでもあるのだ曷だが甚それでは甚重病をよそおうという甚せっかくのねらいから外れてしまうことになる曷脊椎が脱臼したほどの男には甚あまり似つかわしいやり方とは言えまい曷ここで心要なことは甚もはや労働力として役に立たないことを甚彼等に認めさせ甚とにかく警戒心をとかせてしまうことだ曷新聞をよこすところまで軟化した彼等の心を甚さらに無抵抗なものにしてしまうことだ曷

しかし甚あっさり期待を裏切られてしまう曷

匍いえ甚出たりなんかするもんですか曷偶然甚まえからたのんでおいた甚防腐剤を甚農協の人がとどけに来てくれましてね……それで甚ついでに甚おねがいしてみたんですよ……でも甚この部落じゃ甚新聞をとっている家なんか甚ほんの四甚五軒しかありませんものねえ……わざわざ甚町の販売店まで甚買いに行ってくれて……盍

たしかに甚偶然の一致ということも甚ありえないことではない曷だが甚それではまるで甚合鍵のない錠前で甚櫃（おり）のなかに閉じこめられてしまったようなものではないか曷地元の人間でさえが甚幽閉に甘んじなければならないとすると甚この砂の壁のけわしさはただ事でないものになる曷男は甚やっきになって甚食い下った曷

甫そんなことって……あんた……ここの主人なんでしょう？……犬じゃあるまいし……自由に出入りするくらい甚なんでもありゃしないじゃないか！　それとも甚部落の連中に甚なにか顔向けできないようなことでもしたのかな？盍

　女の甚睡たげな眼が甚びっくりしたように見開かれた曷こちらがまぶしくなるほど甚赤く充血した眼だ曷

甫いいえ甚顔向けできないだなんて甚めっそうもない！盍

甫じゃ甚なにもそんなふうに甚悪びれたりすることはないじゃないか！盍

甫でも甚表に行ってみたって甚べつにすることもないし……盍

甫歩けばいい！盍

甫歩くって……？盍

甫そうさ甚歩くんだよ……ただ甚歩きまわるだけで甚充分じゃないか……そういう甚あんただって甚ぼくがここに来る前は甚自由に出歩いていたんでしょう？盍

甫でも甚用もないのに歩いたりしちゃ甚くたびれてしまいますからねえ……盍

甫ふざけているんじゃない！　ようく自分の心に聞いてみなさい甚分らないはずはないんだ！……犬だって甚檻の中に入れられっぱなしじゃ甚気が狂ってしまうんだからね！盍

甫歩きましたよ……盍ふと甚女は甚殻を閉ざした二枚貝のような抑揚のない声で甚甫本当に甚さんざん甚歩かされたものですよ……ここに来るまで……子供をかかえて甚ながいこ

と……もう甚ほとほと甚歩きくたびれてしまいました……畚

男は甚不意をつかれる曷まったく甚妙な言いがかりもあったものだ曷そうひらきなおられると甚彼にも言い返す自信はない曷

そう……十何年か前の甚あの廃墟の時代には甚誰もがこぞって甚歩かないですむ自由を求めて狂奔（きょうほん）したものだった曷それでは甚いま甚はたして歩かないですむ自由に食傷（しょくしょう）したと言いきれるかどうか？　現に甚おまえだって甚そんな幻想相手の鬼ごっこに疲れはてたばかりに甚こんな砂丘あたりにさそい出されて来たのではなかったか……砂……1/8m.m.の限りない流動……それは甚歩かないですむ自由にしがみついている甚ネガﾌｨルムの中の甚裏返しになった自画像だ曷いくら遠足にあこがれてきた子供でも甚迷子になったとたんに甚大声をあげて泣きだすものである曷

女が甚がらりと調子を変えて言った曷

甫気分甚よろしいんですか？畚

豚みたいな顔をするのはよせ！　男は苛立ち甚相手をむりやり捩じふせてでも甚泥をはかせてやりたいと思った曷そう思っただけで甚皮膚がけばだち甚ばりばり乾いた糊をはがすような音をたてはじめる曷ねじふせるという言葉から甚皮膚が勝手な連想をしてしまったらしい曷いきなり女が甚背景から切りとられた甚輪廓だけの存在になっている曷二十歳の男は甚観念で発情する曷四十歳の男は皮膚の表面で発情する曷しかし三十男には輪廓だけになった

女が甚いちばん危険なのだ……まるで甚自分自身を抱くように甚気安く抱くこともできるだろう……だが甚女のうしろには甚沢山の眼がひかえている……女は甚それらの視線の糸であやつられる甚あやつり人形にしかすぎないのだ……女を抱けば甚今度はおまえがあやつられる番だ……脊椎の脱臼などという甚大ぼらだって甚たちまち馬脚をあらわしてしまうことになる曷こんなところで甚これまでのおれの生活が甚中断されたりしてたまるものか！

女が甚にじりよって来た曷膝のまるみが甚尻の肉におしつけられた曷眠っていたあいだに甚女の口や甚鼻や甚耳や甚腋の下や甚その他のくぼみの中で醗酵（はっこう）した甚ひなた水のような臭いが甚あたりを濃く染めはじめる曷そろそろと甚遠慮がちに甚火のような指が甚背骨にそって甚上下にすべりはじめる曷男は全身をかたくする曷

急に甚指が脇腹にまわった曷男は悲鳴をあげた曷

匍くすぐったい！畚

女が笑った曷ふざけているようでもあり甚悪びれているようでもあった曷あまり唐突すぎて甚とっさの判断はつきかねた曷一体なんのつもりだろう？……わざとやったことなのか甚思わず手がすべったというだけか？……ついさっきまでは甚目をしょぼつかせ甚やっとの思いで甚起きていたくせに……そう言えば甚最初の夜にも甚通りすがりに脇腹をついて甚妙な笑い声をたてたことがあったっけ……あの動作に甚女はなにか甚特別な意味づけでもしているのだろうか？

それとも甚彼の仮病を甚本心から信じておらず甚疑いをたしかめるために甚さぐりを入れてきたのかもしれない……可能性はある……うっかりはできない曷女のさそいは甚結局甚甘い蜜の香りをよそおった甚食肉植物の罠にすぎなかったのかもしれないのだ曷暴行という甚醜聞の種をまいておき甚次は甚恐喝(きょうかつ)の鎖が甚彼の手足をつなぎとめて……

13

蝋のように汗ばみ甚融けていた曷毛穴が甚汗にひたっていた曷時計がとまっているので甚はっきりはしないが甚穴の外では甚まだ案外昼間なのかもしれない曷しかし二十メゖトルの甚この穴底では甚もう夕暮だ曷

女はまだ睡りこけていた曷夢をみているのか甚手足をぴくぴく甚ふるわせている曷いまから睡りの邪魔をしてみたところで甚はじまるまい曷彼でさえ甚もうたっぷり寝足りていた曷

体をおこして甚皮膚に風をあてる曷寝返りの際に甚顔の手拭が落ちてしまったらしく甚耳の後ろや甚鼻のわきや甚唇の端などに甚こそげ落せるほどの甚砂がこびりついていた曷眼薬をさしては甚手拭の端でおさえ甚何度かくりかえすうちに甚やっと普通に眼が開けていられるようになる曷だがこの眼薬も甚あともう二甚三日でおわりだ曷このためだけにでも甚早く勝負をつけてしまいたいものである曷鉄の服を着て甚磁石の寝床にねているように甚体が重

かった曷焦点を合わせるのに甚苦労しながら甚戸口からさしこむ淡い光をたよりに甚死んだ蠅の脚のような活字に視線をおよがせる曷

本当を言えば甚昼間甚女にたのんで読んでもらうべきだった曷そうすれば甚女の睡りをさまたげることにもなり甚一石二鳥の効果があがったはずだ曷残念ながら甚こちらが先に甚睡りこんでしまった曷あれほど甚気張っていたのに甚何んというへまをやってしまったものだろう曷

おかげで甚今夜もまた甚やりきれない不眠をかこつことになるのだ曷呼吸にあわせて甚百から逆に数えてみる曷歩きなれた甚下宿から学校までの道を甚たんねんにたどってみる曷科と甚目とに分けて甚知っているかぎりの昆虫の名前を列記してみる曷なんの効果もないことが分っているだけに甚よけいに苛立ってしまうのだ曷穴のふちをかすめて走る風のふくみ声……しめった砂の層を切る甚スコップの音……犬の遠吠え……蝋燭（ろうそく）の火のようにゆらぐ甚遠いざわめき……神経の末端めがけて甚たえまなく降りそそぐ砂のやすり……それでもじっと甚耐えていなければならない曷

まあ甚なんとか甚我慢しとおせたとする曷しかし甚すがすがしい群青の光が甚穴のへりからすべり込んできたとたん甚こんどは逆に甚あの濡れた海綿のような眠りとの格闘だ曷この悪循環を甚どこかで絶ち切らないかぎり甚時計ばかりでなく甚時そのものまでが甚砂の粒子に甚動きをとめられてしまうおそれがある曷

新聞記事も甚相変らずだった曷どこに一週間もの空白があったのやら甚ほとんどその痕跡さえ見分けられない曷これが甚外の世界に通ずる窓なら甚どうやらそのガラスは甚くもりガラスで出来ているらしい曷

弭法人税汚職甚市に飛び火彑……弭工業のメッカに甚学園都市を彑……弭相つぐ操業中止甚総評近く甚見解発表彑……弭二児を絞殺甚母親服毒彑……弭頻発する自動車強盗甚新しい生活様式が甚新しい犯罪を生む？彑……弭三年間甚交番に花をとどけた甚匿名少女彑……弭東京五輪甚予算でもめる彑……弭今日も通り魔甚二少女切らる彑……弭睡眠薬遊びにむしばまれる甚学園の青春彑……弭株価にも秋風の気配彑……弭テナ殳サックスの名手甚ブル殳ジャクソン来日彑……弭南ア連邦に甚再び暴動甚死傷二百八十彑……弭女をまじえた甚泥棒学校甚授業料なし甚テストに合格すれば甚卒業証書彑

欠けて困るものなど甚何一つありはしない曷幻の煉瓦を隙間だらけにつみあげた甚幻の塔だ曷もっとも甚欠けて困るようなものばかりだったら甚現実は甚うっかり手もふれられない甚あぶなっかしいガラス細工になってしまう……要するに甚日常とは甚そんなものなのだ……だから誰もが甚無意味を承知で甚わが家にコンパスの中心をすえるのである曷

それから甚ふと甚思いがけない記事が目にとまった曷

弭十四日午前八時ごろ甚東亜建設で建築作業中の横川町三○の東亜住宅建設地で甚作業中の日ノ原組ダンプカ殳運転手田代勉さん(二八)は甚くずれ落ちた砂の下敷きになり重体甚近くの病院に収容したが甚まもなく死亡曷横川署のしらべでは甚十メ殳トルの砂山をくずしているうち甚下の砂を取りすぎたのが原因らしい曷ま

なるほど……この記事が甚連中の目的だったというわけか曷只で注文に応じてくれたりしたわけじゃない曷記事のまわりに甚赤インクで枠を入れてなかっただけでも甚めっけものだ曷そう言えば甚ブラックﾚジャックとかいう甚物騒なしろものがあったっけ……皮の袋に甚砂をつめたもので甚鉄や鉛の棒に匹敵するほどの打撃力をもっているという……いくら甚流れ動くからといって甚砂は水とはちがうのだ……水は泳ぐことができるが甚砂は人間を閉じこめ甚圧し殺す……

事態を甚甘く見すぎていたようである曷

しかし甚作戦変更にふみきるまでには甚やはり甚かなりのためらいと甚時間が必要だった曷女が砂掻きに出て行ってから甚四時間はたっていただろう曷ちょうど甚二度目の甚モッ

コ搬びの男たちが甚予定の仕事を終えて甚オゕト三輪の方に引返していったところだ曷耳をすませ甚男たちが戻ってこないのを見とどけてから甚そっと起出して服をつける曷女が甚ランプを持って行ってしまったので甚万事手さぐりだ曷靴のなかには甚口元までいっぱいに砂がつまっていた曷ズボンの裾を甚靴下のなかにたくしこみ甚ゲゕトルをとり出して甚ポケットにねじこんだ曷採集道具などは甚分りやすいように甚戸口のわきにまとめておくことにする曷土間に降りてしまうと甚厚い砂の絨緞（じゅうたん）のおかげで甚足音に気をくばる必要はなかった曷

女は甚せっせと砂掻きに余念がない曷砂に切りこむ甚軽いスコップの手さばき……乱れのない甚力のこもった息使い……足もとのランプにおどる甚ひき伸ばされた影……男は甚建物の角に身をひそめ甚じっと呼吸をととのえる曷手拭の両端を甚両手でつかんで甚強く左右に引き甚あと十数えたら甚飛び出そう……すくった砂をもち上げようと甚重心を傾けた瞬間をねらって甚一気に襲いかかるのだ曷

むろん甚危険がないとは断言できない曷それに甚あと三十分もすれば甚彼等の態度が急変しないともかぎらないのである曷たとえば甚例の甚県の役人のこともあるわけだ曷最初甚部落の老人は甚彼をその役人かと思い違えて甚ひどい警戒の色を示したものである曷役人の調査が甚近く予定されていたのだろう曷だとすると甚その実現によって甚部落内の意見が対立し甚もはや彼の存在を隠しきれず甚これ以上閉じ込めておくことを甚あきらめてくれないとも限らないのだ曷ただし甚その三十分が甚半年甚もしくは一年以上に引きのばされないとい

う保証も甚同様にない曷三十分と甚一年が甚五分と五分との確率に甚賭けたりするのはもうまっぴらである曷

　もっとも甚救援の手がとどいた場合のことを考えると甚仮病のふりをつづけていたほうが甚事は有利にはこぶにちがいない曷彼が甚思いまどったのも甚やはりその点についてだった曷法治国家に住んでいる以上甚救援を期待するのが当然である曷失踪者がしばしば甚謎の霧の向うに消えたまま甚消息を絶ってしまうといっても甚それは多く甚本人の意志によるものだろう曷それに甚犯罪のにおいがしないかぎり甚刑事あつかいではなく甚民事のあつかいになるので甚警察も甚必要以上の深入りは出来ないらしいのだ曷だが甚彼の場合は甚まるで事情がちがっている曷このとおり甚救いを求めて甚死にもの狂いの手をさしのべているのだ曷なにも甚直接甚彼の声を聞き甚あるいは姿を見なくても甚主人を失った彼の下宿を一と目みただけで甚はっきり感じとれるにちがいない曷ページを開いたままの甚読みさしの本……小銭をほうり込んだままの甚通勤着のポケット……額は少なくても甚最近おろした跡のない貯金通帳……まだ整理を終えてない甚乾燥中の昆虫箱……切手をはって甚出すばかりになっている甚新しい採集瓶の注文書……すべてが中断をこばみ甚生き続けようとしている彼の意志を示すものばかりだ曷訪問者は甚いやでもその部屋中から聞えてくる甚哀訴の声に耳をかさずにはいられまい曷

そう……もし甚あの手紙のことさえなかったら……しかし甚あったものは甚あったのだ……夢でさえ甚ああして真実を告げているというのに甚いまさら自分で自分を言いくるめるようなことをして甚何になる？　言いのがれはもう沢山だ曷遺留品たちはもう死んでいる曷彼自身の手によって甚とっくに息の根をとめられてしまったのだ曷

彼は甚こんどの休暇について甚ひどく秘密めかした態度をとり甚同僚の甚誰にも甚わざと行先を告げずにきてしまった曷それも甚ただ黙っていただけでなく甚意識して謎めかすように努めさえした曷これは甚日常の灰色に甚皮膚の色まで灰色になりかけた連中を甚じらせてやるには甚この上もない有効な手口である曷灰色の種属には甚自分以外の人間が甚赤だろうと甚青だろうと甚緑だろうと甚灰色以外の色をもっていると想像しただけで甚もういたたまらない自己嫌悪におちいってしまうものなのだ曷

めくるめく甚太陽にみたされた夏などというものは甚いずれ小説か映画のなかだけの出来事にきまっている曷現実にあるのは甚硝煙の臭いがたちこめる新聞の政治欄を下に敷いて寝ころがる甚つつましやかな小市民の日曜日……キャップに磁石がついた魔法瓶と甚罐詰（かんづめ）のジュ゛ス……行列して手に入れた一時間百五十円の貸ボ゛トと甚魚の死骸から湧く波打際の鉛色のあぶく……そして最後が甚疲労で腐りかけた満員電車……誰もがそんなことは百も承知でいながら甚ただ自分を詐欺にかかった愚かものにしたくないばっかりに甚その灰色の

キャンバスに甚せっせと幻の祭典のまねごとを塗りたくるのだ曷むりやり甚たのしい日曜日だったと言わせようとして甚むずがる子供を小突きまわす甚みじめな不精ひげの父親たち……誰もが一度は見たことのある甚電車の隅の甚小さな光景……他人の太陽にたいする甚いじらしいほどのあせりと妬み……

だからと言って甚それだけなら甚ことさらむきになるほどのことでもない曷もし甚あの男までが甚他の同僚たちと同じような反応を見せたりしなかったら甚はたして甚あれほど依怙地(いこじ)になっていたかどうか甚疑わしいものである曷

彼は甚その男だけには甚一応の信頼をよせていた曷いつも甚顔を洗ったばかりのような甚はれぼったい眼の甚組合運動に熱心な男だった曷めったに見せたことのない本心を甚真面目に打明けてみたことさえある曷

匍どうでしょう?……ぼくは甚人生に甚よりどころがあるという教育のしかたには甚どうも疑問でならないんですがね……畚

匍なんです甚その甚よりどころと言うのは?畚

匍つまり甚無いものをですね甚あるように思いこませる甚幻想教育ですよ……だから甚ほら甚砂が固体でありながら甚流体力学的な性質を多分にそなえている甚その点に甚非常に興味を感じるんですがね……畚

相手は甚まごつき甚ひょろりとした猫背を甚いっそう前こごみにする曷しかし甚表情はいぜんとして甚開けっぱなしのままだ曷べつに嫌がっている様子はない曷誰かが甚彼のことを甚メビウスの輪のようだと評したことがある曷メビウスの輪とは甚一度ひねった紙テ𠮟プの両端をまるく貼り合わせたもので甚つまり裏も表もない空間のことだ曷組合活動と甚私生活とが甚メビウスの輪のようにつながっているというほどの意味だろうか曷皮肉と同時に甚多少は称讃の気持もこめられていたように思う曷

匍つまり甚リアリズム教育ということですか？盒

匍いや甚ぼくが砂の例をもちだしたのは……けっきょく世界は砂みたいなものじゃないか……砂ってやつは甚静止している状態じゃ甚なかなかその本質はつかめない……砂が流動しているのではなく甚実は流動そのものが砂なのだという……どうも甚上手く言えませんが……盒

匍分りますとも曷実用教育には甚どうしたって甚相対主義的な要素が入りこんできちゃいますからねえ曷盒

匍そうじゃないんだ曷自分自身が甚砂になる……砂の眼でもって甚物をみる……一度死んでしまえば甚もう死ぬ気づかいをして甚右往左往することもないわけですから……盒

匍理想主義者なんだなあ甚先生は……思うに甚先生は甚生徒たちをこわがっているんじゃないんですか？盒

匍しかし甚ぼくは甚生徒もまあ甚砂のようなものだと思っていますから……盒

そんな噛み合わないやりとりにも甚一向に気を悪くした様子はなく甚白い歯をみせて甚さわやかに笑うのだ曷はれぼったい眼が甚肉のひだの間にかくれてしまう曷仕方なしに甚彼も甚ぼんやりと微笑を返す曷まったくこれは甚メビウスの輪だ曷いい意味にも甚悪い意味にも甚メビウスの輪だ曷そのいい半面だけにでも甚じゅうぶん敬意をはらってやる価値はある曷

ところが甚そのメビウスの輪までが甚彼の休暇に対しては甚他の同僚たちと同じ甚灰色の妬みをあからさまに示したのだ曷おおよそメビウスの輪らしくない曷がっかりすると同時に甚小気味よくもあった曷美徳に対しては甚誰もがとかく甚意地悪になりがちなものである曷おかげで甚じらすたのしみに甚ずっしり重みがくわえられることになってしまった曷

そこで甚例の手紙になるわけだ……すでに甚くばられてしまった甚とり返しのつかないカﾀﾞド……昨夜の夢の強迫は甚決していわれのないものではなかったのである曷

彼とあいつとのあいだに甚まるで愛情がなかったといえば甚それは嘘になる曷ただ甚互いにすねあうことでしか甚相手を確かめられないような甚多少くすんだ間柄だったというだけだ曷たとえば甚彼が甚結婚の本質は甚要するに未開地の開墾のようなものだと言えば甚あいつの方では甚手狭になった家の増築であるべきだと甚わけもなく憤然として言い返す曷逆を言えば甚おそらく逆の答えをしたにちがいない曷もうまる二年と四カ月甚あきずに繰返して

きた甚シ殳ソ殳ゲ殳ムだ曷情熱を失ったというよりは甚むしろ情熱を理想化しすぎたあげくに甚凍りつかせてしまったと言ったほうがいいかもしれない曷

そこで甚彼は甚わざと行方を告げずに甚しばらく一人旅に出ることを甚いきなり手紙で知らせてやることにしたわけだ曷同僚たちに甚あれほど効果のあった休暇の秘密が甚あいつにだけは甚無効であったりするはずがない曷だが甚宛名を書き甚切手まではったものの甚いざとなるとさすがに馬鹿らしく甚そのまま机の上にほうり出して来てしまった曷

その無邪気ないたずらが甚結果としては甚持主にしか開けられない甚盗難防止装置つきの自動錠の役目をすることになってしまったのだ曷あの手紙が甚誰の目にもとまらなかったなどと言うことはありえない曷まるで甚逃亡が自分の意志であることの声明書を甚わざわざ残してきたようなものである曷現場にいたことを甚すでに目撃されていながら甚ごていねいにも指紋を拭き消したりして甚かえって犯意を証拠だててしまった甚愚かな犯人のやり口にそっくりではないか曷

チャンスは甚はるかに甚遠ざかってしまった曷いまさらそんな可能性にしがみついてみたところで甚期待の自家中毒に苦しめられるだけのことである曷いまとなっては甚扉を開けてくれるのを待たずに甚こちらからこじ開け甚力ずくでも出ていくしかない曷もはや甚どんなためらいも甚口実にはなりえないのだ曷

痛いほど砂にくいこませた爪先に甚全身の重みをかけ甚十かぞえたら甚飛び出そう……しかし甚十三まで数えても甚まだ思いきれず甚それからさらに四呼吸も重ねて甚やっとふみきっていた曷

その意気込みのわりには甚男の動作は緩慢だった曷砂に力を吸われてしまうのだ曷すでに女は振向き甚スコップを斜めに身構えて甚呆然とこちらを見つめている曷

もし女が甚本気で抵抗する気になっていたら甚結果はまるでちがったものになっていただろう曷しかし甚不意をつこうという彼のねらいは当っていた曷男のあせりもひどかったが甚女も驚愕（きょうがく）にいすくめられていた曷構えたスコップで甚男をおし返す才覚さえ働かなかったらしい曷

匍声を出すな……乱暴はしない……静かにしているんだ……畚

ひきつった声で甚囁（ささや）きつづけ甚やみくもに手拭を口の中におしこんでしまう曷その不器用で盲めっぽうな行為にたいしてさえ甚女はさからいもせず甚ほとんどされるままになっていた曷

女の受身に気づいて甚やっと自制をとりもどす曷すでに半分ほど押しこんであった手拭を甚いったん引出してから甚あらためて口にかませ甚首の後ろで甚固く結んだ曷つづけて甚用意してあったゲﾇトルで甚女の両手を甚力いっぱい後ろ手にしばりあげた曷

匍さあ甚家の中に入るんだ！盍

女は甚よほど気勢をそがれたらしく甚行動に対してばかりでなく甚言葉に対しても甚ひどく従順だった曷敵意どころか甚抗議の色さえ示そうとしない曷おそらく一種の甚催眠状態にあるのだろう曷われながら甚あまり手際がよかったとは思われず甚それがかえって暴力的な効果をあらわし甚女の抵抗力をうばってしまったにちがいない曷

女を土間から追いあげる曷もう一本のゲﾇトルで甚両足のくるぶしのあたりを甚くくり合わせる曷暗がりの中の甚手さぐりの仕事だったので甚念入りに甚残った部分で甚さらにもう一とまきしめつけておく曷

匍いいか甚じっとしているんだ……大人しくさえしていれば甚危害はくわえない……しかし甚こっちだって甚必死なんだからな……盍

女の息使いがするあたりに甚目をこらしながら甚戸口の辺まで後ずさり甚そこから急に駈けだして甚ランプとスコップをつかむと甚すぐまた中にとって返した曷女は甚ややうつむきかげんの横倒しになり甚呼吸にあわせて甚しきりと顎を上下していた曷息を吸うとき甚顎を

前につきだすのは甚畳の砂を甚いっしょに吸込んでしまうのをさけるためだろう曷吐くときには甚逆に甚小鼻をふるわせ甚それで顔のまわりの砂を甚吹きちらしているつもりらしい曷

匍まあ甚しばらく甚がまんしてもらうんだな曷モッコの連中が戻ってくるまでの辛抱だ曷ぼくがさんざん舐めさせられた甚でたらめと比べりゃ甚文句を言えた義理じゃあるまいさ曷それに甚宿泊料も甚ちゃんと払わせていただきますしね……もっとも甚こっちで勝手に計算させてもらった甚実費だけどね……かまわないでしょう？……かまうもんか！……本来なら甚只が当然のところなんだが甚そんなことで帳消しにされちゃかなわないから甚むりやり置いていってやるんだ曷奄

シャツの襟元をつまんで甚空気を送りこみながら甚気負い立った落着かない様子で甚しばらく外の気配に耳そばだてる曷そうだ甚ランプの灯は消しておいたほうがよさそうだ曷ほやを持上げ甚吹き消しかけたが……いや甚その前に甚もう一度女の様子をたしかめておこう曷足の結び目は甚じゅうぶんに固く甚指をさしこむ余地もない曷手首もすでに甚赤黒くむくみを帯びて甚箆のようにつぶれた爪も甚古いインクのしみのような色に変っていた曷

さるぐつわの具合も甚申し分なさそうだ曷ただでさえ冴(さ)えない色の唇を甚ほとんど血の気が失せるまでに甚左右に強くひきのばし甚そこだけ見ると甚まるで妖怪の形相である曷したたる唾液が甚頬の下の畳を黒く染めている曷ランプの焔(ほのお)がゆれるたびに甚そこから声にならない絶叫が聞えてくるようだった曷

甫しかたがないさ甚自分でまいた種なんだからな……盒思わず甚気ぜわしげな早口で甚甫だまし合いは甚お互いさまだろう？　こっちだって甚人間なんだから甚犬に鎖をつけるようには甚簡単にいかないってことさ……誰が見たって甚立派な正当防衛だよ曷盒

ふと甚女が首をねじまげ甚薄目の隅で甚彼をとらえようとした曷

甫なんだ？……なにか甚言いたいのか？盒

きゅうくつそうに甚女が首を動かした曷うなずいたようでもあり甚否定したようでもある曷ランプをよせて甚その眼の色を読もうとする曷すぐには男は信じられない曷うらみでも甚憎しみでもない甚ただ無限の悲しみをたたえて甚何かを訴えているようなのだ曷

まさか……気のせいさ……眼の色などというのは甚要するに言葉の言いまわしにすぎないんだ……筋肉がない目の玉に甚表情なんかがあってたまるものか曷そうは思いながらも甚男はたじろぎ甚さるぐつわをゆるめようと甚つい手をのばしかけていた曷

手をひっこめる曷あわててランプを吹き消す曷モッコ搬(はこ)びの声が近づいていた曷消したランプを甚分りやすいように甚上りがまちの端におき甚流し場の下のやかんから甚口づけで水を飲んだ曷スコップをにぎって甚戸口のわきに身をひそめる曷汗が吹出す曷もうじきだ……あと甚五分か十分の辛抱だ……採集箱を甚しっかりと片手に引きよせた曷

匍おうい！盍
　つぶれた声が叫んだ曷
匍何してるんだよお！盍
　まだ幼い感じが残っている甚はずみのある声があとをつづけた曷
　穴の中は甚手ざわりを感じられるほどの闇に閉ざされていたが甚外にはすでに甚月が出ているらしく甚砂と空との境界線に甚男たちの影が一とかたまりになって甚ぼんやりにじんで見えていた曷
　男は甚スコップを右手に甚穴の底を這うようににじりよった曷
　崖の上から甚卑猥な笑い声がおこった曷石油罐をつり上げるための甚鈎（かぎ）つきの口ゲプが甚たぐりおろされてきた曷
匍おかあちゃん甚早いとこ甚たのむよお！盍
　同時に甚男は甚口ゲプをめがけ甚全身をばねにして砂を蹴上げた曷
匍おい甚上げるんだ！盍石の中にでもめり込ませそうな力をこめて甚十本の指を甚こぶだらけの口ゲプにからみつかせ甚あらんかぎりの声をふりしぼるのだ曷匍上げるんだ！　上げるんだ！　上げるまで甚この手は離さんからな！……女は甚しばって甚家の中にほうり込んである！　助けたけりゃ甚早くこの綱をあげろ！　それまでは甚女には甚指一本だって触れさ

せはしないからな！……うっかり甚降りて来たら甚脳天をスコップで叩き割ってやる……裁判になりゃ甚こっちの勝だ！　手加減なんぞするものか！……さあ甚なにをぐずぐずしているんだ！　いますぐ上げてくれれば甚訴えるのはやめて甚見のがしてやってもいい……不法監禁の罪は甚軽くはないぞ！……どうしたんだ？　さっさと引上げたらどうなんだ！盃

降りそそぐ砂が甚顔をうつ曷襟元から甚シャツの中に甚ひんやりとした感触が甚みるみる重みをましてくる曷熱い息が唇を焼く曷

上では甚なにやら甚意見の交換がはじまったらしい曷と甚いきなり強い手ごたえがあって甚口ﾌﾟが引上げられはじめた曷予想以上の甚はずみのある重さが甚指から口ﾌﾟをむしり取る曷男は甚力を二倍にして甚しがみついた……胃のあたりから甚笑いに似た激しいけいれんが甚しぶきをあげて噴き上ってくる……一週間の悪夢が甚ばらばらになって甚飛び散って行くようだ……よかった……よかった……これで甚助かったのだ！

ふいに体重が消えて甚宙に浮んだ……船酔いのような感覚が甚すうっと体の中を通りぬけ甚それまで手の皮膚をよじってさからっていた口ﾌﾟが甚無抵抗に手のなかに残った曷

上の連中が甚手を離したのだ！……半廻転して甚首のつけ根から下に甚砂の上に投げだされる曷体の下で甚採集箱が甚いやな音をたてた曷つづけて甚何かが甚頬をかすめて飛んだ曷口ﾌﾟの先の甚鉤だったらしい曷ひどいことをする奴等だ曷倖い甚けがはなかった曷採集箱

が当った甚脇腹のへんをのぞけば甚べつに痛むところもない曷反射的に立上って甚口ゞプを探した曷もう甚引上げられてしまった後だった曷

匍馬鹿やろう！盍

男は甚切々に甚声をつまらせ甚わめき立てる曷

匍馬鹿やろう！　結局甚後悔するのは甚そっちの方なんだぞ！盍

なんの反応もかえってこない曷ただ無言の囁きが甚煙のように甚ただよっているだけだ曷それが甚敵意であるのか甚それとも笑いをこらえた嘲りであるのかも甚判断がつかず甚ますます耐えがたく甚男を追いつめるのだ曷

怒りと甚屈辱が甚一本の鉄芯になって甚男を内側から硬直させた曷爪を甚ねばつく手のひらに食い込ませながら甚なおも叫びつづけた曷

匍まだ分らないのか！　口で言ったって甚分りそうにないから甚分るようにしてやったんじゃないか！　女は甚しばってあるって甚言っただろう？……いますぐ甚おれを引上げるか甚さもなけりゃ縄梯子をよこすまで甚女はずっとあのままだからな！……もう甚誰も甚砂掻きする者なんかいなくなるんだ……それでもいいのか？……よく考えてみろ……ここが甚砂で埋まったら甚困るのはそっちの方なんだろう？……砂が甚ここを越えて甚どんどん部落に侵入しはじめるんだぞ！……どうしたんだ？……なぜ返事をしないんだ！盍

返事のかわりに甚男たちは甚あっけないほど無造作に甚モッコを引きずる音だけを残して甚立去ってしまった曷

匍なぜだ?……なぜ甚そんなふうに甚黙ったままで行ってしまうんだ?盍

それはもう甚自分だけにしか聞えない甚かすかな悲鳴だ曷男は甚ふるえながら身をこごめ甚手さぐりで甚こわれた採集箱の中身をかきあつめる曷アルコ彡ルの容器に甚ひびが入っていたらしく甚手をふれた瞬間甚すみきった涼しさが甚指のあいだにぱっと拡がった曷男は甚声を殺してすすり泣いた曷べつに悲しくはなかった曷まるで他人が泣いているような感じだった曷

ずるい獣のように甚吸いつく砂曷足をもつらせながら甚闇の中に甚かろうじて戸口をさぐり当てた曷蓋の蝶番(ちょうつが)いが外れた甚採集箱を甚いろりのわきに甚手探りでそっと置く曷空いっぱいにこもって鳴る風の音曷いろりの隅の空罐のなかから甚ビニ彡ルでくるんだ甚マッチをとりだして甚ランプに灯をつけた曷

女は甚姿勢を変えず甚角度だけを甚もとの位置からわずかにずらせていた曷顔を甚いくらかでも戸口の方へ向けかえ甚外の様子をたしかめるつもりだったのだろう曷光に甚一瞬甚またたいたが甚すぐまた固く眼を閉じてしまった曷彼がうけた甚あの無残な仕打ちを甚女はいったいどう受取ったのだろう?……泣きたけりゃ甚泣くがいいし甚笑いたけりゃ甚笑うが

いい……まだ負けと決ったわけじゃないのだ曷いずれ甚時限爆弾の鍵をにぎっているのは甚このおれなのだ曷

男は甚女の後ろに甚片膝をつく曷一度ためらい甚それからむしり取るように甚さるぐつわを解いてやった曷べつに後ろめたく思ったわけではない曷まして憐みや甚いたわりの気持などでは甚さらになかった曷

ただ疲れ果てていた曷これ以上の緊張には耐えられなかった曷それに甚考えてみれば甚さるぐつわの必要など甚もともとなかったのだ曷あの時だって甚女が救いを求める叫び声でもあげていてくれたほうが甚かえって相手を狼狽させ甚勝負を早めていてくれたかもしれないのだ曷

女は顎をつきだしてあえいだ曷手拭は甚女の唾液と口臭で甚鼠の死骸のようにずっしりと重い曷痣(あざ)になって刻みこまれた手拭の跡は甚おいそれとは消えてくれそうにない曷干魚のようにこわばった頬のしこりを甚解きほぐそうとして甚しきりに下顎の運動をくりかえした曷甫もうじきだ……盍指先につまんだ手拭を甚土間にむかってほうり投げ甚甫そろそろ甚相談がまとまっている頃だ曷縄梯子をかついで甚じきに甚すっ飛んでくるさ曷このままじゃ甚なんたって甚困るのは向うの方なんだからな……だって甚そうだろう……もしか甚困らないってのなら甚なにもわざわざ甚このおれを罠にかけたりする必要もなかったわけだし……盍

女が甚生唾を飲込み甚唇をしめした曷

甫でも……盒女の舌は甚まだじゅうぶんには機能を回復していないらしく甚卵を殻ごとほおばったような甚含み声で甚甫星は甚出ていますか？盒

甫星？……星が甚どうしただって？盒

甫やはり甚星が出ていなければ……盒

甫出ていなければ甚なんだって言うんだ？盒

　女は甚ぐったり甚それっきりまた黙りこんでしまう曷

甫どうした？　言いかけたことを甚途中でやめることはないだろう！　星占いでもやろうってのかね？　それとも甚この地方の迷信かな？……星のない晩には甚縄梯子を下ろしちゃいかんとかなんとか……どうなんだ甚え甚黙っていちゃ分らんよ！……まあ甚星が出るまで甚待ちたいって言うのなら甚そりゃそっちの勝手だが……しかし甚そんな事をしているうちに甚大風にでもなったら甚どうするつもりだ……それこそ甚星どころの騒ぎじゃなくなるんだぞ！盒

甫星が……盒女は甚ちびたチュﾌﾞブから甚ひねり出すような声で甚甫星が甚こんな時間に甚まだ出ないようじゃ甚とても強い風にはなりませんものねえ……盒

甫なぜ？盒

甫星が甚見えないのは甚靄（もや）のせいですから……盒

甫そんなことを言ったって甚風は現に甚あのとおり吹いているじゃないか曷盒

甫いえ甚あれは甚ずうっと上のほうで甚風がまき返している音ですよ……畚

そう言われてみれば甚そのとおりかもしれない曷星がけむっているということは甚つまり風に甚空中の水蒸気を吹きはらうだけの力がないということだろう曷今夜は大した風にはなるまい……すると甚部落の連中も甚そう結論をあせったりはしないだろう……らちもない甚たわごとだと思っていたのが甚意外に筋のとおった答えだったのだ曷

甫なるほど……しかし甚こちらは甚一向に平気だね……そっちが甚そのつもりなら甚こっちも持久戦だ曷一週間が甚十日になろうと甚十五日になろうと甚いずれ五十歩百歩さ……畚

女が甚足の指を甚強く内側に折りまげた曷小判鮫の吸盤のようになった曷男は笑った曷笑いながら甚吐気がした曷

一体なにをそんなにびくついているのだ？……敵の急所をおさえているのは甚おまえじゃないか……なぜもっと甚落着いた甚観察者の気持になれないのだ！　そうとも甚無事に帰りつけたら甚この体験は甚ぜひとも記録しておく価値がある曷

ほう！　これは驚きました甚先生がついに甚ものを書く決心をされたとはねえ曷やっぱり体験なんだな曷皮膚に刺戟をあたえないでおくと甚ミミズだって甚一人前には育たないって言いますからね……ありがとう甚実はもう甚題まで考えてあるんですが……ほう甚どんな題です？……弭砂丘の悪魔ﾈか甚さもなければ甚弭蟻地獄の恐怖ﾈ……こりゃまた甚ひどく甚猟奇趣味だな曷ちょっと甚不真面目な印象をあたえすぎるんじゃないですか？……そうで

しょうか？……いくら強烈な体験であっても甚出来事の表面をなぞっただけじゃ甚無意味ですからね曷やはり甚悲劇の主人公は甚あくまでも地元の人たちなんだし甚それを書くことによって甚すこしでも解決の方向が示されるのでなければ甚せっかくの体験が泣いてしまいますよ……畜生！……なんです？……どこかで下水の掃除をやっているのかな？　それとも甚廊下にまいた消毒液と甚先生の口から出るにんにくの分解物とが甚なにか特殊な化学反応をおこしているのかもしれない……なんだって？……いえ甚どうぞ御心配なく甚いくら書いてみたところで甚ぼくなんぞ甚いずれ作者などという柄じゃないんだから……これはまた柄にもないご謙遜（けんそん）だ甚作者をそんなふうに特別視する必要はないと思いますがね曷書けば甚それが作者でしょう……さあ甚どうかな甚教師というやつは甚とかくやたらに書きたがるものと甚相場がきまっているが……そりゃ甚職業がら甚比較的いつも作者のすぐ近くにいるからですよ……例の甚創造的教育ってやつですか？　自分じゃ甚チョゞク入れ一つ甚こさえたこともないくせに……チョゞク入れとは甚恐れ入りましたな曷自分が何者であるかに甚目覚めさせてやるだけでも甚立派な創造じゃありませんか？……おかげで甚新しい苦痛を味わうための甚新しい感覚を甚むりやり身につけさせられる……希望だってあります！……その希望が本物かどうか甚その先までは責任を持たずにね……そこから先は甚めいめいの力を信じてやらなけりゃ……まあ甚気休めはよしにしましょう甚いずれ教師には甚そんな悪徳なんぞ甚許されちゃいないんだから……悪徳？……作者のことですよ曷作者になりたいっていうの

は甚要するに甚人形使いになって甚自分を人形どもから区別したいという甚エゴイズムにすぎないんだ曷女の化粧と甚本質的には甚なんの変りもありゃしない……きびしいですな曷しかし先生が甚作者という言葉を甚そういう意味に使っておられるのなら甚たしかに甚作者と甚書くこととは甚ある程度区別すべきかもしれませんね……でしょう？　だからこそ甚ぼくは甚作者になってみたかったんですよ曷作者になれないのなら甚べつに書く必要なんかありゃしないんだ！

……ところで甚駄賃をもらいそこねた子供は甚どんな表情をしていたっけ？

17

崖の正面の下あたりで甚短く鳥が羽ばたくような音がした曷ランプをつかんで甚飛び出してみる曷こもでくるんだ甚包みが一つ落ちていた曷すでに人影はない曷すかさず甚大声で呼んでみた曷返事のもどってくる気配もなかった曷こもにからげた縄をむしりとる曷なかみの分らない荷物は甚好奇心という引金つきの爆薬だ曷いやでも甚崖をのぼるための道具が入っているのだと甚想像せずにはいられなかった曷連中も甚いまさら顔出しもならず甚道具だけをほうり込んで甚そのまま逃げだしてしまったのだろう曷

しかし甚こものなかみは甚小さな新聞紙の包みと甚きつく木の栓をした四合瓶だけだった曷紙包みの中には甚二十本入りの新生が三箱曷そのほかには甚嘘のように何もない曷あらためて甚こもの端をつかんで強くふってみたが甚こぼれ落ちるのは砂ばかり……せめてと期待をかけてみた甚手紙のきれはし一枚甚見当らないのだ曷瓶の中身は甚餅かびの臭いがする甚焼酎だった曷

いったい何んのつもりだろう？……取り引きだろうか？……インディアンは甚友好のしるしに甚タバコを交換しあうと聞いたことがある曷酒も甚一般に甚祝いごとのしるしだ曷するとやはり甚妥協の意志を甚まえもって甚こういう形で表示してきたと考えてもいいのではあるまいか？　とかく田舎の人間は甚気持を言葉であらわすのを甚はにかむ傾向がある曷つまりはそれだけ甚正直者だということだ曷

一とまず甚納得すると甚なにはさておき甚まずタバコだ曷一週間甚よくも辛抱できたものだと思う曷なれた手つきで甚ラベルのわきを甚四角く破ってむしりとる曷すべすべした蝋紙の感触曷底を指ではじいて甚叩きだす曷つまむ指先が甚小刻みにふるえる曷ランプの焔で甚火をつける曷深々と甚ゆっくり甚胸いっぱいに吸いこむと甚落葉の香りが甚血管の隅々にまでしみわたった曷唇がしびれ甚瞼の裏側に甚ずっしりとしたビロ𠮟ドの幕がたれた曷しめつけられるような眩暈（めまい）に甚総毛立った曷

四合瓶をしっかり抱えこむと甚借り物のように遠くに感じられる脛の上に甚やっと重心を支えながら甚ゆらめく足取で家にもどった曷頭の鉢には甚まだしっかりと甚眩暈のたががはまっている曷女の方を見ようとするのだが甚どうしても顔が正面にむけられない曷片眼の隅で甚はすかいにとらえた女の顔が甚ひどく小さく見えた曷

匍おくりものだよ甚ほら……盍四合瓶を高くかかげて甚ふって見せ甚匍まったく甚気がきいているじゃないか甚前祝いに甚いっぱいやってくれって言うんだな曷言わんこっちゃない……ちゃあんと甚最初から分っていたことさ……ま甚すんだことは甚すんだこと……どうです甚いっぱい甚つき合いませんか?盍

返事のかわりに甚女はじっと目を閉じた曷いましめを解いてもらえないので甚すねているのだろうか?　馬鹿な女だ曷いい返事の一つも聞かせてくれれば甚すぐにも解いてやったかもしれないのに曷それとも甚ふさぎ込んでいるのだろうか?　せっかくつかんだ男を甚引きとめておくことが出来ず甚けっきょく手離さなければならなくなったことについて曷それも一理ありそうだ……女はまだ甚三十そこそこの寡婦(かふ)なのだ曷

女の足の裏と甚甲との甚境い目に甚いやにくっきりとくびれ目がついていた曷わけもなくまた笑いがこみあげてくる曷女の足が甚なんだってそうおかしいのだろう?

匍タバコ甚吸うんだったら甚火をつけてやろうか?盍

匍いえ甚タバコは甚喉がかわきますから……盍かすかな声で甚横に首をふる曷

匍じゃあ甚水を飲ませてあげようか？盒
匍まだ甚よろしいです曷盒
匍遠慮はいらんよ曷べつに甚個人的なうらみで甚あんたをこんな目にあわせているわけじゃないんだ……作戦上甚やむを得ない手段だったってことは甚あんたにだって分るはずだろう？　おかげで向うも甚どうやら甚折れてきたようだし……盒
匍男手のあるところには甚毎週一度甚酒とタバコの配給があるんですよ曷盒
匍配給……？盒せっせと飛んでいるつもりで甚実は窓ガラスに鼻づらをこすりつけているだけのオオイエバエ……学名甚Muscina stabulans……ほとんど視力をもたない甚見掛け倒しの複眼……狼狽をかくそうともせず甚うわずった声で匍しかし甚なにもそんな面倒なことをしてもらわなくたって甚勝手に自分で甚買いに出りゃいいじゃないか！盒
匍でも甚なかなか甚きつい仕事ですから甚とてもそんな時間はありませんしねえ……それに甚部落のためにもなっていることですから甚部落会の方で甚費用ももっていただけるんですよ曷盒
　すると甚妥協どころか甚降服の勧告だったのかもしれない！……いや甚もっと悪いことだって考えられる曷彼の存在は甚すでにここの日常を動かす歯車の一つとして甚部品台帳に登録ずみなのかもしれないのだ曷

甫ちょっと甚念のために甚聞いておきたいんだが甚いままでに甚こんな目にあったのは甚ぼくが始めてなんだろうか？……益

甫いえ甚なにしろ甚人手が不足しておりますでしょう？……財産もちも甚貧乏人も甚働きがいのあるものは甚つぎつぎ部落から出て行ってしまいます……とにかく甚砂ばかりの甚貧乏村ですからねえ……益

甫すると甚なんだろうか……益声までが甚保護色に身をひそめ甚砂の色になり甚甫ぼくのほかにも甚誰か甚捕まっているやつがいるわけなんだね？益

甫はい甚去年の秋口のころでしたか甚たしか絵葉書屋さんが……益

甫絵葉書屋？益

甫なんでも甚観光用の絵葉書をこさえる会社の甚セ殳ルスマンとかいう人が甚組合の支部長さんのところに甚たずねて見えられましてねえ……宣伝さえすれば甚都会人むきの甚けっこうな景色だとかで……益

甫つかまったのか？益

甫ちょうど甚人手に困っていた甚並びの家がありましてね……益

甫それで甚どうなった？益

甫間もなく甚亡くなられたそうですよ……いえ甚もともと甚体があまり丈夫なほうじゃなかったそうで……それも甚運わるく甚ちょうど台風のころで甚とくべつ仕事がきつかったん

でしょうねえ……畠

匍なんだって甚すぐに逃げ出さなかったんだ？畠

　女は答えない曷答える必要がないほど甚分りきったことだったのだろう曷逃げられなかったから甚逃げなかった……おそらく甚それだけのことなのだ曷

匍ほかには？畠

匍ええ……今年に入ってからは甚なにか本を売ってまわっていた甚学生さんがいましたっけね曷畠

匍行商かな？畠

匍何か甚反対なことを書いた甚十円ばかりの甚薄っぺらい本でしたっけ……畠

匍帰郷運動の学生だ……そいつも甚やっぱり甚つかまったのか？畠

匍三軒おいた隣に甚いまも甚いるはずですよ曷畠

匍やはり甚縄梯子をはずしてあるんだな？畠

匍若い人たちは甚なかなか甚居ついてくれませんのですよ……どうしたって甚町場のほうが甚給金もいいし甚映画館や食堂だって甚毎日店を開けているんでしょう……畠

匍しかし甚ここから逃げ出すことに甚まだ一人も成功しなかったってわけじゃないんだろう？畠

匍はい甚ぐれた仲間にそそのかされて甚町に出た若いものがおりましたけど……そのうち甚刃物をふりまわすかして甚新聞にまで出されて……刑期があけてからは甚すぐに連れもどされて甚無事に親元でくらしているようですが……盒

匍そんなことを聞いているんじゃない！　ここを逃げ出したっきり甚帰ってこなかった人間のことだ！盒

匍ずっと甚以前のことでしたら……家族ぐるみ甚まんまと夜逃げをしたのもいましたっけねえ……しばらく甚空家になっているうちに甚あぶなく甚とり返しがつかなくなりかけて……本当に甚あぶないんですよ……どこか甚一カ所でもくずれると甚あとはもう甚堤防にひびが入ったようなもので……盒

匍その後は甚ないって言うのか？盒

匍ええ甚ありませんと思います……盒

匍ばかばかしい！盒耳の下の血管が甚瘤になって喉をしめ上げる曷

とつぜん甚地蜂（ぢばち）が卵を産みつけるような姿勢で甚女が体を二つ折れにした曷

匍どうした？……痛むのか？盒

匍はい甚痛みます……盒

色の変った手の甲にふれてみる曷結びめに指をとおして甚脈をよむ曷

匍感じはあるんだろう？　脈もはっきりしているし……まあ甚大したことはないらしいよ曷悪いけど甚文句は甚部落の責任者に言ってもらいたいな曷畚

匍すみませんが甚首の甚耳のうしろの辺を甚掻いてもらえませんか？畚

　不意をつかれ甚拒めない曷皮膚と甚砂の膜のあいだに甚融けたバタ殳のような甚濃い汗の層があった曷桃の皮に爪を立てる感じだった曷

匍すみません……でも本当に甚出て行った人は甚まだいないんですから……畚

　ふと甚戸口の輪廓が甚色のないほのかな線になって甚浮び出た曷月だった曷ウスバカゲロウの羽のような甚淡い光のかけらだった曷目がなれるにつれて甚砂の摺鉢の底全体が甚脂っこい若芽の肌のように甚艶やかなうるおいをおびてくる……

匍いいともさ甚それじゃぼくが最初に逃げ出してやる！畚

18

　待つ時間はつらかった曷時間は甚蛇腹のように甚深いひだをつくって幾重にもたたみこまれていた曷その一つ一つに甚より道しなければ甚先に進むことができないのだ曷しかも甚そのひだごとに甚あらゆる形の疑惑が甚それぞれの武器を手にひそんでいる曷それらの疑惑と論争し甚黙殺し甚あるいは突き倒して進んで行くのは甚なみ大抵の努力ではなかった曷

結局甚待ち呆けのまま甚夜が明けてしまう曷朝は甚窓ガラスの向うから甚鼻や額を甚なめくじの腹のように白くつぶして甚彼をからかっているようだ曷

匍すみません甚水を下さい……盍

どうやら甚ちょっぴり甚ほんのちょっぴり甚うたた寝をしていたらしい曷つかの間の寝汗で甚シャツはもちろん甚ズボンの膝の内側までが甚ぐしょぐしょに濡れていた曷その汗に甚こびりついた砂は甚色も感触も甚しめった麦落雁（むぎらくがん）にそっくりだ曷顔に甚被いを忘れたせいで甚鼻も口も甚冬の水田みたいに甚干上ってしまっている曷

匍すみません甚おねがいします……盍

女も全身甚砂一色に塗りかためられ甚熱病にかかったように甚乾いた音をたてて甚ふるえていた曷女の苦痛が甚電線でつないだように甚そのままこちらに伝わってくる曷やかんのビニ﨟ルをはいで甚まず自分が甚かじりつく曷最初の半口で甚口をすすいでみたが甚とても一度や二度で甚すすぎ切れるものではない曷吐き出したものは甚ほとんどが砂のかたまりだった曷しかし甚あとは甚かまわず甚そのまま水と一緒に胃のなかに流しこむ曷まるで岩石を飲んでいるようなものだった曷

飲んだ水が甚そのまま汗になって甚噴き出してきた曷肩甲骨から背筋にかけて甚鎖骨から乳のまわりにかけて甚脇腹から腰骨のへりにかけて甚ただれた皮膚が甚薄皮をむかれるように痛んだ曷

やっと甚飲みやんで甚言いわけがましく女の口におしこんでやる曷女はやかんに噛みつくと甚口をすすぐこともせず甚そのまま鳩のようにうなって甚飲み込んだ曷たった三口で甚空になってしまった曷むくんだ瞼のかげから甚男を見すえる女の眼に甚はじめて容赦のない非難がこめられる曷空になったやかんは甚紙細工のように軽かった曷

気まずさを甚まぎらせようとして甚体の砂をはたき落しながら甚男は土間に降りた曷濡れ手拭でもこさえて甚女の顔を拭いてやるとしようか曷そっくり汗にして甚流してしまったりするよりは甚よほど理屈にかなったやりかただ曷文明の高さは甚皮膚の清潔度に比例しているという曷人間に甚もしか魂があるとすれば甚おそらく皮膚に宿っているにちがいない曷水のことを思っただけで甚よごれた皮膚は甚何万個もの吸盤になる曷氷のように冷たく透明で甚しかも羽毛のようにやわらかな甚魂の包帯……あと一分おくれたら甚全身の皮膚がべろべろに腐って甚はげ落ちてしまうだろう曷

だが甚水甕をのぞいた男は甚絶望的な悲鳴をあげる曷

匍おい甚からっぽじゃないか！……こいつは甚ぜんぜん甚からっぽだぞ！盍

腕をつっこみ甚かきまわす曷底にこびりついた黒い砂が甚わずかに指先をよごしただけだった曷はぐらかされた皮膚の下で甚無数の傷ついたむかでが甚もがきはじめる曷

匍奴等甚水をとどけるのを甚忘れやがったな！……それとも甚これから甚搬んでくるつもりだろうか？盍

気休めにすぎないことは甚自分でもよく分っていた曷オﾀﾄ三輪が甚最後の仕事を終え甚戻っていってしまうのは甚いつも夜が明けて間もないころだった曷奴等のねらいは分っている曷このまま水の補給を絶って甚音をあげさせようというのだろう曷考えてみれば甚砂の崖を下から崩すことが甚どんなに危険かをじゅうぶんに知りながらも甚黙ってするにまかせておいたほどの連中である曷彼の身を案じる気持など甚毛ほども持ち合わせていないにちがいない曷たしかに甚ここまで秘密を知ってしまった人間を甚いまさら生かして帰すわけにもいくまいし甚やるとなれば甚徹底的にやるつもりだろう曷

戸口に立って甚空を見上げた曷朝の陽差しの甚赤いくまどりで甚やっと見分けられる曷遠慮がちな綿毛の雲……とうてい甚雨を望めるような空模様ではない曷吐く息ごとに甚体の水分が失われていくようだ曷

甫一体甚どうするつもりなんだ！　おれを殺す気か！盍

女は甚相変らず甚黙ってふるえつづけるばかりだ曷おそらく甚何も彼も甚知りぬいた上でのことだったのだろう曷要するに甚被害者面をした甚共犯者だったのだ曷苦しむがいい！……それぐらいの苦しみは甚当然のむくいだ曷

しかし甚その苦しみが甚部落の奴等に伝わってくれるのでなければ甚なんの役にも立ちはしない曷しかも甚伝わってくれるという保証は甚どこにもないのだ曷それどころか甚必要とあれば甚女を犠牲にしてはばからないことも甚じゅうぶんに考えられる曷女がおびえている

のも甚そのせいかもしれない曷逃げ道だと思って甚身をおどらせた柵の隙間が甚実は檻の入口にすぎないことに甚やっと気づいた獣……何度か鼻面をぶつけて甚金魚鉢のガラスが通り抜けられない壁であることを甚はじめて知った魚……ふたたび甚素手でほうり出されてしまったのだ曷いま甚武器を握っているのは甚彼等の側なのである曷

しかし甚おびえてはいけない曷漂流者が甚飢えや渇きで倒れるのは甚生理的な欠乏そのものよりも甚むしろ欠乏にたいする恐怖のせいだという曷負けたと思ったときから甚敗北がはじまるのだ曷鼻の先から甚汗のしずくがしたたった曷また甚何分の一ccかの水分が失われたなどと甚一々気にかけたりするのが甚すでに敵の術中におちいったことなのだ曷コップの水が蒸発してしまうのに甚どれほどの時間がかかるかを甚考えてみるがいい曷不必要に騒いで甚時間という馬を甚駆り立てることもないだろう曷

匍どうだ甚縄を甚解いてやろうか？盍

女は甚疑わしげに甚息をとめた曷

匍ほしくなければ甚かまわないがね……ほしければ甚解いてやる……ただし甚条件があるんだ……許可なしには甚絶対にスコップを持たないこと……どうだ甚約束できるかい？盍

匍おねがいいたします！盍犬のように耐えてきた女が甚突風で裏返ったこうもり傘のように甚哀訴しはじめた曷匍約束なんか甚いくらでもしますから！　おねがいいたします……おねがいしますよ……盍

いましめの跡は甚赤黒い痣になっていた曷その痣の表面に甚白くふやけた膜がかかっている曷女は甚仰向けになったまま甚足首同士をすりあわせ甚手首を交互につかんで甚ゆっくりともみほぐしはじめる曷うめきをこらえ甚歯をくいしばり甚顔中から汗がぶちになって吹き出してくる曷そろそろと甚体をまわし甚尻のほうから甚四つん這いになる曷最後に甚首を甚やっとの思いで引き上げる曷しばらく甚そのまま甚ゆらゆらと揺れていた曷

男も甚上りがまちに甚じっとうずくまった曷唾液をしぼり出しては甚飲み下す曷くりかえしているうちに甚唾液が糊のようにねばって甚喉にからみだした曷さすがに甚睡気は感じなかったが甚疲労で意識が濡れた紙のようになる曷すかしてみると風景が甚濁ったまだらや線になって浮ぶのだ曷まるで絵さがしの風景だ曷女がいる……砂がある……空っぽの水甕がある……よだれを流している狼がいる……太陽がある曷……それから甚彼の知らない何処かには甚熱帯性低気圧もあれば甚不連続線もあるにちがいない曷さて甚この未知数だらけの方程式の甚一体どこから手をつけはじめればいいのだろう?

女が甚立上って甚のろのろと戸口の方へ歩きはじめた曷

匍どこへ行く!盍

避けるように甚口ごもったが甚よくは聞きとれない曷しかし甚その間のわるそうな素振りを甚男は理解した曷やがて甚板壁のすぐ向うで甚ひっそりと放尿の音がはじまった曷なんだかひどい無駄のように思われた曷

なるほど甚時が馬のように駈け出したりすることはないかもしれない曷しかし甚手押し車より遅いということもなさそうだ曷みるみる朝の気温が甚本格的な暑さになり甚目玉や脳味噌を茹ではじめ甚さらには内臓を焦がし甚つづけて肺に火をともす曷

夜のあいだに吸い込んだ湿気を甚蒸気にして甚再び大気に吐きだす砂……光の屈折のせいで甚濡れたアスファルトのように光りだす……曷だがその正体は甚ほうろくで炒り焦がされた麦粉よりも甚まだ乾ききった甚まじりっけなしの1/8m.m.にすぎないのだ曷

やがて甚最初の甚砂なだれ……もう日課になった甚聞きなれた音だったが甚思わず女と顔を見合わせる曷一日砂掻きをしなかったことが甚はたしてどれほどの影響をおよぼすものか……大したことはあるまいと思いながらも甚やはり不安だった曷しかし女は甚黙って目をそらせてしまう曷勝手に一人で心配するがいい甚と甚ふてくされているようでもあり甚そうなると甚それ以上つっこんで聞くのも甚癪(しゃく)だった曷なだれは甚糸のように細まったかと思うと甚ふたたび帯になって広がり甚それを不規則にくりかえしながら甚やがて事もなく止んだ曷

やはり甚気に病むほどのことはなかったらしい曷ほっとすると甚いきなり顔の内側が甚ごくごく脈うちながら火照りだした曷するとそれまで甚つとめて意識にのぼせまいと努めてきた甚例の焼酎が甚暗闇に浮んだ灯のように甚とつぜん彼の全神経を甚一点に引きよせはじめる曷なんでもいいから甚喉をしめしたい曷このままでは甚体中の血が死んでしまう曷けっきょくは甚苦しみの種をまき甚あとで後悔することを百も承知していながら甚もう抗うことはできなかった曷栓をひきぬき甚瓶の口を歯にぶち当てながら甚ラッパ飲みにする曷それでも舌は甚まだ忠実な番犬だった曷不意の闖入者におどろいて甚あばれだした曷むせかえった曷すり傷にオキシフルをふりかけたようなものである曷そのくせ甚三口めの誘惑にも甚ついにうちかてなかった曷とんだ祝い酒もあったものである……

行きがかり上甚女にもすすめてみた曷むろん女は甚強く断わった曷まるで毒を強いられでもしたような甚大げさな拒みかただった曷

あんのじょう甚胃に落ちこんだアルコ𤏋ルは甚すぐにピンポン玉のように甚耳のへんまではね返り甚そこで蜂の羽音をたてはじめる曷皮膚が甚豚皮のように甚こわばりはじめる曷血が腐る！……血が死んでしまう！

甫なんとか甚ならないのか！　自分だってつらいんだろう？　こっちも甚縄を解いてやったんだから甚なんとかしろよ！畚

甫はい……でも甚部落の誰かに甚搬んでもらわないと……畚

甫じゃあ甚そうすればいいじゃないか！盍
甫それは甚私たちが甚仕事をはじめさえすれば……盍
甫冗談を言うな！　やつらの何処に甚こんな無茶な取引きをする権利があるってんだ……さあ甚言ってみろ！……言えはしまい？……そんな権利なんてどこにもありゃしないんだ！盍
　女は目をふせ甚口をつぐむ曷なんてことだろう曷戸口の上に甚ちょっぴりのぞいている空は甚もうとっくに青をとおりこし甚貝殻の腹みたいにぎらついていた曷仮に甚義務ってやつが甚人間のパスポゟトだとしても甚なぜこんな連中からまで査証(さしょう)をうけなきゃならないんだ！……人生はそんな甚ばらばらな紙片れなんかではないはずだ……ちゃんと閉じられた一冊の日記帳なのだ……最初のペゟジなどというものは甚一冊につき一ペゟジだけで沢山である……前のペゟジにつづかないペゟジにまで甚いちいち義理立てする必要などありはしない……例え相手が飢え死にしかかっていたところで甚一々かかわり合っている暇はないのだ……畜生甚水がほしい！……しかし甚いくら水がほしいからって甚死人ぜんぶの葬式まわりをしなければならないとしたら甚体がいくつあったって足りっこないじゃないか！
　二度目の砂崩れがはじまった曷
　女が立上って甚壁から篇をはずした曷
甫仕事はしちゃいかん！　約束だろう？盍
甫いえ甚ふとんの上を……盍

匍ふとん？盍

匍そろそろ甚おやすみにならないと……盍

匍睡たくなりゃ甚自分で勝手にするよ！盍

　地面をゆするような衝撃をうけて甚立ちすくむ曷天井から降りだした砂に甚一瞬あたりがけむって見えた曷砂掻きを休んだ影響が甚ついにあらわれたのだ曷はけ口をなくした砂が甚のしかかってくる曷こらえようとして甚梁や柱が甚苦しげに関節をきしませる曷しかし女は甚奥の鴨居のあたりをじっとにらんだまま甚べつにうろたえた様子もない曷どうやら甚圧力はまだ甚土台のあたりにかかったばかりのところらしい曷

匍ちくしょう甚奴等……本気でいつまでも……こんなまねを甚つづける気なのかな……盍

　なんていう甚大げさな心臓だろう……まるで甚おびえた小兎みたいに甚跳ねまわっていやがる……きめられた巣に落着けないで甚口だろうと甚耳だろうと甚尻の穴だろうと甚もぐり込めそうなところなら甚どこでもかまわないと言わんばかりだ曷唾液のねばりが甚前よりもひどくなった曷しかし甚その割には甚喉のかわきは変らない曷おそらく甚焼酎の酔いで甚適当に中和されているせいだろう曷アルコ₰ルが切れたとたんに甚火を吹くのだ曷燃え上って甚ちりちりの灰になってしまうのだ曷

匍こんなことをして……いい気になりゃがって……鼠の脳味噌ほどもありはしないくせに……もしか甚おれが死んだら甚一体甚どうするつもりなんだ！盍

女は甚なにか言いたげに甚顔を上げたが甚すぐまたもとの沈黙にもどってしまう曷言っても無駄なのだと甚最悪の答えを甚肯定しているようにも思えた曷

匍よかろう……どっちみち甚結末が一つだというなら甚試せるだけのことは甚ためさせてもらうとしようじゃないか！畚

男は甚もう一と口甚口づけで焼酎をあおると甚気負いこんで外にとび出した曷いきなり両眼に甚白熱した鉛の一撃をうけて甚よろめいた曷足跡のくぼみにそって甚めくれた砂が甚渦をまく曷昨夜甚女を襲って甚しばり上げたのは甚たしかあの辺だ……スコップも甚多分甚そのあたりに埋まっているにちがいない曷砂崩れは甚ちょうど中休みに入っていたが甚それでも海側の崖では甚たえず幾らかかの砂が流れつづけていた曷ときおり甚風のせいか甚壁面をはなれて甚布切れのように宙にひるがえったりする曷なだれを警戒しながら甚足先で甚砂の中をさぐった曷

すでに甚砂崩れがあったあとらしく甚かなり深くさぐりを入れているつもりなのだが甚いっこうにそれらしい手応えがない曷やがて甚太陽の直射が甚耐えがたくなった曷きつく絞りこまれた瞳孔……くらげのように踊りだす胃袋……額をつきぬける激痛……もう汗を流してはいけない……これが限度だ曷それよりも甚おれのスコップの方は甚どこにやったっけ？……たしかあのとき甚武器にするつもりで甚持って出て……そう甚それなら甚あの辺に

埋まっているはずだ……地面をすかしてみると甚砂が甚スコップの形に盛上っているのがすぐ分った曷

唾を吐きかけて甚あわててやめる曷わずかでも水気を含んだものは甚体の中に還元してやらなければならないのだ曷唇と歯のあいだで甚砂と唾とを分離し甚歯にこびりついて残った分だけを甚指先でこそげおとした曷

女は甚部屋の隅で甚あちらを向いて甚着物の前をどうにかしていた曷多分甚腰紐をゆるめて甚たまった砂をかき出してでもいるのだろう曷男は甚スコップの柄の中ほどをつかみ甚肩の上に水平にかまえた曷戸口のわきの甚土間の壁をめがけ甚刃を先にして……

背後で女の叫び声がおこった曷全身の重みをかけて甚スコップをつきだした曷スコップは甚あっけなく甚板壁をつきとおしてしまう曷まるで甚しけった煎餅のような手応えだ曷砂に洗われ甚外見はいかにも新しそうに見えるのだが甚実質はすでに腐りかけているらしい曷甫なにをするんです！盍

甫こいつをひっぺがして甚梯子の材料をつくるのさ！盍

べつな場所をえらんで甚もう一度ためしてみる曷やはり同じことだ曷砂が木を腐らせるという甚女の言葉は甚どうやら事実だったらしい曷どこよりも日当りのいい甚この壁でさえそうだとすると甚あとはおして知るべしだ曷よくも甚こんなぶよぶよの家が建っていられたものである……傾き甚ゆがみ甚半身不随になりながら……もっとも最近では甚紙やビニ殳ルだ

けの家でも建つらしいから甚ぶよぶよには甚ぶよぶよなりの甚力学的構造というものがあるのかもしれないが……

　板の部分がだめなら甚今度は横木をためしてみてやろう曷

匍いけませんよ！　やめて下さい！盍

匍どうせ甚そのうち甚砂におしつぶされてしまうんだろう？盍

　かまわず甚打ち込もうと構えた腕に甚わめきながら甚女がむしゃぶりついてきた曷肘をつっぱり甚体をねじって甚ふりほどこうとした曷ところが甚どう計算ちがいしたのか甚ふりまわされたのは甚逆に男のほうだったのだ曷すかさず反撃をこころみる曷しかし甚スコップと女は甚鎖で結び合わされてしまったみたいに甚もうびくともしないのだ曷わけが分らない……すくなくも腕ずくでなら甚負けるはずはなかったのに……二度甚三度と甚土間の上をもみあったあげく甚なんとか組みふせることが出来たと思ったのも束の間甚スコップの柄を楯に甚あっさり逆転させられてしまった曷どうかしている甚多分甚焼酎のせいなのだ……もう相手が女であることなど念頭になく甚反射的に甚曲げた膝頭で甚女の腹を蹴上げていた曷

　女が叫んで甚急に力をぬいた曷すかさず甚はね起きて甚女を上からおさえこむ曷胸がはだけて甚汗みどろになった素肌のうえに甚男の手がすべった曷

　とつぜん甚映写機が故障したように甚二人はじっと動かなくなった曷どちらかが甚何かしなければ甚そのままいつまでも続きそうな甚固くこわばった時間だった曷網目になった女の

乳房の皮下組織を甚ありありと腹のあたりに感じながら甚男の指はまるで独立した生物のように甚じっと息をひそめる曷身じろぎのしかた一つでは甚スコップの取り合いが甚まったく別のものに変ってしまいかねなかった曷

生唾を飲み込もうとして甚女の喉が甚大きくふくらんだ曷男の指も甚それを動く合図だと感じた曷女がしわがれ声で甚さえぎった曷

甫でも甚都会の女の人は甚みんなきれいなんでしょう?盍

都会の女?……たちまち男は鼻白(はなじろ)む……腫れあがった指の熱もさめていく……危険はあっさり通りすぎてくれたらしい……メロドラマの影響が甚こんな砂の中でも甚生きつづけられるものとは知らなかった曷

どうやら甚ほとんどの女が甚股一つひらくにしても甚メロドラマの額縁の中でなければ甚自分の値段を相手に認めさせられないと甚思いこんでいるらしい曷しかし甚そのいじらしいほど無邪気な錯覚こそ甚実は女たちを甚一方的な精神的強姦の被害者にしたてる原因になっているというのに……

彼は甚あいつとの時には甚いつもかならずゴム製品をつかうことにしていた曷以前わずらった淋病が甚はたして全快したかどうか甚今もって確信がもてなかったのだ曷検査の結果は甚いつもマイナスと出るのだが甚小便のあとで甚急に尿道が痛みだし甚あわてて試験管に

とってみると甚はたして白い糸屑みたいなものが浮んでいたりする曷医者はノイロ゚ゼだと診断したが甚疑惑がとけない以上甚同じことだった曷

匍まあ甚私たちには甚おあつらえむきなんじゃない？盒血がすけて見えるような皮の薄い甚小さな顎と唇……その効果を計算に入れた甚変に身軽な意地の悪さで甚匍私たちの関係は甚いずれ商品見本を交換しているようなものでしょう？……お気に召さなかったら甚いつでもお引き取りいたします……封を切らずに甚ビニ゚ルの袋ごしに甚ためつ甚すがめつ甚値ぶみしてるってわけよ……どうかしら？……本当に信用できるのかしら？……うっかり買って甚あとになって甚後悔したりするんじゃないかしら？盒

　しかし甚あいつが甚本心から甚そんな商品見本的な関係に満足していたわけではない曷たとえば甚あいつがまだ寝床の中で甚股に手拭をはさんだまま甚素裸でいるというのに甚こちらはすでに甚追い立てられるような気持で甚ズボンのボタンを掛けはじめているといった甚あの過酸化水素の臭いがする時刻……

匍でも甚たまには甚押し売りしてやろうくらいの気持になってもいいんじゃない？盒

匍いやだね甚押し売りなんて……盒

匍だって甚もう甚なおっちゃっているんでしょう？盒

匍君が本気でそう判断するのなら甚合意のうえで甚素手にしようじゃないか曷盒

匍なんだってそう責任のがれするのよ？盒

甫だから甚押し売りは嫌だって言っているだろう？盒
甫変ねえ……あなたの淋病に甚私が一体どんな責任があるのかしら？盒
甫あるかもしれないさ……盒
甫馬鹿言わないでよ！盒
甫まあ甚とにかく甚押し売りは願い下げだってことさ曷盒
甫それじゃ甚一生甚帽子は脱がないつもり？盒
甫どうして甚そう非協力的なんだろうなあ……一緒に寝ていて甚やさしい気持があれば甚それくらい当然じゃないか曷盒
甫要するに甚あなたは甚精神の性病患者なんだな……それはそうと甚私甚明日は残業になるかもしれないわ……盒

　あくびをしながら甚精神の性病患者か……あいつにしては甚うまい文句を思いついたものだ……だが甚それがどんなにおれを傷つける文句であったかは甚決してあいつには分るまい……第一甚性病は甚メロドラマとは正反対なものだ……メロドラマなんぞが甚この世に存在しないことの甚もっとも絶望的な証拠の品でさえある……コロンブスが甚ちっぽけな船で甚ちっぽけな港に甚こっそり持ち帰ったものを甚みんながせっせと手分けして甚世界中にひろげた……人類が平等だと言えるのは甚死と性病に対してだけかもしれない……性病は甚人類の連帯責任なのだ……だのに甚おまえは甚絶対に認めようとしない……おまえは甚鏡の

向うの甚自分を主役にした甚おまえだけの物語りに閉じこもる……おれだけが甚鏡のこちらで甚精神の性病をわずらいながら甚取り残されるのだ……だから甚おれの指は甚帽子なしでは甚萎(な)えてしまって役に立たない……おまえの鏡が甚おれを不能にしてしまうのだ……女の無邪気さが甚男を女の敵に変えるのだ曷

20

糊をぬったようにこわばる顔甚風速二十メ攴トルの呼吸甚乾いて焦げた砂糖の味がする唾液……おそるべきエネルギ攴の損失だ曷すくなくもコップ一杯分の水は甚汗になって蒸発してしまったにちがいない曷女も甚顔をふせたまま甚のろのろと起上った曷女の砂まみれの頭が甚ちょうど眼の高さにあった曷とつぜん女が甚手鼻をかみ甚すくい上げた砂を両手でもんで甚紙がわりにした曷こごめた女の腰から甚モンペが甚ずり落ちた曷

男はいましげに甚目をそむける曷だが甚いましい一方かというと甚そうも言いきれない曷舌の先には甚渇きとはまたちがった甚奇妙な情感も残っていた曷女が甚あの馬鹿気た文句で甚彼を萎えさせるまでは甚ほんの短い時間ではあったが甚ゴム製品なしに甚彼の指は立派に脈うち甚いきみかえったのだ曷その名残りの火照りはまだ残っている曷発見などと言っては甚大げさすぎるかもしれないが甚これは一応甚注目にあたいする曷

彼はべつに変質者ではないつもりだった曷ただ甚精神的強姦だけは甚どうにも気がすすまない曷生こんにゃくを甚塩もつけずに食うようなものだ曷相手を傷つけるより前に甚まず自分を侮辱することだ曷そのうえさらに甚精神的性病まで引受けなければならないというのは甚一体どういうことだろう？　踏んだり蹴ったりじゃないか曷女の粘膜は甚おれの視線がかすめただけでも甚血を吹かなければならないほど甚果してか弱いものなのか？

ただ甚薄々と感じているのは甚性欲にも甚二つの種類があるのではないかと言うことだ曷たとえば甚メビウスの輪のやつは甚女友達をくどくとき甚かならず味覚と栄養についての講義からはじめることにしているらしい曷――そもそも甚飢えきった者にとっては甚食物一般があるだけで甚神戸牛だとか甚広島の牡蠣（かき）の味だとかいうものは甚まだ存在していない……一応甚満腹することが保証されてから甚はじめて個々の味覚も意味をもってくる……同様甚性欲についても甚まず性欲一般があり甚ついでさまざまな性の味が発生する……性も甚一律に論ずべきではなく甚時と場合に応じて甚ビタミン剤が必要になったり甚うなぎ丼が必要になったりするというわけだ曷いかにも整然とした理論だったが甚惜しむらくは甚その理論に応じて甚性欲一般甚もしくは固有の性を甚すすんで彼に提供した女友達は甚まだ一人もいなかったらしい曷当然のことだ曷男だろうと甚女だろうと甚理論にくどかれる奴なんているわけがない曷馬鹿正直なメビウスの輪も甚そんなことはすっかり承知のうえで甚ただ精神的強姦がいやなばかりに甚せっせと空き家の呼び鈴を押しつづけていたのだろう曷

むろん彼だって甚純粋な性関係などというものを夢想したりするほど甚ロマンチックだったわけではない曷そんなものは甚おそらく甚死に向って牙をむきだす時にしか甚必要のないものだ……枯れはじめた笹は甚あわてて実を結ぶ……飢えた鼠は甚移動しながら甚血みどろな性交をくりかえす……結核患者は一人のこらず甚色情狂にとっつかれる……あとは階段を降りるしかない甚塔の頂上に住む王や支配者は甚ひたすらハレムの建設に情熱をかたむける……敵の攻撃を待つ兵士たちは甚一刻もおしんで甚オナニ殳にふけりだす……

だが甚幸い甚人間はそうやたらと死の危険ばかりにさらされているわけではない曷冬さえ甚恐れる必要のなくなった人間は甚季節的な発情からも自由になることが出来た曷しかし甚戦いが終れば甚武器はかえって足手まといになる曷秩序というやつがやって来て甚自然のかわりに甚牙や爪や性の管理権を手に入れた曷そこで甚性関係も甚通勤列車の回数券のように甚使用のたびに甚かならずパンチを入れてもらわなければならないことになる曷しかもその回数券がはたして本物であるかどうかの甚確認がいる曷ところが甚その確認たるや甚秩序のややこしさにそっくり対応した甚おそろしく煩瑣(はんさ)なもので甚あらゆる種類の証明書……契約書甚免許証甚身分証明書甚使用許可証甚権利書甚認可証甚登録書甚携帯許可証甚組合員証甚表彰状甚手形甚借用証甚一時許可証甚承諾書甚収入証明書甚保管証甚さては血統書にいたるまで……とにかく思いつく限りの紙片れを甚総動員しなければならないありさまだ曷

おかげで性は甚みのむしのように甚証文のマントにすっぽり埋まってしまった曷それで気がすむのなら甚それもよかろう曷だが甚はたして甚証明書はこれで終いなのだろうか？……まだ何か証明し忘れているのではあるまいか？……男も甚女も甚相手がわざと手を抜いているのではないかと甚暗い猜疑（さいぎ）のとりこになる……潔白を示すために甚むりして新しい証文を思いつく……どこに最後の一枚があるのか甚誰にも分らない……証文は甚けっきょく甚無限にあるらしいのだ……

（あいつはおれが甚理屈っぽすぎると言って非難した曷しかし甚理屈っぽいのはおれではなくて甚この事実なのだ！）

匍でも甚それが甚愛情の義務ってものじゃないかしら？盍

匍とんでもない！　消去法で禁止事項を消していった甚残り滓さ曷それほど信じられないのなら甚始めから信じなきゃいいんだよ曷盍

性に贈答用の熨斗をつけたりするような悪趣味まで甚我慢しなければならないほどの義理はない曷性にも甚毎朝きちんとアイロンをかけましょう……性は甚袖をとおしたとたんに古くなり……アイロンをかけて甚皺をのばせば甚すぐまた新品同様になり……新しくなったとたんに甚またすぐ古くなる……そんな卑猥な話にまで甚真面目に耳をかす義務があるというのか？

むろん甚秩序の側で甚それに見合っただけの生命の保証をしてくれるというなら甚まだ譲歩の余地もある曷だが甚現実はどうだろう？　空からは死の棘が降り甚地上でも甚ありとあらゆる種類の死で甚足の踏み場もない曷性の方でも甚うすうすは感じはじめているらしいのだ曷どうやら甚つかまされたのは甚空手形だったらしいと曷そこで甚不服な性を相手の甚回数券の偽造がはじまる曷こいつはけっこう甚いい商売になる曷あるいは甚精神的強姦が甚必要悪として黙認される曷こいつなしには甚ほとんどの結婚が成り立たなくなる曷性の解放論者がやっていることだって甚大同小異だ曷互いに強姦し合うことを甚もっともらしく合理化しているだけのことじゃないか曷そんなものだと思ってしまえば甚それだって結構たのしめるだろう曷しかし甚しまりの悪いカﾌﾟテンを甚たえず気にしながらの解放では甚いやでも精神的性病患者になるしかないわけだ曷あわれな指には甚もう帽子をぬいでくつろぐ場所さえない曷

女も甚敏感に甚男の感情の動きを感じとったらしかった曷結びかけていたモンペの紐を甚途中でとめた曷ほどけた紐の先が甚女の指のあいだからたれ落ちた曷兎のような眼で甚男を見上げる曷兎に似ているのは甚瞼の赤さばかりではなかった曷男も甚時間のなくなった眼で甚女に答える曷すじ肉を煮るような甚強い臭いが甚女のまわりに立ちこめていた曷

紐を手でおさえたままの姿勢で甚女は男のわきを通りぬけ甚部屋に上り甚モンペを脱ぎはじめる曷前からつづきの動作を甚そのまま続けているような甚よどみのない自然さだ曷こういう女が甚本当の女なのだと甚男は心の中でもみ手する曷しかしすぐに反省する曷間抜けな男は甚そんなふうに後れをとって甚ぶちこわしにしてしまうのだ曷急いで男も甚バンドに手をかけた曷

これが昨日までだったら甚あのえくぼや甚しのび笑いと同様甚女の見えすいた芝居だと決めこんでいたかもしれない曷実はそれが真相なのかもしれないのだ曷けれど甚そうは考えたくなかった曷女の体が甚取り引きに使われる段階は甚とうに過ぎてしまった……いまは暴力が状況を決している……かけひきを度外視した甚合意のうえの関係だと考える根拠はじゅうぶんにあるわけだ曷

ズボンといっしょに甚一 とつまみほどの砂が甚指のつけ根をくぐって甚内股に流れおちる……むれた靴下のような臭いが甚こみ上げてくる……ゆっくりと甚しかし確実な充実が甚断水しかけた水道管のような音をたてて甚再び指をみたしはじめる……帽子なしに方向をさした指……翼をひろげ甚すでに裸になっている女の後ろに甚融けこんだ曷

たのしめそうかい？……当りまえさ……すべてが等間隔な甚方眼紙の目にはめこまれたようだ……呼吸も甚時間も甚部屋も甚女も……これが甚メビウスの輪いうところの甚性欲一般

というやつなのだろうか？　だとしても甚どうだい甚この堅肥りした尻のあたりは……街でひろった甚栗のいがみたいな欲求不満などとは甚くらべものにもなりゃしない……

女が片膝をつき甚まるめた手拭で甚首から順に砂をしごきはじめた曷とつぜんまた甚砂崩れがはじまった曷家全体が甚胴ぶるいしながら甚きしみだす曷とんだ邪魔が入ったものだ曷霧になって降る砂に甚女の頭がみるみる白く粉をふく曷肩にも甚腕にも甚砂がつもる曷二人は抱きあったまま甚なだれが過ぎるのを待つしかなかった曷

つもった砂の上に甚汗がしたたり甚その上にまた砂が降る……女の肩がふるえ甚男も過熱して甚いまにも吹きこぼれそうだ……それにしても甚女の太股に甚なぜこれほど激しく誘いよせられるのやら甚わけが分らない……体中の神経を引き抜いて甚一本一本甚女の股にまきつけてやりたいくらいだ……食肉植物の食欲が甚ちょうどこんなふうなのだろう……野卑で甚がつがつしていて甚ばねを仕込んだみたいに力みかえっている……あいつとの時には甚おおよそ経験したことのない一途さだ曷あのベッドの上では甚感じている男と女……見ている男と女……感じている男を見ている男と甚感じている女を見ている女……男を見ている男を見ている女と甚女を見ている女を見ている男……合わせ鏡にうつる甚性交の甚無限の意識化……さいわい甚アメﾌﾞバからつづく甚何十億年もの歴史をひかえた性欲は甚そうめったにすり切れたりはしないだろう……だが甚いまのおれに必要なのは甚このがつがつした情欲なのだ……神経がぞろぞろ甚女の股にむかって這い出していく興奮なのだ曷

なだれが止んだ曷待ちうけていたように甚男も一緒になって甚女が体の砂をはらう手伝いをはじめる曷かすれた声で女が笑った曷乳房から甚腋の下へ……腋の下から甚腰のまわりへ……男の手はしだいに丹念さを増していき甚首にかかった女の指に甚力がこもり甚ふいに驚きの声があがったりする曷

それがすむと甚こんどは女が甚男の体をふく番だ曷男は眼をとじ甚ゆっくり女の髪をなでながら待っている曷髪はこわばり甚ざらついていた曷

けいれん……同じことの繰返し……いつも甚別なことを夢みながら甚身を投げ入れる相も変らぬ反復……食うこと甚歩くこと甚寝ること甚しゃっくりすること甚わめくこと甚交わること……

21

無数の化石の層をつみ重ね甚のりこえてきた甚人類のけいれん……ダイノソアの牙も甚氷河の壁も甚絶叫し甚狂喜して進む甚この生殖の推進機の行く手をはばむことは出来なかった……やがて甚身もだえながら振りしぼる甚白子の打ち上げ花火……無限の闇をつらぬいて甚ほとばしる甚流星群……錆びた蜜柑色の星……灰汁の合唱……

そのきらめきも甚ふいに尾をひいて消えてしまい……男の尻を叩いて甚はげましてくれる女の手も甚もう役には立たない曷女の股をめがけて這い出していった甚神経も甚霜にうたれたひげ根のように甚ちりちりに枯れ甚指は甚貝の肉のあいだで甚萎えつきる曷しばらくは甚みれんがましく腰を突き出したりしていた女も甚やがて甚息切れのした放心のなかに甚ぐったりと身を沈めてしまった曷

タンスのうしろで甚酸っぱく腐った甚古雑巾……悔恨のほこりをあびて甚引返す甚競輪場前の大通り……

結局甚なにも始まらなかったし甚なにも終りはしなかった曷欲望を満たしたものは甚彼ではなくて甚まるで彼の肉体を借りた別のもののようでさえある曷性はもともと甚個々の肉体にではなく甚種の管轄（かんかつ）に属しているのかもしれない……役目を終えた個体は甚さっさとまた元の席へと戻って行かなければならないのだ曷倖せなものだけが甚充足へ……悲しんでいるものは甚絶望へ……死にかけていたものなら甚死の床へ甚と……こんなペてんを甚野性の恋などと甚よくもぬけぬけ思いこんだり出来たものである……回数券用の性とくらべて甚はたしてどこかに取り柄らしいものでもあっただろうか？……こんなことなら甚いっそ甚ガラス製の禁欲主義者にでもなっていたほうがましだった曷

腐った魚油のような甚汗と分泌物のなかを甚反転しながら甚それでも束の間甚まどろんだらしかった曷夢をみた曷割れたガラスのコップと甚床がはずれかかった長い廊下と甚大便が

便器の上まであふれた共同便所と甚水の音だけがして甚いつまでも見つからない洗面所の夢だった曷水筒をもって走っている男がいた曷ほんの一口わけてくれるように頼みこむと甚キリギリスのような顔でにらんで甚駈け去った曷

　目がさめた曷ねばねばと甚舌のつけねで甚熱いにかわが融けている曷渇きが二倍になって戻ってきていた……水がほしい！……キラキラ光る甚水晶の水……コップの底から甚わき立つ気泡の甚銀の軌跡……魚みたいにあえいでいる甚ほこりにまみれ甚蜘蛛（くも）の巣だらけになった甚廃屋の水道管……

　起上ると甚手足が甚水枕のようにだらりと重かった曷土間にほうり出してあった甚空のやかんを甚仰向いた口の上に甚傾けた曷三十秒以上もかかって甚やっと二甚三滴が甚ちょっぴり舌の先をぬらした曷だが甚吸取紙のように乾いて甚待ちうけていた喉は甚よけい狂ったように甚のたうちはじめた曷

　男は甚水を求めて甚流し場のまわりを甚手当りしだいに甚かきまわした曷あらゆる化合物のなかで甚水は甚もっとも単純な化合物である曷机の引き出しから甚一円玉をひろうくらいの調子で甚見つけ出せないともかぎらない曷ほら甚水のにおいがしている曷まぎれもない甚水のにおいだ曷男はいきなり甚水甕の底から甚しめった砂をつかんで甚口いっぱいにほおばった曷吐き気がこみあげてきた曷体を折って甚胃をひくつかせる曷黄色い胃液と甚涙が甚あふれ出してきた曷

頭痛が甚鉛のひさしになって甚眼の上にずり落ちてくる……情欲は甚結局甚破滅への距離を短縮しただけのことだったらしい曷とつぜん男は甚四つん這いになって甚犬のように土間の砂を掘り返しはじめた曷肘の深さまで掘ると甚砂が黒く甚しめり気をおびてくる曷その中に顔をおしこみ甚焼ける額をおしつけて甚胸いっぱいに甚砂のにおいを吸いこんだ曷うまくすると甚胃のなかで甚酸素と水素が甚化合してくれないともかぎらない曷

甫ちくしょう甚きたならしい手をつかいやがって！盍手の腹に爪をつき立て甚声もひきつらせて甚女を振向いた曷甫一体甚どうするつもりなんだ！　水は甚本当に甚もう何処にもないのか！盍

むきだしの股に着物をひきよせながら甚上半身をねじって甚女がささやいた曷

甫はい甚ありません……盍

甫ありません？……ありませんですむと思っているのか！……こうなりゃ甚こっちだって甚命がけだからな……くそったれめ！……早く甚どうにか甚してくれよ！……たのむ……たのむと甚言っているんだぞ！盍

甫ですから甚私たちが甚仕事にかかりさえすれば甚すぐに……盍

甫よし甚負けた！……仕方がない甚負けてやるよ……盍いわしの干物じゃあるまいし甚こんな殺され方は甚まっぴらだ曷なにも本心から屈服したりしたわけじゃない曷水を手に入れるためになら甚猿踊りだっておどって見せてやるさ曷

匍負けてやるとも……しかし甚いつもの配給の時間まで待たされるなんて甚ごめんだぞ……だいいち甚こんなにカラカラに干上っていちゃ甚仕事にもなりやしないじゃないか……なんとか甚すぐに連絡をつけてもらいたいね……自分だって甚喉はかわいているんだろう?盃

匍仕事にかかれば甚すぐに通じますよ……いつも誰かが甚火の見から甚双眼鏡でのぞいていますから……盃

匍火の見?盃

監房で甚拘禁されたという実感をひしひしと感じさせるのは甚鉄の扉よりも甚壁よりも甚まずあの小さな覗(のぞ)き窓だという曷男は甚うろたえながらも甚すばやく記憶のなかを甚見まわしてみる曷水平に仕切られた甚空と砂……火の見櫓が入りこむ余地など甚どこにもありはしない曷こちらから見えないのに甚向うから見えるとは思えないが……

匍裏の甚崖ぎわから見れば甚すぐに分りますけど……盃

男はすなおに甚腰をこごめて甚スコップをひろった曷いまさら甚自尊心など甚垢にまみれたシャツに甚アイロンをかけるようなものだ曷追われるように甚外に出た曷

砂は甚空鍋のように焼けていた曷まぶしさに甚息がつまった曷鼻に吹きこむ風は甚石鹸の味がした曷しかし甚一歩進めば甚それだけ水に近づくことが出来るのだ曷海側の崖の下に立って甚見上げると甚なるほど黒い櫓の先端が甚小指の先ほどの頭をのぞけている曷あの棘

のような突起が甚監視人かもしれない曷もう気づいただろうか？　さぞ小気味のいい思いで甚この瞬間を待ちうけていたことだろう曷

男は甚その黒い棘にむかって甚スコップをかざし甚力いっぱい左右にふった曷スコップの刃が甚反射して甚相手の目につきやすいように甚角度を工夫してみたりした曷……眼の奥に甚焼けた水銀の膜がひろがる……女のやつ甚なにをしていやがるんだ甚早く甚手伝いに来ればいいのに……

ふいに甚ひんやりと甚濡らしたハンカチのような影がおちた曷雲が出たのだ曷しかし甚空の片隅に吹きよせられた甚落葉ほどの雲だった曷ちくしょう甚せめて雨でも降っていてくれれば甚こんな目には会わなくてもすんだのに……両手をひろげれば甚両手いっぱいの水……窓ガラスには甚水の帯……雨樋からふきだす甚水の柱……アスファルトにけむる甚雨しぶき……

夢をみているのか甚それとも幻が現実になったのか甚彼のまわりで甚突然ざわめきがおこった曷われに返ると甚砂崩れのなかに立っているのだった曷軒下にさけて甚壁にもたれた曷骨が甚罐詰の魚のように甚融けていた曷渇きが甚こめかみのあたりで甚破裂した曷その破片が甚意識の表面にちらばって甚ぶつぶつの斑点になった曷

顎をひき甚胃の上に手をあてがって甚やっと吐き気をこらえた曷

女の声がした曷崖にむかって甚呼びかけているのだった曷重い瞼のあいだから甚のぞいて見る曷最初に彼をここに案内してくれた甚例の老人が甚口ゞプの先にかけたバケツを甚たぐり下ろそうとしているところだった曷水だ！……とうとう甚やって来たのだ！……バケツが傾き甚砂の斜面に甚しみをつくった曷正真正銘甚まぎれもない水だ！……男は甚わめき甚宙を泳いで駈けよった曷

バケツが甚手のとどくところまで来ると甚男は女をおしのけ甚足をばたつかせながら甚しっかり両手でおさえこんだ曷口ゞプをはずすさえ甚もどかしげに甚いきなり顔ごとつっこみ甚ポンプになって体を波打たせる曷顔をあげ甚息をついでは甚またつっこむ曷三度目に甚顔をあげたときには甚鼻と唇の端から甚水が吹きだし甚苦しげにむせかえった曷ぐにゃりと膝を折って甚眼をとじた曷こんどは女が甚バケツをかかえこむ番だ曷女も負けずに甚全身ゴムの弁になったような音をたて甚たちまち中身は甚半分に減ってしまう曷

女がバケツをさげて甚土間に引返し甚老人が口ゞプを甚たぐりはじめた曷とっさに男は跳ね起き甚口ゞプにすがって哀訴した曷

甫待ってくれ！　ちょっと甚聞いてほしいんだ！　聞くだけでいいから甚待ってください！盃

老人は甚さからわずに甚手をとめた曷困惑気味に甚目をしばたたいたが甚ほとんど無表情のままである曷

甫水をもらった以上甚するだけのことはします曷その約束のうえで甚聞いてほしいんだ曷あんた方は甚絶対に計算ちがいをしている……ぼくは学校の教師なんですよ……仲間もいれば甚組合もあるし甚教育委員会や甚ＰＴＡだってひかえている……ぼくが行方不明になったことを甚世間が黙っているとでも思っているんですか？盍

　老人は甚舌の先で上唇をしめすと甚気のなさそうな薄笑いをうかべた曷いや甚薄笑いなどではなく甚ただ風といっしょに吹きつける砂を防ごうとして甚眼尻に皺をよせただけだったのかもしれない曷しかし甚やっきになった男には甚皺の一本だって甚見のがせなかった曷甫なに？　なんだって？……まさか甚あんたにだって甚これが犯罪すれすれだってことが甚分らないわけじゃないんでしょう？盍

甫なにね甚あれから十日も経ったが甚べつに駐在からの甚沙汰があったわけじゃなし……盍老人は甚ひどく律儀そうに甚一言一言をゆっくりと確かめながら甚甫十日たっても沙汰なしとなれば甚やはり甚まあ甚なんだろうねえ……盍

甫十日じゃない甚一週間だ！盍

　それっきり老人は口をつぐんでしまう曷たしかに甚ここでそんな言い合いをしてみても甚はじまらない……男は甚はやる心をおさえて甚背筋に定規をあてがったような声色で甚甫まあ甚そんなことは甚どうでもいい……それより甚下に降りてきて甚ゆっくり腰をすえた話し合いをしませんか？　絶対に変なまねなんかしない曷しようったって甚多勢に無勢

じゃ甚かないっこないんだから……約束します曷畚

やはり老人は黙ったままだ曷男は次第に甚息をはずませながら甚

匍そりゃ甚ぼくにだって甚この砂掻きの仕事が甚部落にとって甚どれほど重要なことか甚分らないわけじゃない……なんと言ったって甚生活問題だからね……深刻ですよ……よく分ります……なにも甚こんなふうに強制までされなくたって甚あんがい甚自発的に協力する気になっていたかもしれないくらいだ……本当だとも！　この実情を見れば甚協力したくなるのが甚人情ってものでしょう？　しかし甚だからと言って甚こんなやり方だけが甚果して真の協力だろうか？……ぼくは疑いますね……もっと他に甚適切な協力の方法が考えられなかっただろうか？……人間には甚適材適所ってことがある……所を得なければ甚せっかくの協力の意志も甚くじけてしまう……そうでしょう？……なにもこんな危い綱渡りまでしなくたって甚もっとましな甚ぼくの使い道があったんじゃないでしょうか？畚

老人は甚聞いているのか甚聞いていないのか甚ぼんやり首をまわして甚じゃれつく猫をはらい落すような仕種をした曷それとも甚やはり甚火の見櫓の監視を気にしているのだろうか？　彼と話し込んでいるところを見られては甚具合がわるいのだろうか？

匍いいですか……たしかに甚砂掻きは甚大事なことだ……しかし甚それは手段であって甚目的ではない……目的は甚いかにして砂の脅威から生活を守るかだ……ね甚そうでしょう？……さいわいぼくは甚砂についての多少の研究もつんでいる曷とくに深い関心を持って

いるんですよ曷だから甚こうして甚わざわざこんな所までやって来たわけだ曷まあ甚言ってみれば甚砂には現代人をひきつける甚不思議な魅力があるんですね……この点を利用するっていう手もあるわけだ……新しい観光地として発展させていく……砂にさからうのではなく甚砂に従って甚それを利用する……つまり甚思いきって甚頭の切りかえをしてみるんですよ……盒

老人が眼をあげ甚気がなさそうに甚ぽつりと答えた曷

匍観光地には甚やはり甚温泉がなけりゃねえ……それに甚観光でもうけるのは甚いつも商人か他所者と甚相場がきまっておるし……盒

思いなしか甚嘲(あざけ)りの気配が感じられ甚男はふと甚観光絵葉書のセᵴルスマンが甚彼と同じ運命にあって病死したという甚女の話を思いだした曷

匍そう……もちろん甚そんなことは甚ほんのたとえ話ですよ……砂の性質にあった甚特殊な農作物だって考えられるわけでしょう?……要するに甚無理して古い生活様式にこだわっている必要はないということなんだな……盒

匍そりゃ甚いろいろと甚研究はしておりますわ……落花生や甚球根の栽培なんぞも甚ためしておりますしな……チュᵴリップなんか甚あんた甚見せたいくらいの出来栄えでねえ……盒

匍じゃあ甚砂防工事はどうなんです?……本格的な砂防工事……ぼくには甚新聞記者の友人もいるしね……新聞をつかって甚世論を動かすことだって甚不可能じゃない曷盒

甫世間様から甚いくら情けをかけていただいたところで甚肝心の補助金をまわしていただかないことには甚なんともなりません曷畚

甫だから甚その補助金を獲得する運動をおこそうってわけですよ曷畚

甫役所のきまりで甚飛砂（ひさ）の被害は甚災害補償の枠に入っちゃいないらしいんですわ曷畚

甫それを認めさせるように甚働きかければいい！畚

甫こんな甚貧乏県に甚なにが出来るもんですかね……私ら甚はっきり愛想つかしております……とにかく甚いまのやり方が甚いっとう安上りなんだね……役所なんぞに甚まかせておいたら甚それこそ甚そろばんはじいている間に甚こちとら甚とっとと砂の中でさあ……畚

甫しかし甚ぼくにだって甚ぼくの立場というものがある！畚たまりかね甚ついに肺をよじらせて叫びだし甚甫あんたたちだって甚子の親なんでしょう？　それなら甚教師の義務というものが甚分らないことはないはずだ！畚

　とたんに甚老人が甚口ゥプを引き上げた曷不意をつかれた男は甚うっかり手を離してしまう曷なんていうことだ……ただ甚口ゥプを取り上げる機会を待つために甚話を聞くふりをしていただけなのか……呆然と甚さしのべた両手を甚宙におよがせる曷

甫気違いじみている……正気じゃないよ……こんな甚砂掻きなんか甚訓練すれば甚猿にだって出来ることじゃないか……ぼくには甚もっと甚ましなことが出来るはずだ……人間には甚自分のもっている能力を甚じゅうぶんに役立てる義務があるはずだ……畚

匍さあねえ……盒老人は甚世間話の席から腰をあげるような甚さりげない調子で甚匍まあ甚なにぶん甚よろしくお願いいたしますわ……わしらに出来るだけのお世話は甚いたしますから……盒

匍待て！　冗談いうな！　おい甚待ってくれよ！……後悔するぞ！……あんたには甚まだ甚ぜんぜん分っちゃいないんだ！……たのむ……待ってくれってば！盒

しかし甚老人は甚もう振向きもしなかった曷重い荷物をかつぎでもするように甚すくめた肩から立上り甚三歩あるくと甚その肩が見えなくなり甚四歩目には甚すっかり視界から消え去ってしまった曷

男は甚ぐったり甚砂の壁によりかかった曷両腕と頭を甚砂の中にめりこませた曷襟元から流れこんだ砂が甚シャツとズボンの境で甚ごろごろ枕のようになる曷いきなり甚胸甚首筋甚額甚内股の順に甚はげしく汗がふきだしてきた曷いま飲んだ水が甚そっくりそのまま甚流れ出してしまうのだ曷汗と砂が化合すると甚芥子入りの貼り薬にでもなるのか甚ひりひりと皮膚にしみた曷皮膚は甚はれあがって甚ゴムびきの合羽になる曷

女は甚すでに甚仕事にかかっていた曷とつぜん甚男は甚深い疑いにとらわれる曷残りの水を甚女が飲みつくしてしまったような気がしたのだ曷あわてて家に引返す曷

水はそっくり残っていた曷もう一度甚三口か四口を一気に飲み下し甚あらためてその透明な鉱物の味に驚嘆しながらも甚やはりこみあげてくる不安は甚かくしきれない曷これではと

うてい甚夕方までも甚もちはしないだろう曷もちろん甚食事の仕度など甚できっこない曷連中は甚ちゃんと甚計算ずみなのだ曷渇きの恐怖を手綱にして甚たくみにおれを甚あやつるつもりなのだ曷

麦藁で編んだ日除けの帽子を目深かにかぶり甚追われるように甚外に出る曷思考も甚判断も甚渇きの前では甚熱にほてった額に降った雪の一とひらにしかすぎなかった曷十杯の水が飴なら甚一杯の水はむしろ鞭にひとしい曷

匍どこにあったんだい甚そのスコップは……？盍

女は甚ちらと軒下を指さし甚疲れた微笑をうかべ甚袖口を額の汗におしあてた曷ねじふせられながらも甚とっさに甚道具の仕末だけは忘れなかったものらしい曷砂のなかで暮しつけた者が甚しぜんに身につけた心構えなのだろう曷

スコップを手にしたとたんに甚折りたたみ式の三脚のように甚疲労で骨がずるずると短くなる曷そう言えば甚昨夜からほとんど一睡もしていないのだ曷なにはおいても甚最少限しなければならない仕事の量を甚あらかじめ女と打ち合わせておく必要がありそうだ曷しかしもう甚口をきくのも甚おっくうだった曷老人相手に甚力を出しきったせいか甚声帯が甚のしいかの繊維のように甚ぼろぼろになってしまっている曷機械のように甚女とならんで甚スコップをふるいだす曷

二人は甚もつれ合うようにして甚崖と建物のあいだを甚掘り進んだ曷板壁は甚ぶよぶよ甚生乾きの餅のようで甚そのまま蕈(きのこ)の苗床になりそうだった曷やがて甚一カ所に甚砂の山ができる曷石油罐に入れて甚広い場所に搬び移す曷うつしおえると甚また先に甚掘りすすむ曷

ほとんど甚意志をもたない甚自己運動だ曷卵の白身の味がする甚口いっぱいの甚あぶくだらけの唾……顎に流れ甚胸にしたたっても甚気にしない曷

匍お客さん甚左手は甚こう甚もっと下のほうを握って……盒女が甚そっと注意してくれた曷匍そこは動かさずに甚右手を梃子のようにつかえば甚ずっと疲れも少なくてすみますよ曷盒

鴉(からす)の鳴き声がした曷とつぜん甚光線が甚黄から青に変った曷大写しになっていた苦痛が甚そっと周囲の風景のなかに引いて行く曷四羽の鴉が甚海岸と平行に甚低くすべるように飛んでいった曷ひろげた翼の先が甚暗緑色に輝き甚すると男は甚なぜか殺虫瓶のなかの青酸カリのことを思い出していた曷そうだ甚忘れないうちに甚別の容器にうつして甚ビニ゛ルでくるんでおこう曷湿気にあうと甚あいつはすぐにどろどろに融けてしまう……

匍これぐらいで甚いまは甚やめておきましょうか……盒

女が言って甚崖を見上げた曷さすがに甚女の顔も甚かさかさになり甚はりついた砂の層を透してでも甚血の気が失せてしまっているのがよく分った曷とたんに甚あたりが暗く甚錆色に塗りつぶされる曷かすんでいく意識のトンネルのなかを甚手さぐりで進み甚魚のはらわた

のように脂のにじんだ寝床にたどりつくのが甚やっとだった曷女が甚いつ戻って来たかは甚もう記憶にない曷

筋肉の隙間に甚石膏を流しこまれたら甚おそらくこんな気分になるにちがいない曷目は甚覚ましているつもりなのに甚なぜこんなに暗いのだろう？　どこかで甚鼠が甚巣をつくる材料でもひきずっているらしい……喉がひりひり甚やすりを当てたように痛んでいる……内臓が甚汚物処理場のように甚泡をたてている……タバコが吸いたい……いや甚その前に甚水が飲みたい……水！……とたんに甚現実に引き戻される……そうだ甚あれは鼠などではない甚女が仕事をはじめているのだ！……一体どれぐらい睡っていたのだろう？……起上ろうとして甚また甚おそろしい力で甚ふとんの上に甚ねじ伏せられた……思いついて甚顔の手拭をむしりとると甚開けはなたれた戸口から甚ゼラチンを透したような月明りが甚淡く涼しげにさしこんでいる曷いつの間にやら甚また夜だった曷

枕元に甚やかんと甚ランプと甚焼酎の瓶がおいてあった曷さっそく甚片肘をついて甚口をすすぎ甚すすいだ水を甚いろりめがけて甚吐きとばした曷ゆっくりと甚味わいながら甚喉をうるおした曷ランプのわきをさぐると甚柔らかな包みが手にふれ甚マッチと甚それにタバコ

もあった曷ランプをともし甚タバコに火をつけ甚焼酎を一口甚かるく含んでみた曷ばらばらだった意識が甚おもむろに形をととのえてくる曷

包みの中は甚弁当だった曷まだぬくもりが残っている甚麦のまざった握り飯三つ甚めざし二本甚乾いた皺だらけのたくあん甚それに苦い味のする野菜の煮つけ……野菜はどうやら甚干した大根の葉らしい曷めざし一本に甚握り飯一個が甚やっとだった曷胃が甚ゴム手袋のように甚冷たくひえていた曷

立上ると甚節々が甚風に鳴るトタン屋根の音をたてた曷こわごわ甚水甕をのぞきこむ曷口元までたっぷり補充されていた曷手拭をぬらして甚顔におし当てた曷戦慄(せんりつ)が甚螢光を発して甚全身をつらぬいた曷首と甚脇の下を洗い流し甚指のまたの砂を拭きとった曷人生の目的も甚この瞬間でとめておくべきものなのかもしれない曷

甫番茶でも甚いれましょうか?盍

戸口に女が立っていた曷

甫いいよ……すっかり水っ腹なんだ曷盍

甫よく睡れましたか?盍

甫一緒に起してくれりゃよかったのに……盍

うつむいて甚女はくすぐったそうな笑い声をたてた曷

甫本当に甚途中で甚三度も起きて甚顔の手拭をかけなおしてあげたんですよ曷盍

大人の愛想笑いの使いみちを甚やっとおぼえたばかりの三歳の子供がみせる甚あの媚態（びたい）だ曷いそいそした気持を甚どう表現していいのか分らず甚まごついている様子が甚むきだしになっている曷うっとうしげに甚男は目をそむけた曷

匍掘るほうを手伝おうか？……それとも甚搬んだほうがいいかな？盍

匍そうですねえ……もうじき甚次のモッコが来るころですから……盍

いざ仕事にかかってみると甚なぜか思ったほどの抵抗は感じられないのだ曷この変化の原因は甚いったい何だったのだろう？　水を絶たれることへの恐怖のせいだろうか甚女に対する負い目のせいだろうか甚それとも甚労働自身の性質によるものなのだろうか？　たしかに労働には甚行先の当てなしにでも甚なお逃げ去っていく時間を耐えさせる甚人間のよりどころのようなものがあるようだ曷

いつだったか甚メビウスの輪にさそわれて甚なにかの講演会を聞きに行ったことがある曷会場は甚低い錆びた鉄柵で甚地面が見えないほどになっていた曷設計者は甚どういうつもりで甚こんなものを取り付ける気になったりしたのだろう？　すると甚彼の疑問を写しとったように甚鉄柵の上にかがみこみ甚しきりと指先でこすってみている甚くたびれた背広の男がいた曷あれは甚私服刑事なのだと甚メビウスの輪が小声で教えてくれた曷それから甚会場の天井には甚まだ見たこともないほど大掛りな甚コ殳ヒ殳色の雨もりの跡があった曷そのなか

で甚講師が甚こんなことを言っていた曷――甫労働を越える道は甚労働を通じて以外にはありません曷労働自体に価値があるのではなく甚労働によって甚労働をのりこえる……その自己否定のエネルギ爻こそ甚真の労働の価値なのです曷盍

　指の輪を吹いて鳴らす甚鋭い口笛の合図が聞えた曷つづいて甚モッコを引いて走る甚屈託のない掛け声……さすがに甚近づくにつれて甚ひっそりとなる曷無言のうちに甚モッコがおろされる曷はりつめた警戒の気配が感じられ甚しかし今さら甚壁にわめいてみても甚はじまるまい曷予定量の砂が甚無事に搬び上げられてしまうと甚ほっと緊張がゆるんで甚空気の手ざわりまでが変ってしまったようだった曷誰も甚何も言わなかったが甚これで当面の諒解（りょうかい）は成り立ったようでもある曷

　女の態度にも甚はっきりした変化が見られた曷

甫一服しましょう……お茶をいれてきます……盍

　声も甚動作も甚はずんでいる曷見当をつけそこねて甚はみ出してしまったような甚はしゃぎかただ曷男は甚砂糖をなめすぎたように甚げんなりする曷それでも甚通りすがりに甚後ろから甚そっと女の尻をなで上げるくらいのことはしてやった曷むろん甚電圧が上りすぎれば甚フィラメントは焼け切れてしまう曷決して甚そんなぺてんにかけたりするつもりはない曷いずれは甚幻の城を守る衛兵の話でもしてやるつもりである曷

城があった……いや甚城でなくても甚工場でも甚銀行でも甚賭博場でもかまわない曷当然甚衛兵が甚守衛か甚用心棒であっても甚一向に差支えないわけだ曷さて甚衛兵は甚つねづね甚敵の侵入にそなえて甚警戒をおこたらなかった曷ある日甚ついに甚待ちに待った敵がやってくる曷ここぞとばかり甚警告の合図を吹きならした曷ところが甚奇妙なことに甚本隊からは甚なんの応答もこないのだ曷敵が甚衛兵を甚難なく一撃のもとにうち倒してしまったことは甚言うまでもない曷うすれていく意識のなかで甚衛兵は見た曷敵が甚何者にもさまたげられず甚門を甚壁を甚建物を甚風のように通りぬけて行ってしまうのを曷いや甚風のようなのは甚敵ではなくて甚実は城のほうだったのだ曷衛兵は甚ただ一人甚荒野のなかの枯木のように甚幻影を守って立っていたのだった……

スコップに腰をおろして甚タバコに火をつける曷三本目のマッチで甚やっと火がついた曷水にたらした甚墨のように甚よどんだ疲労が甚輪になり甚くらげになり甚くす玉になり甚原子核模型図になって甚にじんでいく曷野鼠を見つけた夜の鳥が甚嫌な声で仲間を呼んでいる曷胃を吐きだして吠える甚不安な犬曷高い夜空で甚鳴りつづける甚速度のちがう風の摩擦音曷地上では甚一枚一枚甚砂の薄皮をむいては流しつづける甚風のナイフ曷汗をぬぐい甚手鼻をかんで甚頭の砂を掻きおとした曷足元の風紋は甚ふいに動きを停めた波頭に似ていた曷

もしこれが甚音の波だったとしたら甚一体どんな音楽が聞えてくるのだろう？　鼻の穴に甚火箸をたたきこみ甚その血糊で耳を詰め甚歯を一本一本甚槌でくだいて甚その破片を尿

道におしこみ甚陰唇を切りとって甚上下のまぶたに縫い合わせれば甚人間でも甚それくらいの歌は歌いだすかもしれない……残酷に似てはいるが甚残酷とも甚少しちがうようだ……ふと甚自分の目玉が甚鳥のように高く飛び立ち甚じっと自分を見下ろしているような気がした曷こんなところで甚奇怪さについて考えている自分こそ甚よほど奇怪な存在にちがいない曷

23

Got a one way ticket to the blues, woo woo ――

（こいつは悲しい片道切符のブルゕスさ）……歌いたければ甚勝手に歌うがいい曷実際に甚片道切符をつかまされた人間は甚決してそんな歌い方などしないものだ曷片道切符しか持っていない人種の甚靴の踵は甚小石を踏んでもひびくほどちびている曷もうこれ以上歩かされるのは沢山だ曷歌いたいのは甚往復切符のブルゕスなのだ曷片道切符とは甚昨日と今日が甚今日と明日が甚つながりをなくして甚ばらばらになってしまった生活だ曷そんな甚傷だらけの片道切符を甚鼻歌まじりにしたりできるのは甚いずれがっちり甚往復切符をにぎった人間だけにきまっている曷だからこそ甚帰りの切符の半分を甚紛失したり甚盗まれたりしないよ

うにと甚あんなにやっきになり甚株を買ったり甚生命保険をかけたり甚労働組合と上役に二枚舌をつかったりもするわけだ曷風呂の流し口や甚便所の穴から立ちのぼる甚片道切符の連中の甚助けを求めるあきらめの悪い叫び声から甚耳をふさごうとして甚やたらに大きな音でテレビをかけたり甚せっせと片道切符のブルゑスを口ずさんだりすることにもなるわけだ曷とらわれた人間の歌が甚往復切符のブルゑスであっても甚いぶかることは少しもない曷

男は甚暇をみては甚こっそり口ゑプの用意をしはじめた曷着替えのシャツをほぐして甚撚り合わせ甚それに女の死んだ亭主のへこ帯をつなぐと甚五メゃトルほどになった曷時がくれば甚その端に甚錆びた裁ち鋏(たばさみ)を半開きにして甚棒切れをはさんで固定したものを甚しっかりとくくりつける予定である曷むろん甚口ゑプの長さは甚まだ不充分だ曷魚と唐黍を干してある土間の荒縄と甚洗濯物用の麻縄を甚一緒につなぎ合わせれば甚ほぼ必要なだけの長さになってくれるだろう曷

その思いつきは甚かなり唐突にやってきた曷だが甚なにも甚時間をかけてねり上げた計画だけが甚首尾よく成功するとはかぎらない曷そこにたどりつくまでの道すじが甚意識されていないというだけで甚突然のひらめきにも甚ひらめいたなりの甚もとでがかかっているのである曷むしろ甚下手にいじりまわしたものよりは甚成功率も高いはずだ曷

ただ甚問題は甚実行にうつす時間だった曷脱け出す時は甚女が寝ている甚昼間の明るいうちがいいにきまっている曷しかし甚村を通過するには甚やはり夜でなければ甚具合がわる

い曷けっきょく甚女が目を覚ます甚ぎりぎり直前にここを出て甚適当なところにしばらく身をかくし甚日が沈むのを待って甚行動を開始するという順序になるだろう曷月の出までの甚暗闇を利用して甚バスが走っている国道まで出るのは甚さほど困難なことではあるまい曷

その間甚男はたくみに甚部落の地形や配置について甚女から聞き出すことに努めた曷海に面していながら甚漁船一つないこの部落の経済は甚どんなふうにして成立っているのか？……いつの時代から甚こんな状態になったのか？……人口はぜんぶで甚どれくらいあるのか？……チュ𠮟リップの栽培は甚誰が何処でやっているのか？……子供たちはどうやって学校に通うのか？……そうした間接的な知識でも甚彼がここにたどりついた最初の日の甚あのおぼろげな記憶と重ね合わせてみれば甚おおよその地図はつくりあげることが出来た曷

理想を言えば甚部落の中は通らずに甚迂回して逃げるに越したことはないわけだが甚西側は甚かなり険しい岬（みさき）にさえぎられ甚高さはそれほどでないにしても甚古い時代の波の浸蝕で甚いわゆる屏風（びょうぶ）岩になっているらしいのだ曷部落の連中が甚たきぎを拾いに行くための足場はあっても甚藪にさえぎられて甚簡単には見分けがつきにくいらしく甚あまりくどい聞き方をして甚女に疑いをいだかせるのもまずかった曷反対に甚東のほうは甚深くくびれた入江になっており甚無人の砂丘を十キロ以上も上ったり下ったりしたあげく甚結局ぐるりとまわって甚また元の部落の出口あたりに舞い戻る仕掛けらしい曷要するに甚この部落は甚屏風

岩と入江で首をしめられた甚砂の袋なのだ曷まごまご時間をついやして甚連中に警戒のゆとりを与えたりするよりは甚思い切り中央突破の作戦に出たほうが甚安全率も高そうである曷

しかし甚それで甚問題が無くなったわけではない曷たとえば甚例の甚火の見櫓からの監視の目だ曷さらに甚彼の脱走に気づいた女が甚さわぎ立てて甚脱け出す前に甚部落の口が閉鎖されてしまう懸念もある曷もっとも甚この二つは甚結局一つの問題に要約できるかもしれない曷最初のモッコ搬びの連中が甚水や定期の配給品をもってやって来るのは甚何時もたいてい日が落ちた後甚かなり経ってからだった曷女が甚彼の逃亡を甚それ以前に告げようとすれば甚やはり火の見の監視人を通じてしかないわけである曷問題は火の見の監視をどうするかにしぼられる曷

さいわい甚このあたりでは甚急激な気温の変化のせいだろう甚日没前の三十分から一時間甚きまって地表に靄がたちこめてくれる曷熱容量の少ない砂の中の硅酸が甚日中たらふく飲みこんだ熱を甚いきなり吐き出してしまうためらしい曷火の見から見れば甚こちらは甚ちょうど逆光線の方角にあたり甚わずかな靄でも甚厚い乳色の幕になって甚すっかり視界をさえぎってしまうにちがいない曷その点は甚念のために甚昨日のうちに甚確かめておいた曷海側の崖の下から甚何度も手拭をふって甚合図を送ってみたが甚予想どおり甚なんの応答もなかった曷

実行は甚計画を思いついてから四日目……いつも甚行水用の水が配給されることになっている甚土曜の夜をえらぶことにした曷その前夜は甚あらかじめ風邪をよそおって甚ぐっすり眠っておくことにする曷念のために甚無理を言って甚アスピリンを探して来させた曷雑貨屋の奥に甚棚ざらしになっていたものだそうで甚すっかり変色してしまっていた曷二錠を甚焼酎といっしょに飲むと甚効果はてきめんにあらわれた曷女が甚仕事をおえて戻って来るまで甚モッコ搬びの音を一度聞いた以外は甚ほとんど記憶にない曷

久しぶりに甚一人で働かされた女は甚さすがに疲労の色が濃かった曷遅めの炊事の仕度に甚ただでさえ気がせいている女に甚あれやこれやと無駄口をたたき甚あげくに甚前から具合のわるかった流し場の修理をしようなどと甚もちかけたりする曷しかし男の身勝手さは甚足に根を生やしはじめたしるしでもあり甚機嫌をそこねるのが恐さに甚女は迷惑そうな顔一つ出来なかった曷さて甚一と仕事おえた後は甚どうしても行水がしたくなる曷とくに甚寝汗でうるけた皮膚に甚砂がはりつく気分は甚なんともやりきれたものでない……ちょうど甚行水用の水が配給になった日だったし甚それに甚男の体を洗うことに甚特別な嗜好をよせていた女は甚むろん拒んだりするはずがなかった曷

洗われながら甚男は甚興奮をよそおい甚やにわに女の着物をはぎとった曷お返しに甚相手の体も洗ってやろうというわけだ曷女は甚狼狽と期待のあいだで甚立ちすくむ曷拒もうとする手つきも甚何を拒もうとしているのやら甚はっきりしない曷男は手早く甚裸の上に甚手桶（ておけ）

の湯をあびせ甚手拭をつかわず甚石鹸をぬった手で甚じかに女の体を撫でまわしはじめた曷耳朶からはじめて甚顎の下にうつり甚肩をさすりながら甚片手をまわして乳房をつかんだ曷女は甚声をあげ甚男の胸から下腹に甚ぬるぬるすべって甚しゃがみこむ曷むろん甚待ちうける姿勢だ曷だが男は甚あせらない曷ことさら甚時間をかけて甚細部から細部へと甚丹念な摩擦の指を搬んでいく曷

女の興奮は甚当然甚男にも感染した曷しかし甚いつもとはちがった甚奇妙な哀しみのしこりがあった曷女は甚いま甚夜光虫の波をあびたように甚内側から輝いている曷それを裏切るのは甚逃がしてやった死刑囚に甚いきなり後ろから発砲するようなものだ曷さめていく感覚に甚鞭うとうとして甚ひときわ男は狂暴にふるまった曷

だが甚倒錯した情熱にも甚限度がある曷はじめは甚むしろせがんでいた女も甚やがて甚男の狂乱に甚あからさまなおびえをみせる曷男も甚射精したあとのような甚虚脱感におそわれる曷そのたびにまた甚勇気をふるいおこし甚あれやこれやの卑猥な幻影の鎖でむちうって甚乳首を口にふくみ甚石鹸と汗と砂で甚鉄粉まじりの機械油のようになった体を叩きつけ合っては甚興奮をかきたてるのだ曷すくなくも二時間は持続させるつもりだった曷ついに女が甚痛みを訴え甚歯をがちがち鳴らせて甚うずくまってしまった曷その後ろから甚兎のように甚数秒でことを済ませた曷水をかけて甚石鹸をおとし甚アスピリン三錠と湯呑いっぱいの焼酎を甚いやがるのもかまわずむりやり飲ませてやった曷これで甚日暮れまでは……上手くいけ

ば甚モッコの連中に大声で呼び覚まされるまでは……ぐっすり甚寝すごしてしまってくれるにちがいない曷

女は甚紙栓をされたような寝息をたてている……呼吸は甚深く甚長く甚踵のあたりを軽く蹴ってみたが甚ほとんど変化を示さない……情欲をしぼり出されてしまった古チュ𛀆ブだ曷ずれかけている顔の手拭をなおしてやり甚下腹でよじれて縄になっている着物を甚膝のへんまで下ろしてやった曷さいわい甚計画の最後の仕上げに忙殺されて甚感傷にふけったりする暇はない曷目をつけておいた古鋏に甚細工をしおえると甚ほぼ予定の時刻になった曷さすがに甚出しなの一瞥には甚ひきさかれるような痛みがあった曷

穴の上縁から甚一メ𛀆トルほどのところに甚淡い光が甚輪になって浮んでいた曷およそ甚六時半から甚四十分くらいの見当だろう曷ちょうど頃合だ曷両腕をつよく後ろに引き甚首をまわして甚肩の筋肉をときほぐす曷

まず甚屋根にのぼらなければならない曷物を抛(ほう)るには甚仰角四十五度に近いほど甚効率がいいわけだ曷本当は甚屋根に上るにも甚口𛀆プを使って甚具合を験してみたいところだったが甚屋根に鋏が当る音で甚女に目を覚まされたりしてはかなわない曷テストははぶいて甚裏手にまわり甚以前なにかの干し場だったらしい甚雨除けの名残りを足場にして甚よじのぼることにする曷半分甚腐りかけた甚細い角材なので甚気骨(きぼね)がおれた曷しかし甚大変なのは甚その後だった曷飛砂に研ぎ出されて甚屋根は甚葺(ふ)きたてのように白く柾目(まさめ)を浮き立たせていた

が甚いざ乗ってみると甚やはりしっけたビスケットのように甚ぶよぶよなのだ曷踏み抜いたりしては甚ことである曷這いつくばって甚体重を分散させ甚そろそろと先に進んだ曷やっと棟までたどりつき甚またがる姿勢で甚膝で立つ曷屋根の上も甚すでに影の中だったし甚西側の穴の縁の甚凍った蜜色の淡いつぶつぶは甚そろそろ靄の出はじめたしるしである曷もう櫓の見張りを気にする必要はなさそうだ曷

　鋏から甚一メ攵トルばかりのところを甚右手に持ち甚投げ縄の要領で甚頭上に輪を描いてまわす曷目標は甚モッコの上げ下ろしの際に甚滑車がわりにしている甚例の俵だ曷縄梯子を固定できたくらいだから甚かなりしっかり埋めこんであるにちがいない曷しだいに廻転を早め甚ねらいを定めて甚ほうり投げた曷まるで見当ちがいの方角に飛んでしまった曷投げるという考え方がいけなかったのだろう曷鋏は円周の切線にそって飛ぶわけだから甚口攵プが目標に対して甚直角になった瞬間か甚あるいはそのほんの直前をえらんで甚ただ手を離せばい曷そう甚その調子！……だが甚残念ながら甚今度は崖の途中に当って甚落ちてしまった曷廻転速度と甚仰角のとりかたが足りなかったらしい曷

　何度か甚繰返すうちに甚距離も甚方角も甚かなり安定してきた曷とは言え甚命中にはまだほど遠い曷幾分かでも甚上達の気配が見えてくれれば甚まだ気が楽なのだが甚誤差がちぢまってくれる様子はさらになく甚疲労と甚あせりで甚かえってむらがひどくなるようでさえ

ある曷どうやら簡単に考えすぎていたようだ曷誰に甚だまされたわけでもないのに甚むしょうに腹立たしく甚泣き出したいような気持だった曷

もっとも甚可能性は反復に正比例するという確率の法則に甚嘘はなかったらしい曷なんの期待もなく甚ほとんど捨て鉢な気持で投げた十何度目かの口ゞプが甚まっすぐ俵の上をとおってのびてくれたのだ曷ぞっと甚口の中がしびれた曷飲み込むはしから甚生唾が甚あふれ出した曷だが甚有頂天になるのは甚まだ早い……やっと甚籤を買う金を甚手に入れたというだけだ……当るか甚当らないかは甚これからなのだ曷全神経を口ゞプに托し甚蜘蛛の糸で星をひきよせるような思いで甚そっと手元に引きよせた曷

手応えがあった曷すぐには信じかねたが甚口ゞプは事実動かない曷さらに引く手に力をこめてみる……幻滅の瞬間を甚今か今かと甚身がまえて待ちながら……だが甚もう甚疑う余地はなかった曷鋏の鉤は甚がっちり俵に甚咬みついてくれたのだ曷なんて間がいいのだろう！……どえらく甚ついていやがる！……この分だと甚これから先も甚うまく行ってくれるにちがいない！

いそいそと甚屋根を降り甚いまはただ静かに砂の壁を垂直に切っている口ゞプの下に立つ曷地上はもうすぐそこだ……信じられないほど甚すぐそこなのだ……顔がこわばり甚唇のまわりに甚しびれが走った曷コロンブスの卵は甚きっと茹で卵だったにちがいない曷あまり甚あたためておきすぎると甚かえって傷みが早いのだ曷

口ゞプにつかまり甚そろそろと甚体重をかけていく曷急に甚ゴムのように甚のびはじめた曷ぎくりと甚毛穴から甚汗が吹き出した曷さいわい甚三十センチほどで甚とまってくれた曷すっかり甚体重をあずけてみたが甚どうやら今度は心配はなさそうである曷手のひらに唾をはき甚足の裏で口ゞプをはさんで甚のぼりはじめた曷玩具の木登り猿の要領だ曷興奮しすぎているせいか甚額の汗が変に冷たい曷なるべく甚砂をかぶらずにすませようと甚口ゞプだけをたよりにするので甚体がくるくるまわって落着かない曷思ったよりも甚はかどらず甚なるほど引力というやつはしぶといものだ曷それにしてもこのふるえは甚一体なんとしたことだろう？　しまいに甚腕が甚意志とは無関係におどり出し甚自分で自分を甚はじきとばしそうになる曷まあ甚あの甚毒にまみれた甚四十六日間のことを思えば甚無理もないかもしれない曷一メゞトルはなれれば甚百メゞトルの深みになり甚二メゞトルはなれれば甚二百メゞトルの深みになり甚次第に深さを増して甚目くらむばかりの深淵になる……疲れすぎているのだ……下を見てはいけない！……ほら甚もうそこが地上だ……どちらを向いても甚世界の果まで甚自由に歩いて行ける道のついた甚地上なのだ……地上にあがれば甚すべては追憶の手帳のあいだで甚小さな押し花になってくれるだろう……毒草だろうと甚食肉植物だろうと甚薄い半透明な一片の色紙になり甚居間で甚番茶でもすすりながら甚電燈の光にかざして甚世間話の薬味にすることができるのだ曷

だからと言って甚いまさら女をとがめたりするつもりなど甚毛頭なかった曷彼女が甚淑女でもなければ甚淫売でもなかったことは甚おれがはっきり保証する曷もし甚添書が必要だというなら甚判子の十や二十くらい甚いつでもよろこんで押してやろう曷ただ甚おれと同じく甚往復切符にしがみつくしか能のない甚馬鹿な女だったということだ曷しかし甚同じ往復切符でも甚出発地がちがえば甚しぜん目的地もちがってくる曷こちらの帰りの切符が甚相手には往きの切符になっても甚べつに不思議はないわけだ曷

仮に女が甚なにか勘違いしていたとしても甚しょせん甚勘違いは甚勘違いにすぎない曷……下を見るな甚下を見てはいけない！

登山家だろうと甚ビルの窓拭きだろうと甚テレビ塔の電気工だろうと甚サヶカスのブランコ乗りだろうと甚発電所の煙突掃除夫だろうと甚下に気をとられたときが甚そのまま破滅のときなのだ曷

うまくいった！

砂止めの俵に爪を立て甚はがれそうになるのにもかまわず甚しゃにむによじのぼる曷そら甚もう地上だ！　もう手を離しても落ちる気づかいはない曷それでも甚かたく俵にしがみ

ついたまま甚しばらくは腕の力をぬくことが出来なかった曷

その四十六日目の自由は甚はげしい風に甚吹きまくられていた曷這いつくばっていると甚顔や首筋に甚ちかちか砂の粒が突きささった曷こんなひどい風は甚計算にいれていなかった！……穴の中では甚普段より海鳴りの音が近いくらいにしか甚感じられなかったし甚いつもなら甚ちょうど夕凪(ゆうなぎ)の時刻なのだ曷しかしこれでは甚靄など甚とうてい期待できそうにない曷すると甚あの空のにごりは甚穴の内側だけの現象だったのだろうか？　それとも甚飛砂の流れを甚靄ととりちがえたのだろうか？　いずれにしても甚まずいことになったものである曷

こわごわ甚上目づかいに甚うかがってみる……薄らいだ光のなかに甚火の見櫓は甚妙にひょろひょろと甚傾いで見えた曷意外に貧弱だし甚距離も遠かった曷だが相手は双眼鏡でのぞいているのだ甚距離に期待はできない曷もう見つけられてしまっただろうか？……いや甚気がついたらすぐに甚半鐘(はんしょう)を鳴らすはずだ曷

つい半年ばかりまえの甚ある嵐の夜甚西の外れの穴で甚ついに防ぎきれずに甚家が半分埋まってしまったことがあるという曷つづいて雨になり甚雨をふくんだ砂は甚二倍の重さになる曷家は甚マッチ箱をつぶしたように甚くしゃりとつぶれ甚さいわい怪我人は出なかったが甚翌朝甚その一家が逃亡をこころみた曷半鐘が鳴りだしたと思ったら甚五分とたたずに甚

裏の道を引きたてられて行く甚老女の泣きわめく声が聞えたという曷噂によれば甚その一家には甚脳患いの血筋があるらしいと甚まことしやかな口調で甚女はつけ加えていたが……

とにかく甚ぐずぐずしてはいられない曷思いきって頭を上げてみた曷一面どんよりと赤味をおびた甚砂の起伏にそって甚けだるそうに長い影が落ち甚影から流れ出した飛砂の膜が甚次々と甚また別の影の下に吸いこまれていく曷その飛砂の膜のおかげで甚うまく発見をまぬがれているのだろうか？……逆光の効果を確かめようと甚振向いて甚男は思わず目を見張った曷沈みかけている太陽を甚クレヨン色にぼかし甚あたりを乳色にけむらせているのは甚ただ飛砂のせいだけではなかったのだ曷たちまち甚吹きちぎられ甚むしり取られながらも甚やはり靄が甚たえまなく地面から湧き出て来ている曷こちらで吹き消されれば甚あちらで湧き甚あちらで追いはらわれれば甚こちらから顔を出す……穴の中の経験で甚砂が湿気をよぶことは甚よく分ったが甚これほどだとは思わなかった……まるで甚消防が帰ったあとの焼跡の光景だ……むろん甚逆光でやっと目立つ程度の甚淡い靄だったが甚それでも監視の目をくらませるには甚いい迷彩になってくれるにちがいない曷

靴をはき甚まるめた口ﾀﾞプを甚ポケットにねじこんだ曷鋏つきの口ﾀﾞプは甚いざというとき甚武器としても役立ってくれるだろう曷逃げる方向は甚とりあえず甚逆光がかばってくれる甚西の方角だ曷一刻も早く甚日暮れまでをすごす甚適当な隠れ場所を見つけ出さなければならない曷

さあ甚急ごう！……うんと甚腰をおとして甚低いところを走るのだ！……べつに周章てふためくことはない……慎重に甚充分あたりに気をくばって甚急ぐのだ……そら甚そのくぼみに身をふせろ！……怪しい物音はしなかったか？……不吉な予感はないか？……なければ甚立って甚また前進だ……右によりすぎてはいけない！……右の崖は甚低すぎて甚中からのぞかれるおそれがある……

夜毎のモッコ搬びで甚穴と穴とのあいだに甚まっすぐ一本溝が刻まれていた曷溝の右側は甚起伏の多い甚ゆるやかな斜面だ曷その下に甚二列目の家並が甚ちょっぴり屋根をのぞかせて並んでいた曷海側の列に守られているおかげで甚崖もずっと低く甚砂防用の粗朶垣（そだがき）も甚ここではまだ役に立っているらしい曷表の崖からなら甚おそらく自由に出入りできる程度にちがいない曷すこし姿勢を高くすると甚ずっと部屋の奥の方まで見渡すことができた曷広く甚扇形にひらいた砂の起伏のかなめのあたりに甚瓦屋根や甚トタン屋根や甚板葺きの屋根が黒く群がり……貧弱ながら甚松林もあったし甚池らしいものも見えた曷わずかこれだけの風景を守るために甚海に面した十数軒が甚どれいの生活に甘んじているわけなのだ曷

その甚どれいの穴は甚いま甚道の左側に並んでいる……ところどころに甚モッコを引き込む溝の枝があり甚その先に甚すり切れた俵が埋めこまれて甚穴のありかを告げている……目をやるだけでさえ甚苦痛だった曷俵には甚縄梯子を取り付けてないところもあったが甚つけ

てある方が多いようだった曷すでに脱出の意欲さえなくした連中も甚少なくはないということだろうか？

　そんな生活がありうることも甚むろん理解出来なくはなかった曷台所があり甚火の燃えている竈(かまど)があり甚教科書をつんだ机がわりのリンゴ箱があり甚台所があり甚囲炉裏があり甚ランプがあり甚火の燃えている竈があり甚破れた障子があり甚煤(すす)のたまった天井があり甚台所があり甚動いている時計や止っている時計があり甚鳴っているラジオやこわれたラジオがあり甚台所と甚火の燃えている竈があり……そして甚それらの間にちりばめられた甚百円玉と甚家畜と甚子供と甚性欲と甚借用証書と甚姦通と甚線香立てと甚記念写真など……恐ろしいほど完全な反復……それが心臓の鼓動のように甚生存には欠かすことのできない反復であるとしても甚心臓の鼓動だけが甚生存のすべてではないこともまた事実なのだ曷

　しっ甚早く伏せろ！……いや甚なんでもない甚ただの鴉だった……とうとう甚つかまえて剥製(はくせい)にしてやる機会はなかったが甚もうそんなことはどうでもいい曷入墨やバッジや甚勲章をほしがるのは甚信じてもいない夢を甚夢見ているときだけのことである曷

　やがて甚部落の外れに出たらしく甚道が砂丘の稜線に重なり甚視界がひらけて甚左手に海が見えた曷風に辛い潮の味がまじり甚耳や小鼻が甚鉄の独楽をしばいたような唸りをあげた曷首にまいた手拭がはためいて頬をうち甚ここではさすがに靄も湧き立つ力がないらしい曷海には甚鈍く甚アルマイトの鍍金がかかり甚沸かしたミルクの皮のような小じわをよせ

ていた曷食用蛙の卵のような雲に甚おしつぶされ甚太陽は甚溺れるのをいやがって駄々をこねているようだ曷水平線に甚距離も大きさも分らない甚黒い船の影が甚点になって停っていた曷

　そこから先甚岬まではまだゆるやかな砂丘が甚幾重にもうねりつづけているばかりだ曷このまま進むのは甚危険かもしれない曷迷いながら甚振返ってみると甚さいわい火の見は小高い砂の隆起にさえぎられて甚視界から切れている曷姿勢を甚すこしずつもたげていくと甚すぐ右手の斜面の陰に甚その角度からしか見えない掘立て小屋が甚ほとんど横倒しになって埋もれているのが目にとまった曷風下の方は甚匙(さじ)ですくったような甚深いくぼみになっている曷

　おあつらえ向きの隠れ場所だ……砂の肌は甚貝殻の腹のようになめらかで甚人が歩いたりした形跡はどこにもない……だが甚おまえ自身の足跡はどうなるのだ？……たどってみると甚三十メﾓﾄﾙあたりから先は甚もうすっかり拭き消されている……すぐ足もとのでさえ甚みるみる崩れ甚変形していく……風の日にぶっつかって甚悪いことばかりでもなかったようだ曷

　小屋の後ろに甚まわりこもうとしたとたん甚中から黒いものが這い出してきた曷豚のように甚ずんぐりとした甚赤犬だった曷おどかしちゃいけない甚あっちに行け！　だが甚犬は甚じっと男を見返したまま甚たじろぐ気配もない曷片耳がちぎれ甚不相応に小さな眼が甚いか

にも陰惨な感じだ曷鼻をひくつかせている曷吠える気だろうか？　吠えてみろ……ポケットの鋏をにぎりしめ……そんなことをしたら甚こいつで甚脳天に穴をあけてやるぞ！　うなり声一つあげず甚黙ってこちらをにらみ返す曷野犬だろうか？……つやのない甚すり切れた毛……皮膚病のあとらしい甚鼻面のかさぶた……吠えない犬は甚危険だという……畜生甚なにか食い物を用意してくればよかった……そうだ甚食い物といえば甚青酸カリを忘れて来てしまったっけ……まあいい甚女も甚あの隠し場所には甚まさか気がつくまい……小さく口笛を吹き甚手を差しのべて甚犬の気を引いてみる……返事のかわりに甚燻製（くんせい）の鰊（にしん）のような甚薄い唇をめくり上げ甚隙間に砂がつまった黄色い牙をむきだした……こいつ甚まさか甚おれに食欲を感じたりしているのじゃあるまいな？……いやに太い喉をしていやがる……一と突きで甚うまく甚くたばってくれればいいのだが……

　急に甚犬は視線をそらせ甚うなじを下げると甚何事もなかったように甚のっそり立去って行った曷どうやらおれの殺気に負けたらしい曷野犬をにらみ負かすとは甚おれの気魄も甚ちょっとしたものだ曷ずるずる甚くぼみの中にすべり込むと甚そのまま斜面にもたれかかった曷風からさえぎられたせいか甚ほっと呼吸までが楽になる曷犬は甚風によろけながら甚飛砂の向うに消えて行った曷野犬がすみかにしていたということは甚とりもなおさず甚人間が近よらないことの保証でもあるだろう……犬のやつが甚農協の出張所に告げ口でもしないかぎり甚まずは安全とみてよさそうだ曷じわじわと滲みはじめた汗さえ甚いまはかえって気持

がいい曷静かだ！……まるでゼラチンの底に閉じこめられているようだ……いつ爆発するかも分らない甚時限爆弾を抱えこんでいながら甚それが目覚し時計のテンプの音ほども気にならない……メビウスの輪なら甚たちどころに状況分析して甚言うところだろう……

匍そいつは甚君甚典型的な甚手段の目的化による鎮痛作用ってやつだよ曷畚
匍まったくだ甚畚彼は手もなく同感する曷匍しかし甚手段だ甚目的だと甚そういちいち区別しなけりゃならないものだろうかねえ？……必要に応じて甚適当に使いわけたって……畚
匍そうはいかないさ曷まさか時間を縦に暮したりするわけにはいかないだろう？　時間ってやつは甚本来横に流れるものと相場がきまっているんだ曷畚
匍そいつを縦に暮してみたら甚どういうことになる？畚
匍ミイラになるにきまっているじゃないか！畚
　男は甚くすくす笑って甚靴をぬいだ曷たしかに時間は横に流れているらしい曷靴の中にたまった汗と砂とが甚我慢できなくなったのだ曷靴下もぬいで甚指のまたをひろげ甚風を当ててやる曷それにしても甚動物のすみかというのは甚どうしてこう嫌な臭いがするのだろう？……花のような匂いの動物がいたって甚一向に差支えないと思うのだが……いや甚これは甚おれの足の臭いだ……そう思ってみると甚急に親しみがわいてくるのだから甚おかしなものだ……誰だったか甚自分の耳垢の味ほどうまいものはない甚本場もののチゞズ以上だなどと言っていたやつがいたっけ……それほどではないにしても甚腐った虫歯の臭いなどには甚たしかにいくら嗅いでも嗅ぎあきない蠱惑的（こわくてき）なものがある……

小屋の入口は甚半分以上砂にふさがれていて甚ほとんど見透しがきかなかった曷古井戸の跡だろうか？　砂を防ぐためには甚小屋掛けの井戸があっても不思議はないわけだ曷もっとも甚こんなところから水が出るとは思えないが……のぞこうとして甚こんどは本物の犬の体臭をあびせかけられた曷動物の体臭というやつは甚たしかに哲学以上の存在だ曷朝鮮人の精神は好きだが甚あの臭いだけは我慢できないと言った甚社会主義者がいたっけ……それにしても甚時間が横に流れているものなら甚さっと流れて見せてくれればいい！……期待と甚不安……解放感と甚あせり……こんなふうにじらされるのが甚いちばんやりきれない曷顔に手拭をかけて甚仰向けに倒れ込んだ曷こいつは甚おれの臭いだが甚おせじにも上等とは言いかねる曷

もぞもぞと甚何かが足の甲を這っている……ハンミョウ属なら甚あんな歩き方はしっこない……どうせ甚貧弱な六本足でやっと体重を引きずっている甚ゴミムシかなんぞに決っている……男はもう甚たしかめてみる気さえしなかった曷もっとも甚それが仮に甚ハンミョウ属だったとしても甚果して追い掛ける気になっていたかどうかは甚疑わしい曷おそらく甚彼自身にも甚確答はできなかったにちがいない曷

風で甚手拭がめくれ上った曷眼の端で甚砂丘の稜線の一つが甚金色に輝いた曷なだらかに盛上ってきた曲面が甚その黄金の線を境に甚急角度で影のなかにすべりこむ曷その空間の構成には甚異様に緊迫したものがあり甚男は妖しいまでの人恋しさに甚ぞっとしてしまった曷

――（さよう曷まったくロマンチックな風景です……こういう風景こそ甚最近の若い観光客には甚大もてなんですな……大した優良株だ……その道の経験者として甚将来の発展は甚絶対に保証しますよ曷ただし甚そのためにも甚まず宣伝！　宣伝しなけりゃ甚蠅だってよりつきやしません……知らないってのは甚無いと同じことですからな……とんだ宝の持ち腐れです曷では甚どうすればよろしいか？……腕のいい写真家に頼んで甚きれいな甚楽しい甚絵葉書をこさえます曷昔は甚名所があってから甚後で絵葉書が出来たもんだ……ところが今じゃ甚まず絵葉書……それから名所が出来るってのが甚常識なんですね曷ここに甚二甚三甚見本を持って参りましたから甚とにかくそいつをご覧いただくことにして〉――罠にかけたつもりで甚逆に罠にかかり甚そのまま病死してしまった甚哀れな絵葉書屋のセᵴルスマン曷だが甚その絵葉書屋が甚からっきしの舌先三寸だったとも思えないのだ……あんがい本気で甚ここの風景に夢を托し甚事業を賭けていたのかもしれない……一体甚この美しさの正体は甚何なのだろう？……自然のもつ甚物理的な規律や甚正確さのためか甚それとも逆に甚あくまでも人間の理解を拒みつづけようとする甚その無慈悲さのせいなのか？

　もっとも甚昨日までだったら甚そんな風景のことなど甚考えただけでも胸がむかついたにちがいない曷事実甚絵葉書屋などという甚ペてん師になら甚まさにおあつらえの穴だと甚つい腹立ちまぎれに思ったものだった曷

とは言え甚あの穴の生活と甚この風景とを甚対立させて考えなければならない理由はどこにもない曷美しい風景が甚人間に寛容である必要など甚どこにもありはしないのだ曷けっきょく甚砂を定着の拒絶だと考えた甚おれの出発点に甚さして狂いはなかったことになる曷1/8m.m.の流動……状態がそのまま甚存在である世界……この美しさは甚とりもなおさず甚死の領土に属するものなのだ曷巨大な破壊力や甚廃墟の荘厳に通ずる甚死の美しさなのだ曷……いや甚ちょっと待ってくれ曷だからと言って甚おれが往復切符を握って離さなかったことを甚云々されたりしたのでは甚立つ瀬がない曷猛獣映画や甚戦争映画のたのしみは甚たとえ心臓病が悪化するほど甚真に迫ったものであったとしても甚ドアを開ければすぐそこに甚昨日のつづきの今日が待っていてくれるからなのだ……映画館に甚実弾をこめた銃を担いで行ったりする馬鹿が甚どこにいるものか……沙漠のなかで甚風景に生活を調和させられるのは甚水がわりに自分の小便を飲むという特別な鼠か甚腐肉を餌にしている昆虫か甚せいぜいまともなところで甚片道切符しか知らない甚遊牧の民ぐらいのものである曷切符は甚もともと片道だけのものと思い込んでいれば甚岩にはりついた牡蠣を真似て甚砂にへばりついてやろうなどという甚無駄な試みもせずにすむ曷もっとも甚その遊牧も甚今では畜産業と甚呼び名まで変ってしまったが……

　そうだ甚女に甚この風景の話をしてやればよかったのかもしれない……絶対に往復切符が通用する余地のない甚砂の歌を甚多少音程が狂ってもかまわないから甚聞かせてやっていれ

ばよかったのかもしれない……だのに甚おれのしたことと言ったら甚たかだか甚別の生活という餌で女を釣り上げてやろうという甚下手な色事師の真似事にすぎなかった曷精神までが甚砂の壁に鼻面を抑えこまれて甚紙袋をかぶった猫同様になっていたのだ曷

稜線の光が甚ふっと消えた……風景全体が甚みるみる闇に沈んでいく曷いつか甚風もおさまり甚この分だと甚靄も甚また勢いをとり戻しはじめているにちがいない曷この急な日暮れも甚多分そのせいなのだろう曷

さあ甚出掛けよう曷

モッコ搬びの連中が甚仕事にかかる前に甚とにかく部落を甚通り抜けてしまわなければならない曷これまでの経験からすれば甚あと約一時間の猶予はある曷安全を期して甚四十五分とみておこう曷岬の延長が甚部落を抱き込むように甚次第に奥に曲りこみ甚東側の入江まで達して甚部落の通路を狭い一本の道にしぼっているわけだが甚その辺になれば甚もう岬の屏風岩も終って甚せいぜいが化粧剥げした甚小高い砂丘といった程度のものらしい曷靄ににじんだ部落の明りを右に見て甚まっすぐ進めば甚ほぼそのあたりに出る見当である曷距離にして甚約二キロ……その先は甚もう部落の外だし甚ぽつぽつ甚砂まじりの落花生畠があるくら

いで甚家らしいものがあった憶えはない曷丘さえ越えてしまえば甚あとは道を通ることにしてもいいだろう曷一応甚赤土を下地にした道だったし甚力いっぱい駈け出せば甚国道までざっと十五分曷そこまで行きつけば甚もうこっちのものだ曷バスも走っていれば甚人間の正気も走っている……

そこで甚部落を抜け出すまでの持ち時間は甚差し引き三十分という計算だ曷この砂地で甚時速四キロは甚かなりの難行である曷砂地の辛さは甚足がめりこむことより甚踏み切るときの甚力の無駄にある曷駈け足などは甚浪費もはなはだしい曷むしろ踏みしめるような大股のほうが甚能率的なくらいである曷ただ甚砂は甚力を吸収した埋め合わせに甚足音のほうも吸い取ってくれる曷足音を気にしないですむところが甚取柄といえばまあ取柄だろう曷

ほら甚足もとに気をつけろ！……ころんでも大したことはないと甚たかをくくってしまうせいか甚ほんのちょっとした隆起やくぼみにも甚すぐにつまずいて甚膝をついてしまう……膝をつくだけなら甚かまわないが甚万一甚また深い砂の崖にでも出っくわしたら甚どうするつもりなのだ！

あたりは暗く甚砂はどこまでも不規則なうねりをくりかえす曷うねりのなかに甚またうねりがあり甚その小さなうねりが甚さらに幾つもの小刻みな起伏に分割されているのだ曷目標に定めた部落の明りも甚はてしないうねりの峰にさえぎられてめったに視界に入ってこない曷そのあいだ甚勘にたよって甚修正しながら進むのだが甚いつも呆れるほどの誤差があっ

た曷おそらく甚無意識のうちに明りを求めて甚つい高いところに足がむいてしまうせいなのだろう曷

そら甚また違ってしまった！　もっと左だ！……このまま行ったら甚まっすぐ部落のなかに入りこんでしまう……もっとも小山みたいな丘を甚三つも越えて来たっていうのに甚明りはほとんど近づいていなかった……まるで甚同じところを甚どうどう巡りしているようである曷汗が眼に流れこむ……一と足休んで甚肩で息をつく曷

女は甚もう甚目を覚ましただろうか？……目を覚まして甚おれがいなくなったことに気づいたら甚どんな反応を示すだろう？……いや甚そうすぐには気づくまい……裏で甚用便の最中だぐらいにしか思うまい……今夜甚女は疲れている……暗くなるまで甚寝すごしたことに驚いて甚あわてて這い起きるのがやっとだろう……それから甚股のあいだがばりばりに乾き甚まだ微かに痛みの残っている火照りに甚やっと今朝の狂態を思い出す……女は甚ランプを手さぐりながら甚はにかみ笑いを浮べることだろう……

だからといって甚その笑いに甚おれが義務や責任を感じなければならないという法はない曷おれの脱出によって甚女が失うものはと言えば甚たかだかラジオと鏡でおきかえられる甚生活の破片にしかすぎないはずだ曷

甭本当に甚助かりますよ……一人のときと違って甚朝もゆっくり出来るし甚仕事じまいも甚二時間は早くなったでしょう？……行くゆくは甚組合にたのんで甚なにか内職でも世話して

もらおうと思って……それで甚貯金してね……そうすれば甚いまに甚鏡や甚ラジオなんかも甚買えるんじゃないかと思って……盃

（ラジオと甚鏡……ラジオと甚鏡……）――まるで甚人間の全生活を甚その二つだけで組立てられると言わんばかりの執念である曷なるほど甚ラジオも甚鏡も甚他人とのあいだを結ぶ通路という点では甚似通った性格をもっている曷あるいは人間存在の根本にかかわる欲望なのかもしれない曷いいとも甚向うに着いたら甚ラジオくらいすぐに買って送ってやるよ曷あり金をはたいて甚最高級のトランジスタ攵でも買ってやる曷

しかし甚鏡のほうは甚ちょっと受け合いかねるな曷鏡はここでは甚消耗品だ……半年目には甚裏の水銀膜が浮き上がり甚一年たつと甚たえず空中を流れている砂の摩擦で甚表のガラスまでが曇ってしまう……いまの鏡と同様甚片眼をうつせば鼻がかすみ甚鼻をうつせば甚口がうつらないといったことになるわけだ曷いや甚なにも甚もちの点だけを問題にしているわけじゃない曷ラジオとちがって甚鏡が通路になるためには甚まず見てくれる他人の存在が前提にならなければなるまい曷もはや甚見てもらえる機会さえないものに甚いまさら鏡がなんの役にたつ？

そら甚ぎくりとして甚耳をそばだてるがいい！……大便にしては甚あまり時間がかかりすぎはしまいか……そのとおり甚奴はまんまと甚逃げおおせてしまったのだ……わめき立てるだろうか？……呆然自失するだろうか？……それとも甚ちょっぴり甚涙ぐむだけだろう

か？……どっちにしても甚もうおれの責任じゃない……鏡の必要を拒んだのは甚おまえ自身だったのだから曷

匍……これも甚何かで読んだ話だが……ほら甚最近は甚大変な家出ばやりだろう？……生活環境の悪さのせいかと思っていたら甚どうも甚それればかりじゃないらしいんだなあ……なんでも甚中程度の農家で甚新しく土地を買い足したり甚機械を入れたりで甚経営もまあまあだった家の長男が甚ひょっこり家出してしまったって言うんだよ曷大人しい甚仕事熱心な青年だったし甚さっぱり原因が分らなくて甚両親も頭をかかえこんでしまったらしい曷農村じゃ甚世間体だとか甚つき合いの義理ってこともあるし甚跡取りの家出ともなれば甚よくよくの事情がなけりゃねえ……盍

匍そうですよ……義理は甚なんたって甚義理ですから……盍

匍そこで甚親戚のものが甚わざわざ出掛けて行って甚話を聞いてみたらしい曷ところが甚実際にも甚女と同棲しているわけじゃなし甚道楽や借金に追いまわされている様子もなし甚具体的な動機は甚何一つないって言うんだな曷それじゃ一体甚どういうわけなんだ？……すると甚青年の言い分ってのが甚これまたさっぱり要領を得ない……ただ甚これ以上我慢できないという以外甚自分でもうまく説明できないらしいんだ曷盍

匍本当に甚世間には甚向う見ずな人がいますからねえ……盍

匍しかし甚考えてみれば甚その青年の気持も分らないじゃない曷百姓ってやつは甚働いて土地をふやせば甚それだけまた仕事の量も多くなる……結局甚苦労に限りはないし甚あげくに手に入れられるのは甚米や芋の収穫というお返しがあるだけ甚まだましってものかな？　それにくらべると甚この砂掻きときたら甚まるで賽の河原の石積みじゃないか！盍

匍賽の河原って甚あれ甚しまいに何うなるんでしょうねえ？盍

匍どうもなりゃしないさ……どうにもならないから甚地獄の罰なんじゃないか！盍

匍それで甚その跡取り息子のほうは甚それからどうなりました？盍

匍どうって甚そりゃ甚あらかじめ計画的にやったことだし甚就職先ぐらい甚前もって決めておいただろうさ曷盍

匍それで……？盍

匍だから甚そこに勤めたんだろう……盍

匍それで甚その後……盍

匍その後って甚まあ甚給料日になれば給金をもらうだろうし甚日曜日には甚シャツを着替えて甚映画にでも行ったりしただろうな曷盍

匍それから？盍

匍そんなこと甚直接本人に聞いてみなけりゃ甚分りゃしないよ！盍

甫やっぱり甚貯金がたまったら甚ラジオを買ったりしたんでしょうねえ……盍

……やれやれやっと登り切ったと思ったのに甚まだ途中か……いや甚ちがう……ここはもう平地だ……それじゃ甚目標の明りは甚どこに行ってしまったのだろう？……信じられない気持で甚しばらく前進をつづけてみる……たしかにここは甚かなりの丘の稜線の上らしい……それで甚明りが見えないというのは甚一体どうしたわけか？　不吉な予感に甚足もとがすくんだ曷どうやら甚さっきの横着が失敗の原因だったらしい曷急な坂を甚方向もたしかめずに甚すべり下りてしまった曷想像した以上に甚長い谷間だった曷深いばかりでなく甚幅も広かった曷おまけに甚幾層ものうねりが甚その底でややこしく交錯し甚それが判断を狂わせてしまったのだろう曷それにしても甚まるで明りが見えないというのは甚腑に落ちない……たかだか行動半径一キロ以内の誤差である……迷ったところで甚たかが知れている……気分としては甚左に行きたいところだったが甚それは部落に対する警戒心のせいかもしれず甚むしろ明りに近づくためには甚思いきって右を選ぶべきであるような気もする……間もなく甚靄が晴れて甚星も出るころだ……とにかく甚なるべく展望を得るためには甚方角を問わず甚すこしでも高みへと登って行くのが甚結果的には一番の早道だろう……

それにしても甚分らない……女が甚あの賽の河原に甚なぜあれほど執着しなければならないのか甚さっぱりわけが分らない……甫愛郷精神盍だとか甚義理だとか言っても甚それを捨

て去るときに甚一緒に失うものがあって甚はじめて成り立つことではないか……いったい彼女が甚失う何を持っていたというのだ？

（ラジオと甚鏡……ラジオと甚鏡……）

むろん甚ラジオは甚送ってやるさ……しかし甚結果からみて甚かえってなくしたものの方が多かった計算になりはしまいか？　たとえば甚おまえが大好きだった甚おれに行水をつかわせる儀式も甚もうなくなってしまった曷洗濯を犠牲にしてでも甚おれの体を拭く水だけは甚かならず残しておいてくれたものである曷股のあいだに甚湯をとばし甚まるで自分がそうされたように甚体をよじって甚きゅうきゅう笑い声をたてたりする曷もう二度と甚あんな笑い声をたてる機会は甚なくなってしまったのだ曷

いや誤解してはいけない……おれと甚おまえとの間には甚契約めいたものなど甚最初から何もなかった曷契約がない以上甚契約破棄ということもありえない曷それに甚おれの方にだって甚ぜんぜん損失がなかったわけじゃないのだ曷たとえば甚あの甚堆肥をしぼったような甚一週一度の焼酎の臭い……雨樋のような筋肉がういてみえるおまえの内股の肉のはずみ……焦げたゴムのような甚黒い襞にたまった砂を甚唾でしめして指で拭きとる甚破廉恥な感触……そして甚それらをいっそう猥褻なものに見せる甚あのはにかみ笑い……その他甚合算していけば甚かなりの額になるはずである曷信じられないといっても甚事実なのだ曷男は甚女以上に甚ものの破片や断片に耽溺（たんでき）する傾向があるものだ曷

さらに部落の仕打ちのことを考えに入れれば甚おれがうけた被害は甚とうてい計算しつくせないほどになる曷二人のあいだの甚個人的な貸し借りなど甚問題ではない曷いずれ徹底的な復讐をしてやるつもりだが……最初は甚部落全体に火をかけてやるとか甚井戸に毒を入れてやるとか甚罠を仕掛けて甚責任者を端から穴のなかに引きずり込んでやるとか甚そんな直接的な手段で甚もっぱら空想に鞭うち甚自分をはげまして来たものだが甚いざ実行の機会をあたえられてみると甚そう子供っぽいことばかりも言っていられない曷いずれ甚個人の暴力など甚たかの知れたものだ曷やはり甚法律に訴えるしか甚手はないだろう曷その場合甚はたして法律に甚この事件の残酷さの意味が甚どこまで理解できるものやら甚多少の懸念もなくはないが……まあ甚とりあえず甚県の警察にだけでも甚報告かたがたとどけておくとしよう曷

そうだ甚それから甚最後に甚もう一つだけ……

待て！……なんだ甚いまの音は？……聞えなくなった……たぶん甚そら耳だったのだろう曷それにしても甚部落の灯は甚一体どこに行ってしまったのか？　いくら地形が複雑だからといっても甚ちょっと甚ひどすぎる曷想像できることは甚おれの舵には左にふれる癖があり甚岬の方に迂回しすぎて甚部落との間を甚どこかの高い稜線でさえぎられてしまったという場合だ……ぐずぐずしてはいられない……思いきり甚右よりに甚方向転換してみてやろう曷

……最後に甚もう一つだけ甚忘れてほしくないことは甚おれの疑問に甚おまえ自身も甚ついにはっきりとは答えられなかったという点だ曷たしかあれは甚二日つづいた甚雨の日だった曷雨が降ると甚なだれの威力が増大するかわりに甚飛砂の量もずっと減ってくれる曷最初の日に甚すこし仕事を余分にしておけば甚翌日はずっと楽ができた曷久しぶりのくつろぎを利用して甚おれは執念深く甚追求してみることにした曷おまえを甚ここに引きとめておくもの甚正体を甚皮膚病のかさぶたを剥ぐような根気で甚つつきまわすことにした曷われながら驚くほどの甚ねばりようだった曷はじめは甚はしゃいで甚裸を雨にうたせたりしていたおまえも甚ついに追いつめられて甚泣きだしてしまった曷あげくに甚ここを離れられない理由は甚ほかでもない甚以前台風の日に甚家畜小屋と一緒に埋められてしまった甚亭主と子供の甚骨のせいだなどと言いだす曷なるほど甚それならば甚納得もいく曷すこぶる甚実際的だったし甚今までおれに言いづらかった気持も甚分らなくはない曷とにかくそのまま信じることにした曷早速甚翌日から甚睡眠時間をけずって甚骨さがしに当てることにした曷

おまえが指示した場所を甚二日にわたって甚掘りつづけた曷だが甚骨どころか甚小屋の破片一つ出て来やしない曷するとおまえは甚ちがった場所を示した曷そこでも甚やはり甚何も見つからなかった曷さらに甚指定が変更される曷こんなふうにして甚場所で五回甚日数にして九日にわたる無駄掘りのあげくに甚おまえはまた泣き出しそうな顔で甚弁解しはじめた曷どうやら家の場所が変ってしまったらしい甚絶え間ない砂の圧力で甚母屋自身の位置も甚角

度も甚ずれてしまったのかもしれず甚ことによると穴自体も甚もとの位置から移動したのかもしれないというわけだ曷家畜小屋も甚亭主と子供の骨も甚隣との地境いの甚厚い砂の壁の下になっているのかもしれないし甚場合によっては甚そっくり隣の庭に入りこんでしまった可能性もあるという曷たしかに甚理屈としては甚ありうることだ曷だが甚おまえの甚その不幸そうな甚うちひしがれた表情は甚嘘を言っている甚というよりは甚はじめから教えるつもりなど甚少しもなかったことを甚あからさまに示していた曷骨も甚要するに甚口実にすぎなかったのだ曷おれにはもう甚腹を立てる気力もなかった曷そして甚それ以上甚貸し借りにこだわるのはやめにした曷そのことは甚おまえだって甚納得しないわけにはいかないと思うのだが……

何んだ甚これは！……男はうろたえた甚頭から地面に甚つっ伏した……あまりの唐突さに甚すぐには事情が飲み込めない……いきなり甚部落の全景が甚目の前にあったのだ！……部落に接した砂丘の峰に向って甚直角に歩いて来ていたらしい……視界がひらけたとたんに甚彼は部落の中に入りこんでしまっていた……判断をめぐらすゆとりもなく甚すぐ間近の粗朶垣のあたりから甚敵意をこめた犬のうなり声がした曷つづいて甚一匹甚また一匹と甚すさまじい連鎖反応をおこして甚ひろがりはじめる曷闇の中で甚カタカタと甚白い牙の群が舞いながら甚迫ってくる曷男は甚鋏つきの口ﾌﾟをつかみ出し甚はね上って甚駈け出した曷もはや選択の余地はない曷あとは甚村の出口に向って甚最短ｺﾞｽを走るだけだ！

男は走った曷

ランプの薄明りに浮ぶ甚村の建物も甚いまはただ甚一本の軌跡にそった甚通路と障害物の二つに区別されるだけである曷音をたてて甚狭い喉の隙間を流れる甚風の味……生ぬるい鉄錆の味……いまにもくだけ落ちそうな甚たわみきった薄いガラス板の上の甚絶望的な賭曷モッコ搬びの連中が甚まだ家を出ていないと期待するには甚すでに時間が遅すぎるが甚海岸の方に甚出はらってしまったことを期待するには甚まだ早すぎる曷現に甚オﾀﾞト三輪の音を甚耳にした憶えがない曷あの気違いじみた二気筒エンジンの響きなら甚一キロ先からだって甚聞きのがすはずがなかった曷条件としては甚まさに最悪なのである曷

ふいに甚影のなかから甚黒いかたまりが飛び出してきた曷独特の甚はげしい息づかいで甚かなりの大きさの犬らしい曷ただ甚犬のほうも甚攻撃用の訓練は受けていなかったらしく甚せっかく歯を立てようという直前に甚一声吠えるという甚へまをやってくれた曷すかさずふるった甚口ﾀﾞプの先の鋏に甚手応えがあり甚犬は甚うらみがましい悲鳴をあげて甚ふたたび影に融ける曷おかげで甚ズボンの裾を食い裂かれただけですんだ曷はずみで甚足をとられはしたが甚倒れながら一廻転して甚立上るなりもう駈け出している曷

だが甚犬は一匹だけではなかった曷五甚六匹はいるようだった曷最初の奴の失敗に気をくじかれたのか甚遠まきに甚強迫がましく吠えたてながら甚隙をうかがっている曷あの甚ずんぐりした掘立て小屋の赤犬が甚後ろの方から甚けしかけているのかもしれない曷半径五十センチほどの甚口ﾌﾟプの廻転面をつくり甚楯(たて)に構えて甚左右に牽制(けんせい)しながら甚空地の貝殻山をとびこえ甚狭い粗朶垣の間を走りぬけ甚藁をひろげた中庭をつっきり甚やっと広い道に出る曷さあ甚もう一と息で部落の外だ！

道の手前に甚小さな溝があった曷その溝の中から甚姉弟らしい幼い子供が二人甚あわてて這い出してきた曷気づいたときは甚もう遅かった曷口ﾌﾟプを脇によけるのが甚せい一杯だった曷三人甚一と塊りになってころげこむ曷溝の底に甚樋のようなものがあり甚板が砕ける鈍い音がした曷子供が悲鳴をあげた……ちくしょう甚なんだってそう甚大げさにわめきやがるんだ！……力いっぱい甚はねとばし甚這い上ったとたんに甚懐中電燈の光が三つ甚横にならんで甚行手をさえぎっていた曷

同時に甚半鐘が鳴りだした曷子供が泣いている……犬が吠えつづけている……半鐘の一と打ちごとに心臓がちぢみあがり甚毛穴が開いて甚ぷつぷつ米粒のような虫が甚無数に這い出してくる曷懐中電燈の一つは甚焦点調節式らしく甚光がやわらいだかと思うと甚またいきなり白熱する針になって甚つき刺さってきた曷

かまわず甚蹴散らして甚正面突破をしてやるか……そこを甚越えれば甚もう部落の外なのだ……あとで甚後悔するもしないも甚すべてこの瞬間にかかっている……さあ甚ぐずぐずするな！……瞬間というものは甚いますぐ捕まえなければ甚間に合わない……次の瞬間に便乗して甚後を追いかけるなどというわけには甚いかないものなのだ！

そう思っている間にも甚懐中電燈は甚彼を包囲する体勢で甚左右にひろがりながら甚ゆっくり距離をちぢめて来ていた曷口ﾀﾌﾟをつかんだ腕に甚力をこめ甚腰にはずみはつけてみたものの甚なかなか決断がつかず甚いたずらに脆(もろ)い地面に爪先をつき立てるばかりだ曷ひろがった懐中電燈の間を甚さらに幾つかの甚黒い人影が埋めていた曷おまけに甚あの甚穴のように見える道端の暗いかたちは甚たしかにｵﾀﾄ三輪である曷かりに甚一度はきりぬけてみても甚すぐに後から甚追いつかれてしまうだろう曷後ろで甚泣きやんだ子供が甚駈けだす音がした曷とっさに甚すばらしい考えがひらめいた曷子供をつかまえて甚楯にすればいい！子供を人質にして甚やつらの接近をはばむのだ！……しかし甚追いすがろうと振向いた目にも甚またべつの光が待ちうけていた曷道は絶たれた！

はじき返されるように甚今来た路地を甚力いっぱい甚駈け戻っている曷ほとんど甚反射的な判断だったが甚出来れば甚岬のつづきの丘を甚どこかで横切ってやるつもりだ曷わめきながら甚部落の男たちも甚後を追いはじめる曷あせりすぎか甚関節が抜けたみたいに甚膝が甚

がくがくした曷それでも甚一応は甚意表をつくことになったらしく甚時たま振向いて確かめられるくらいの甚距離のゆとりは保つことができた曷

どれだけ走っただろう……すでに甚幾つもの傾斜をよじのぼり甚斜面を駈け下りてきた曷力めば甚りきむほど甚夢のなかのように甚虚しく力が空転してしまう曷だが甚いまさら甚力の効率を論じたりしているときではない曷舌の奥から甚血のまざった蜜の味が甚あふれ出してくる曷吐き出そうとしてもねばって吐き切れない曷指をさしこんで甚掻き出した曷

半鐘は甚鳴りつづけていたが甚もう距離も遠く甚まばらだった曷犬も甚あきらめの悪そうな甚遠吠に変っている曷いま甚あたりの空気をかき乱しているのは甚むしろ鋳物にやすりを掛けるような甚彼の呼吸音だ曷追手の灯は甚相変らず甚三つ横に並んで甚上下にゆれながら甚とくに近づいた様子もなければ甚遠ざかった様子もない曷逃げる側にとっても甚追う側にとっても甚この走りにくさは同じことなのだ曷あとは甚結局甚耐久力の問題だろう曷その点になると甚しかし甚あまり気休めも言っていられなかった曷緊張がつづきすぎたせいか甚ふと甚意識に断層ができ甚いっそのこと甚早く力つきてしまってほしいと願うような甚弱気がかすめたりする曷危険な兆候だ……その危険を自覚しているうちは甚まだいいのだが……

靴にびっしり甚砂がつまって甚爪先が痛みだした曷振向くと甚いつか追手は甚右後方甚七甚八十メゞトルのところにまで甚遠のいている曷なんだって甚あんなに甚コゞスを外れて

しまったのだろう？　おそらく甚斜面をさけようとしすぎて甚かえって甚あんな不手際をしでかしてしまったのだ曷けっこう向うも疲れてきたらしい……追手の方が甚疲れやすいとは甚よく言うが……すばやく甚靴をぬいで甚はだしになる……ポケットをふくらませては甚邪魔になるので甚ズボンのバンドにはさみ込むことにした曷気をとりなおして甚かなりの坂を甚一気に駈けのぼった曷この調子だと甚うまくすると甚連中を適当にまいてしまえないとも限らない……

　月はまだ出ていなかったが甚星明りで甚ぼんやりあたりが濃淡のむらをつくり甚むろん甚遠くの稜線などは甚はっきり見分けることができた曷どうやら甚岬の先端あたりに甚向っているらしい曷よくよく甚おれの舵は甚左にふれるくせがある曷向きを変えようとして甚はっとした曷それは甚とりもなおさず甚追手との距離をちぢめることだ曷はじめて甚追手の意図に気づいて甚愕然とする曷

　一見甚不器用そうにみえた甚彼等の追跡は甚じつは甚彼を海の方に追いつめようという甚きわめて計画的なものだったのだ曷知らずに甚彼は甚誘導されていた曷考えてみれば甚あの懐中電燈だって甚わざわざ自分たちの位置を教えていたようなものである曷つかず甚離れずの甚この距離のとり方だって甚おそらく甚計算ずくでのことだったにちがいない曷

　いや甚あきらめるのは甚まだ早い曷どこかには甚屏風岩をのぼる道もあるということだし甚いざとなれば甚海を泳いで甚岬の裏側にまわることだって不可能とは言いきれまい曷捕

まって甚つれ戻されることを思えば甚いまさら迷ったりする余地はないはずだ曷

長いゆるやかな上り坂につづく甚急な下り坂……急な上り坂につづく甚長いゆるやかな下り坂……一と足甚一と足を甚ビ殳ズ玉をつなぐように甚つぎ足し重ねていく甚忍耐の連続だ曷いつか半鐘は鳴りやんでいる曷風も甚海鳴りも甚耳鳴りの音も甚もう区別がつかない曷坂を一つ這い上ったところで甚振り向いてみた曷追手の明りは消えていた曷一呼吸甚二呼吸まで待ってみたが甚やはり現われない曷

うまく甚逃げきれたのだろうか？

期待のたかぶりが甚心臓の圧力をあげ甚そうだとすれば甚なおさら甚休むわけにはいかない……さあ甚もう一と息甚次の丘までつっ走れ！

急に甚走りづらくなった曷やたらに甚足が重い曷この足の重さは甚尋常でない曷ただ甚そう感じているだけでなく甚実際に甚足がぬかりはじめているのだった曷雪のようだ甚と思ったときにはすでに甚脛（すね）の半分くらいまで甚めり込んでしまっている曷驚いて甚抜きとろうと甚ふんばった反対側の足が甚こんどは膝まで甚ずぶずぶともぐってしまった曷なんていうことだ……人食い砂と言うようなものがあることを甚話には聞いたことがあるが……なんとか甚脱け出そうと甚もがいてみるのだが甚もがけばもがくほど甚ますます深く甚めり込んで行く曷両足とも甚すでに甚太股のあたりまで埋まってしまった曷

さてはこれが甚罠だったのか！……ねらいは海などではなく甚ここだったのだ！……捕えたりする手間はかけずに甚いきなり抹殺してしまう腹だったのだ！……まさしく甚抹殺である……手品師のハンカチだって甚これほど鮮やかにはやれはしまい……一と風吹けば甚なにもかもが甚消えて無くなる……コンクゎル一等賞の警察犬にだって甚もう歯も立ちはしないのだ……いまさら甚奴等が甚のこのこ姿を現わしたりするはずがないじゃないか！……何も見なかったし甚何も聞かなかった……馬鹿な他所者(よそもの)が一人甚勝手に迷い込んで甚消えていった……奴等は甚少しも手を汚さずに甚すませられるのだ……

沈んで行く……沈んで行く……もうじき甚腰骨を越してしまう……一体甚どうすりゃいいんだ！……接触面を広くすれば甚それだけ面積当りの体重が軽くなり甚多少でも沈下をふせげるかもしれない……両手をひろげて甚がばっと伏せる……だが甚もう甚手遅れだった曷腹ばいになると言っても甚下半身は甚すでに垂直に固定されてしまっているのだ曷ただでさえ甚くたびれている腰を甚そういつまでも甚直角に保ったりしているわけにはいかない曷よほど訓練された軽業師でもないかぎり甚こんな姿勢には甚いずれ限度がくる曷

なんという暗さだろう……世界中が甚眼を閉じ甚耳をふさいでいる……おれが死にかけているというのに甚誰も甚振り向いてくれようとさえしないのだ！　唾の奥で甚ひくついていた恐怖が甚いきなり炸裂した曷男は甚だらりと口を開けて甚けもののような叫び声をあげていた曷

匍助けてくれえ！畚

きまり文句！……そう甚きまり文句で甚結構……死にぎわに甚個性なんぞが甚何んの役に立つ曷型で抜いた駄菓子の生き方でいいから甚とにかく生きたいんだ！……いまに甚胸まで埋まり甚顎まで埋まり甚鼻の下すれすれまでやって来て……やめてくれ！　もう甚沢山だ！匍たのむ甚助けてくれ！……どんなことでも甚約束する！……おねがいだから甚助けてくれよ！……おねがいだ！畚

ついに男は甚泣き出してしまった曷それでもはじめは甚一応自制のきいた甚嗚咽だったのが甚やがて甚手離しの号泣に変り甚男はその浅ましい崩壊感に甚おぞけをふるいながらも甚観念した曷誰も見ていないのだから甚仕方がない……実際こんなことが甚なんの手続もなしに行われるなんて甚あまりに不公平すぎる……死刑囚だって甚死ねば甚あとに記録を残してもらえるのだ……いくらだって甚吠え立ててやるとも……誰も見ていないのが甚悪いのだ！

だから甚いきなり後ろから声をかけられたときの驚きは甚ひとしお無惨だった曷完全にうちのめされた曷屈辱を恥じ入る気持さえ甚トンボの羽に火をつけたような甚あっけなさで甚ちりちりと灰になってしまった曷

匍ほら甚こいつに甚つかまっていな！畚

長い板切れがすべって来て甚脇腹に当った曷光の輪が甚宙を切って甚その板切れにとまった曷彼は甚不自由な上半身をねじまげながら甚背後の気配に甚哀願した曷

匍すみません甚この口ゲプで甚引っ張って下さい……盒

匍まさか甚あんた甚根っこを甚引っこ抜くようなわけにはいかないよ……盒

　どっと甚後ろで甚笑い声がおこる曷はっきりはしないが甚四甚五人はいるらしい曷匍いま甚スコップを取りに行っているところだから甚もうちょっとの辛抱だ……その板っ切れに甚肘をあてがっていりゃ甚心配はいらんから……盒

　言われたとおりに甚肘をつき甚頭をかかえこんだ曷汗で甚髪の毛が甚ぐっしょり濡れている曷ただ甚一刻も早く甚恥知らずな状態にけりをつけてほしいという以外甚なんの感激も湧いてこなかった曷

匍しかし甚なんだよ……わたしらが甚あとを追って来たから甚いいようなものの甚この辺は甚あんた甚塩あんこと言って甚犬も近づかんようなところだからねえ……まったく甚あぶないとこだった……知らずにまぎれこんで甚とり返しのつかんようになった者が甚どれだけいたか分りゃしない……ちょうど甚山かげになっておって甚吹きだまりになるんだなあ……冬になると甚雪が吹きだまる……その上に甚砂が吹きだまる……また雪が吹きだまるといった具合で甚約百年も甚薄焼煎餅を重ねたみたいなあんばいになっておるんだと……こりゃ甚町の学校に行っておった甚元の組合長んとこの甚次男坊の話だがね……面白いもんだねえ……底の方を甚掘り返してみたら甚何か甚金目のものが出てくるかも分らんなあ……盒

いったい甚なんのつもりだ！　いまさら甚そんな甚白々しい甚罪のないような話しっぷりはやめてもらいたい……もっと甚歯をむきだしにした文句でも並べてくれたほうが甚ずっとこの場にはふさわしい……さもなければ甚せめて甚このぼろ屑のあきらめのなかに甚そっとしておいてもらいたいものである……

やっと甚背後がざわつき甚スコップが到着したらしい曷靴の底に甚板を履いた甚男が三人甚よたよたと甚遠まきに彼のまわりを掘り返しはじめる曷砂は甚ぽくぽく甚層になってめくりとられた曷夢も甚絶望も甚恥も甚外聞も甚その砂に埋もれて甚消えてしまった曷男たちの手が甚肩にかかったときも甚だから甚びくりともしなかった曷命ぜられれば甚ズボンを下ろして甚見ている前で甚糞でもたれてみせただろう曷空が明るくなり甚間もなく月が出るらしい曷女は甚どんな顔をして甚おれを迎えるだろうか？……どんな顔でもかまいやしない……今なら甚殴られ屋にだって甚なれそうだ曷

27

男は甚脇の下に甚口ゑプをかけられ甚荷物のように甚再び穴のなかに吊り下ろされた曷誰も甚一言も口をきかず甚まるで埋葬の儀式に立ちあってでもいるようだ曷穴は甚深く甚暗かった曷月が甚砂丘の全景を甚淡い絹の輝きでくるみ甚風紋や足跡までも甚ガラスの襞のよ

うに浮き立たせているというのに甚ここだけは甚風景の仲間入りさえ拒まれ甚ただむやみと暗いばかりである曷しかしべつだん甚気にもならなかった曷月を見上げただけで甚目がくらみ甚吐き気がしたほど甚疲れきっていた曷

女は甚その暗がりのなかで甚暗がりよりももっと暗かった曷女につきそわれて甚寝床のほうに足をはこびながらも甚なぜか彼には女がまるで見えないのだ曷いや甚女だけでなく甚すべての輪廓がぼやけてしまっていた曷ふとんに甚倒れこんでからでも甚気持のうえでは甚まだせっせと砂の上を駈けていたりする……そしてそのまま甚夢の中でも甚まだ走りつづけている……そのくせ甚睡りは浅かった曷モッコの往き来する音も甚犬の遠吠えも甚そっくり記憶に残っている曷女が甚夜食に戻って甚枕元のランプを点けたのも甚ちゃんと知っていた曷途中で一度甚水を飲みに起きると甚それっきり目が覚めてしまった曷そうかと言って甚まだ女を手伝いに行くほどの気力はない曷

所在ないまま甚ランプをつけて甚ぼんやりタバコをくゆらせていると甚ずんぐりした甚しかし敏捷そうな蜘蛛が一匹甚ランプのまわりを甚ぐるぐる廻りはじめた曷蛾ならともかく甚趨光性(すうこうせい)をもった蜘蛛とは珍しい曷タバコの火で甚焼き殺しかけたのを甚ふと思いとどまる曷蜘蛛は甚十五センチか甚二十センチばかりの半径で甚時計の秒針のように甚正確にまわりつづけていた曷あるいは甚単なる趨光性ではないのかもしれない曷期待するものがあって甚見まもるうちに甚やがて一匹のナシケンモンが迷い込んで来てくれた曷二度甚三度甚天井に大

きく影をひらめかせ甚ランプのほやに衝突すると甚取手の金具にとまって甚それっきり動かなくなってしまった曷下司な外見に似合わず甚いやに引っ込み思案な蛾だ曷タバコを甚胸のあたりに押しつけてやった曷神経叢(しんけいそう)を破壊されて甚じたばたもがいているやつを甚蜘蛛の通路に甚はじきこんでやる曷すぐに甚期待どおりの劇がはじまった曷蜘蛛は甚跳ねたと思った瞬間甚もう生け贄の上にはりついている曷やがて甚動かなくなった獲物を甚顎でくわえて引きずりながら甚またのこのこと廻りだす曷そうやって甚蛾のジュﾀｽに甚舌鼓をうっているらしいのだ曷

　こんな蜘蛛がいるとは甚知らなかった曷巣のかわりに甚ランプとはまた洒落ている曷巣では甚受け身に待ちうけているしかないが甚ランプを使えば甚積極的に相手をおびきよせられるわけだ曷ただし甚この方法には甚前提としてまず適当な燈火を準備されていなければならない曷自然には甚残念ながら甚そんな灯はありえないのだ曷まさか甚月や甚山火事の回りを甚うろついたりするわけにもいくまい曷するとこの蜘蛛は甚人間以後に進化し甚本能を定着させた甚新種だというわけか？……説明としては甚悪くない……だが甚そうなると甚蛾の趨光性のほうには甚一体どんな説明をつけるつもりなのだ？……蜘蛛の場合とはちがって甚ランプの灯が甚なにか彼等の種の保存に役立ちうるとも思えない曷しかも甚燈火以後の現象らしいという点では甚まったく同じなのだ曷蛾が群をなして甚月世界に飛び去ってしまわなかったのが甚その何よりの証拠だろう曷これがもし甚ただ一種類だけの蛾の習性だというな

ら甚まだ合点もいく曷しかし甚約一万種にもおよぶ蛾の甚共通した習性だとなると甚これはもはや厳然たる一つの法則だと考えるしかない曷人工の灯によって甚惹き起された甚この盲目で甚狂熱的な羽ばたき……火と甚虫と甚蜘蛛の甚いわれのない密通……法則が甚こんな無謀な現われ方をするのなら甚一体甚何を信ずればいいと言うのか?

目を閉じた……光の斑点が甚ただようように流れていた……捕えようとすると甚急に速度をあげて甚逃げてしまう……まるで甚ニワハンミョウが甚砂に残していった甚影のようだ……

女のすすり泣きで甚目を覚ました曷

匍何を泣いているんだ?盍

女は甚狼狽をかくそうとして甚あわてて立上った曷

匍すみません……お茶をいれようと思って……盍

その水っぽい鼻声は甚男を甚まぶしがらせた曷かがみ込んで甚コンロの火をいじっている甚女の後ろ姿は甚変におどおどとしていて甚その意味を理解するのに甚しばらく手間どった曷黴(かび)だらけの本のペ爻ジを甚むりにめくっているような甚まどろこしさだった曷しかし甚とにかく甚ペ爻ジをめくることは出来た曷急に自分が甚いとおしいほど甚哀れなものに見えてきた曷

甫失敗したよ……盒
甫はい……盒
甫まったく甚あっさり甚失敗してしまったもんだな曷盒
甫でも甚巧くいった人なんて甚いないんですよ……まだ甚いっぺんも……盒
　女は甚うるんだ声で甚しかし甚まるで男の失敗を弁護するような甚力がこめられている曷なんていうみじめなやさしさだろう曷このやさしさが甚酬いられないのでは甚あまりに不公平すぎはしまいか？
甫しかし甚残念だったよ……成功したら甚すぐにラジオを買って甚送ってやろうと思っていたのに……盒
甫ラジオ？盒
甫ずっと甚そう甚思いつづけていたんだ曷盒
甫いいんですよ甚そんな……盒女は甚うろたえ甚言いわけがましく甚甫うんと甚内職すれば甚ここでも買えます……月賦だったら甚頭金だけでいいんでしょう？盒
甫そうだね甚まあ甚月賦だったら……盒
甫沸いたら甚体を拭きましょうか？盒
　ふと甚夜明けの色の悲しみが甚こみ上げてくる……互いに傷口を舐(な)め合うのもいいだろう曷しかし甚永久になおらない傷を甚永久に舐めあっていたら甚しまいに舌が磨滅してしま

いはしないだろうか？

匍納得がいかなかったんだ……まあいずれ甚人生なんて甚納得ずくで行くものじゃないだろうが……しかし甚あの生活や甚この生活があって甚向うの方が甚ちょっぴりましに見えたりする……このまま暮していって甚それで何うなるんだと思うのが甚一番たまらないんだな……どの生活だろうと甚そんなこと甚分りっこないに決っているんだけどね……まあ甚すこしでも甚気をまぎらせてくれるものの多い方が甚なんとなく甚いいような気がしてしまうんだ……盃

匍洗いましょう……盃

はげますように女が言った曷しめった甚しびれるような声だった曷男は甚ゆっくり甚シャツのボタンを外し甚ズボンを脱ぎはじめる曷砂が甚筋肉の内側にまで甚詰ってしまったようだった曷（あいつ甚今ごろ甚何をしているだろう？）……昨日までのことが甚何年も昔のことのように感じられた曷

女が甚手拭に甚石鹸をつけはじめた曷

第三章

十月――

日中はまだ甚未練がましい夏の足踏みが甚裸足では五分と辛抱できないほど砂を焦がしていても甚陽が沈めば甚隙間だらけの部屋の壁が甚さすがに肌寒く感じられ甚湿ったいろりの灰を乾す仕事を甚いやおうなしにせかされたりする曷その気温の変化で甚風のない朝夕など甚霧が甚にごった川のようになった曷

ある日甚男は裏の空地に甚鴉をとらえるための罠をしかけてみた曷それを弭希望ゔと名づけることにした曷

罠の仕掛けは甚砂の性質を利用した甚ごく簡単なものである曷やや深めに掘った穴の底に甚木の桶を埋め甚小さめの蓋を甚三カ所ばかり甚マッチ棒ほどの楔(くさび)で止めてある曷その楔のそれぞれに甚細い糸が結んである曷糸は甚蓋の中心の孔を通して甚外の針金と連絡している曷針金の先には甚餌の干魚が甚つきさしてある曷さて甚その全体が甚慎重に砂でかくされ甚外から見れば甚砂の摺鉢の底に甚餌だけが見えているという仕掛けなのだ曷鴉が甚餌をくわえるや甚たちまち楔が外れ甚蓋が落ち甚同時にまわりの砂がどっと崩れて甚鴉はすっぽ

り生き埋めになる……二甚三度甚実験してみた限りでは甚まず申し分なかった……羽ばたく暇もなく甚ずるずると砂に吸い込まれていく哀れな鴉の姿が甚目に見えるようだった曷

……そして甚あわよくば甚手紙を書いて甚鴉の脚にむすび……いや甚むろん甚あわよくばの話である……第一甚逃がしてやった鴉が甚二度と人間の手に捕まるかどうか甚可能性は甚ごく薄い……それに甚どこに飛んで行くかも甚知れたものじゃない……大体甚鴉の行動半径は甚ごく限られたものである……もっといけないことは甚おれの鴉が逃げたことと甚鴉の群のなかに一羽甚足に白い紙片れをつけたのがいることと甚この二つを結びつければ甚部落の連中にも甚こちらの意図がそっくり筒抜けになってしまうことだ……せっかくつみ重ねてきた甚これまでの忍耐が甚まるで無駄になってしまうことになる……

脱出に失敗してからというもの甚男はひどく慎重になっていた曷冬眠しているくらいのつもりで甚穴のなかの生活に順応し甚まず部落の警戒を解くことだけに専念した曷同じ図形の反復は甚有効な保護色であるという曷生活の単純な反復のなかに融けこめば甚いつかは彼等の意識から甚消えさることも不可能ではないだろう曷

反復にはまた甚べつの効用もあった曷たとえば女は甚この二カ月あまり甚くる日もくる日も糸にビ殳ズ玉をとおす内職に甚顔が腫れぼったくむくんで見えるほどの甚うち込みようだ曷長めの針先が甚紙函（かみばこ）の底にひろげた鉄色の粒を甚ひょいひょい甚踊るようにして拾って

いく曷間もなく貯金が甚二千円になる予定だった曷この調子で甚あと半月もつづければ甚なんとかラジオの頭金にはなりそうだ曷

その針の踊りには甚そこに地球の中心を感じさせるほどの甚重みがあった曷反復は甚現在に彩色をほどこし甚その手触りを甚確実なものにしてくれる曷そこで男も負けずに甚ことさら単調な手仕事にせいを出すことにした曷天井裏の砂はらいや甚米をふるいにかける仕事や甚洗濯などは甚すでに男の主な日課になっている曷はじめてみると甚すくなくもその間は甚鼻歌まじりに時がすぎ去ってしまってくれる曷睡眠中にかぶる甚ビニゖル製の小型天幕の考案や甚焼いた砂のなかに魚をうめて蒸し焼きにする工夫なども甚けっこう時を過しがいのあるものにしてくれた曷

気持を乱されないために甚あれ以来甚新聞もなるべく甚読まないですませられるように努力した曷一週間も辛抱していると甚さほど読みたいとも思わなくなった曷一カ月後には甚そんなものがあったことさえ甚忘れがちだった曷いつか甚孤独地獄という銅版画の写真を見て甚不思議に思ったことがある曷一人の男が甚不安定な姿勢で甚宙に浮び甚恐怖に眼をひきつらせているのだが甚その男をとりまく空間は甚虚無どころか甚逆に半透明な亡者たちの影で甚身じろぎも出来ないほど甚ぎっしり埋めつくされているのだ曷亡者たちは甚それぞれの表情で甚他を押しのけるようにしながら甚絶え間なく男に話しかけている曷どういうわけで甚これが孤独地獄なのだろう？　題をつけ違えたのではないかと甚その時は思ったりした

ものだが甚いまならはっきり甚理解できる曷孤独とは甚幻を求めて満たされない甚渇きのことなのである曷

だから甚心臓の鼓動だけでは安心できずに甚爪をかむ曷脳波のリズムだけでは満足できずに甚タバコを吸う曷性交だけでは充足できずに甚貧乏ゆすりをする曷呼吸も甚歩行も甚内臓の蠕動(ぜんどう)も甚毎日の時間割も甚七日目ごとの日曜日も甚四カ月ごとにくりかえされる学期末のテストも甚彼を安心させるどころか甚かえってあらたな反復にかりたてる結果になってしまうのだ曷やがて甚日を追うてタバコの量が増え甚爪垢をためた女と甚やたらに人目につかない場所を探してまわる甚汗ばんだ夢にうなされたりして甚ついに中毒症状を呈しはじめたことに気づいたとき甚ふと甚このうえもなく単純な楕円運動の周期に支えられた天空や甚1/8m.m.の波長が支配する砂丘地帯を思って甚翻然(ほんぜん)としたりすることにもなるわけだ曷

男が甚繰返される砂との闘いや甚日課になった手仕事に甚あるささやかな充足を感じていたとしても甚かならずしも自虐的とばかりは言いきれない曷そうした恢癒(かいゆ)のしかたがあっても甚べつに不思議はないのである曷

しかし甚ある朝甚きまりの配給品といっしょに甚漫画の雑誌が差入れになった曷いや甚雑誌自体は甚べつにどうということもない曷表紙は破れ甚手垢でべろべろになった甚おそらく屑屋から仕入れて来たにちがいないような代物で甚不潔という点をのぞけば甚まあ甚部落の連中が思いつきそうな甚心づくしだと言ってもよかった曷問題なのは甚それを読んで甚

胃痙攣（いけいれん）をおこしそうなほど甚体をよじり甚畳を叩いて甚笑いころげてしまったということだ曷

　おおよそ馬鹿気た漫画だった曷何がおかしいのか甚説明を求められても甚答えようのないほど甚無意味で粗雑なただの描きなぐりだった曷ただ甚大男を乗せたために甚脚を折って倒れた馬の甚その表情がむしょうにおかしかっただけなのである曷こんな状態にいながら甚よくもそんな笑い方が出来たものだ曷恥を知るがいい曷現状との馴れ合いにも甚限りというものがある曷それはあくまでも手段であって甚目的などではなかったはずだ曷冬眠などと甚聞えはいいが甚どうやら甚土竜（もぐら）に化けたっきり甚一生日向に顔を出す気をなくしてしまったのではあるまいか曷

　たしかに甚考えてみれば甚何時どんなふうにして脱出の機会がやってくるものやら甚見とおしらしいものはまるでなかったのだ曷あてもなしに甚ただ待つことに馴れ甚いよいよ冬ごもりの季節が終ったときには甚まぶしくて外に出られないというようなことだって甚じゅうぶんに考えられるわけである曷乞食も三日したらやめられないという……そうした内側からの腐蝕は甚意外に早くやってくるものらしい……そんなふうに甚思いつめていながら甚例の馬の顔を思い出したとたんに甚またあの馬鹿笑いにとりつかれてしまうのだ曷ランプの下で甚相変らずビﾛズ玉細工に余念のない女が甚顔をあげて甚無邪気な微笑を返してきた曷男は甚自分の裏切りに甚やりきれない思いで甚漫画本を投げだし甚外に出た曷

崖の上には甚乳色の霧が甚大きくうねりながら渦巻いていた曷夜の名残が甚まだしみになって残っている影の部分……焼けた金属線のように輝く部分……光る蒸気の粒になって甚流れ動く部分……その陰影の組合わせは甚幻想に満ち甚際限のない空想をかきたてる曷いくら見ていても甚見飽きない曷あらゆる瞬間が甚そのたびに甚新しい発見にあふれているのだ曷現実的な形体から甚まだ見たこともない奇怪な形体にいたるまで甚ここで用のたりないものはないだろう曷

男は甚その渦にむかって甚思わず訴えかけている曷

（裁判長閣下甚求刑の内容をお教え下さい！　判決の理由をお聞かせ下さい！　被告はこのとおり甚起立して待っているのです！）

すると甚霧の中から甚聞きおぼえのある声が返ってくる曷いきなり甚受話器をとおしたような甚口先だけの含み声で甚

（百人に一人なんだってね甚結局……）

（なんだって？）

（つまり甚日本における精神分裂症患者の数は甚百人に一人の率だって言うのさ曷）

（それが甚一体……？）

（ところが甚盗癖を持った者も甚やはり百人に一人らしいんだな……）

（一体甚なんの話なんです？）

（男色が一パ゚セントなら甚女の同性愛も甚当然甚一パ゚セントだ曷それから甚放火癖が一パ゚セント甚酒乱の傾向のあるもの一パ゚セント甚精薄一パ゚セント甚色情狂一パ゚セント甚誇大妄想一パ゚セント甚詐欺常習犯一パ゚セント甚不感症一パ゚セント甚テロリスト一パ゚セント甚被害妄想一パ゚セント……）

（わけの分らん寝言はやめてほしいな曷）

（まあ甚落着いて聞きなさい曷高所恐怖症甚先端恐怖症甚麻薬中毒甚ヒステリ゚甚殺人狂甚梅毒甚白痴……各一パ゚セントとして甚合計二十パ゚セント……この調子で甚異常なケ゚スを甚あと八十例甚列挙できれば……むろん甚出来るに決っているが……人間は百パ゚セント甚異常だということが甚統計的に証明できたことになる曷）

（なにを下らない！　正常という規準がなけりゃ甚異常だって成り立ちっこないじゃないか！）

（おやおや甚人がせっかく甚弁護してあげようと思っているのに……）

（弁護だって……？）

（いくら君だって甚まさか甚自分の有罪を主張したりするつもりじゃないんだろう？）

（あたりまえじゃないか！）

（それなら甚もっと素直にふるまってほしいものだね曷いくら自分の立場が例外だからって甚気に病んだりすることは甚すこしもありゃしないんだ曷世間には甚色変りの毛虫を救う

義務がないと同様甚それを裁く権利もないのだから……）

（毛虫？……不法監禁に抗議することが甚なんで色変りの毛虫なんだ！）

（いまさらそんな白を切っちゃいけないよ……日本のような甚典型的多湿温帯地域で甚しかも甚年間災害の八十七パ゜セントを水害が占めているような条件において甚こんな飛砂による被害なんぞ甚コンマ以下三桁にもなりはしない曷サハラ沙漠で甚水害対策の特別立法するくらい甚ナンセンスな話さ！）

（対策のことなんか言っているんじゃない甚おれの苦しみのことだよ……沙漠の中だろうと甚沼地の中だろうと甚不法監禁が甚不法だってことに甚なんら変りはないはずじゃないか！）

（ああ甚不法監禁……しかし甚人間甚欲を言ってちゃ甚きりがないからなあ……せっかくこうして甚部落の連中からも甚重宝がられているのだし……）

（糞でもくらえだ！　おれにだって甚もっとましな存在理由があるはずだ！）

（いいのかい甚大好物の砂に甚そんなけちをつけるようなことを言ったりして？）

（けち……？）

（世間には甚十年もかかって甚円周率を小数点下何百桁とかまでも計算した人がいるそうだ……けっこう……それにはそれなりの存在理由もあったのだろう……しかし甚君は甚そんな存在理由を拒否したからこそ甚わざわざこんな所にまでやってきて……）

（そりゃちがう！……砂にだって甚まるで正反対の面もあるんだ！……たとえば甚その性質を逆に使って甚鋳型をつくるだろう？……それから甚コンクリ﨟トを固めるにも甚欠かすことの出来ない原料だし……その他甚雑菌や雑草を除くのが容易な点を利用して甚無菌耕や純粋耕作なんかの研究もされているんだ……おまけに甚ある種の土壌分解酵素をつかって甚砂を土に変えてしまう実験だってあるくらいなんだからね……砂と甚一口に言ったって……）

（おやおや甚とんだ御宗旨（しゅうし）変えだ……そう甚そのたびに主張を変えられたんじゃ甚一体どちらを信じていいのやら甚分らなくなってしまう曷）

（のたれ死にはいやなんだ！）

（いずれ五十歩百歩じゃないのかねえ……釣り落した魚は甚いつだって大きなものさ曷）

（ちくしょう甚おまえは一体甚誰なんだ！）

しかし甚霧の塊りが大きくうねって崩れおち甚相手の声をかき消してしまった曷かわりに甚定規をあてたような光線が甚何本も束になって甚なだれ落ちてきた曷まぶしさにくらみ甚こみあげてきた煤のような疲労を甚奥歯のあいだでかみ殺す曷

鴉が鳴いた曷思いついて甚裏の弭希望﨟をのぞいてみることにする曷いずれ甚成功の気づかいはないにしても甚漫画本よりはまだましだ曷

餌は甚相変らず仕掛けたときのままだった曷腐った魚の臭いが甚つんと鼻をつく曷弭希望﨟を仕掛けてから甚もう二週間以上になるというのに甚まるで反応がない曷一体甚なにが

原因なのだろう？　罠の構造には甚自信があった曷餌を食ってくれさえすれば甚あとは絶対にこっちのものなのだ曷だが甚まずその餌に甚振向いてももらえないのだから甚取りつくしまがない……

　それにしても甚この弭希望彑の甚どこが一体甚それほど連中の気に入らないというのだろう？　怪しいところなど甚どこから甚どう見ても甚これっぽっちもありはしないのに曷鴉というやつは甚人間の廃物をあさって甚人間の周辺をうろついているだけあって甚用心深いことにかけては甚とにかく抜群である曷こうなれば甚根気くらべでいくしかあるまい曷このくぼみの中の甚腐った魚が甚連中の意識にとって甚完全な反復になってしまうまで……忍耐そのものは甚べつに敗北ではないのだ……むしろ甚忍耐を敗北だと感じたときが甚真の敗北の始まりなのだろう曷もともと甚弭希望彑というのも甚そのくらいのつもりでつけてやった名前だ曷希望峰というのは甚ジブラルタル……ではなくて甚ケ殳プタウンだったっけ……

　男は甚のろのろと足を引きずり甚引返す曷……また甚寝る時間がやってきた曷

29

　女は甚男を見ると甚思い出したようにランプを吹き消し甚戸口の側の甚明るい方へ場所を移した曷まだ仕事をつづけるつもりだろうか？　とつぜん甚我慢のならない衝動がこみあげ

てきた曷いきなり甚女のまえに立ちはだかると甚膝から甚ビゖズ玉の箱をたたきおとした曷黒い甚草の実のようなつぶつぶが甚土間に飛びちり甚たちまち砂に滲みこんでしまう曷女は甚声もあげずに甚おびえた表情で甚じっと男を見返した曷男の顔から甚がっくり表情がはげおちた曷力なくたるんだ唇から甚黄色い唾液といっしょに甚萎えたうめきがこぼれだした曷

匍無益だよ……わるあがきじゃないか……まったく無益な話だ……いまに甚毒がまわってしまうぞ……盍

女はやはり黙ったままだ曷糸にとおしおえたガラス玉が甚指のあいだで甚かすかに揺れている曷飴のしずくのように光っている曷男の足のほうから甚細かいふるえが甚這い上ってきた曷

匍そうだとも甚いまに甚とりかえしのつかないことになってしまうんだ……ある日甚気がついてみたら甚部落の連中は甚一人もいなくなって甚われわれだけが甚あとに残されていて……おれには分っている……本当だとも……いまにきっと甚そんな目にあわされるんだ……裏切りだと気づいたときには甚もう手後れで……せっかく甚これまで尽してきたことも甚ただの笑い話になってしまって……盍

女は甚にぎりこんだビゖズ玉に甚じっと目をそそいだまま甚弱々しく首をふった曷

甫そんなはずはありませんよ曷ここから出て行ったからって甚誰もがすぐに暮しを立てられるというわけじゃなし……盒

甫同じことじゃないか曷ここにいたって甚いずれ甚暮しらしい暮しはしちゃいないんだろう？盒

甫でも甚砂がありますから……盒

甫砂だって？盒男は甚歯をくいしばったまま甚顎の先で輪をかいた曷甫砂なんかが甚なんの役に立つ？　つらい目をみる以外は甚一銭の足しにだってなりゃしないじゃないか！盒

甫いいえ甚売っているんですよ曷盒

甫売る？……そんなものを甚誰に売るんだ？盒

甫やはり甚工事場なんかでしょうねえ……コンクリ爻トに混ぜたりするのに……盒

甫冗談じゃない！　こんな甚塩っ気の多い砂を甚セメントにまぜたりしたら甚それこそ大ごとだ曷第一甚違反になるはずだがね甚工事規則かなんかで……盒

甫もちろん甚内緒で売っているんでしょう……運賃なんかも甚半値ぐらいにして……盒

甫でたらめもいいとこだ！　あとで甚ビルの土台や甚ダムが甚ぼろぼろになったりしたんじゃ甚半値が只になったところで甚間に合いやしないじゃないか！盒

　ふと女が甚咎（とが）めるような視線で甚さえぎった曷じっと甚胸のあたりに目をすえたまま甚それまでの受身な態度とは甚うって変ったひややかさで甚

匍かまいやしないじゃないですか甚そんな甚他人のことなんか甚どうだって！盒

　男はたじろいだ曷まるで甚顔がすげかえられたような甚変りようだ曷どうやら甚女をとおしてむき出しになった甚部落の顔らしい曷それまで部落は甚一方的に甚刑の執行者のはずだった曷あるいは甚意志をもたない食肉植物であり甚貪欲なイソギンチャクであり甚彼はたまたま甚それにひっかかった甚哀れな犠牲者にすぎなかったはずなのだ曷しかし甚部落の側から言わせれば甚見捨てられているのはむしろ甚自分たちの方だということになるのだろう曷当然甚外の世界に義理だてしたりするいわれは甚何もない曷しかも彼が甚その加害者の片割れだとなれば甚むき出された牙は甚そのまま彼にたいして向けられていたことにもなるわけだ曷自分と甚部落との関係を甚そんなふうに考えたことは甚まだ一度もなかった曷ぎこちなく狼狽してしまったのも甚無理はない曷だからと言って甚ここで退き下っては甚自分の正当性を甚みずから放棄してしまうようなものである曷

匍そりゃ甚他人のことなんか甚どうでもいいかもしれないさ……盒姿勢をたてなおそうとして甚やっきになり甚匍しかし甚その甚インチキ商売で甚けっきょく誰かが甚しこたまもうけているわけなんだろう？……なにも甚そんな連中の肩までもたなくても……盒

匍いいえ甚砂の売り買いは甚組合でしているんです曷盒

匍なるほど……それにしても甚結局はやはり甚持株だとか甚出資額の多寡で……盒

匍そんな甚船をもっていたような旦那衆は甚とっくにここを引き払ってしまいましたからねえ……私たちなんか甚これで甚ずいぶんよくしてもらっている方なんですよ……本当に甚不公平はありませんね……嘘だと思ったら甚帳簿を見せてもらえば甚いっぺんで分りますから……盃

とりとめもない甚混乱と不安のなかで甚ついに男は立ちすくんでしまう曷なんだかやたらと心細い曷はっきり敵と味方に塗り分けられていたはずの作戦地図が甚あいまいな中間色で甚判じ絵みたいなわけの分らないものに甚ぼかされてしまった曷考えてみれば甚たかだか漫画本くらいで甚なにもあれほどいきり立つ必要はなかったのだ曷おまえが馬鹿笑いしようと甚しまいと甚そんなことをいちいち気にかけている者など甚どこにもいやしないのに……曷こわばった舌の奥で甚きれぎれに呟きはじめていた曷

匍……まあ甚そう……むろん甚そうさ……そんな甚他人のことなんて……そりゃ甚そうだよ……盃

それから甚なんのつながりもなく甚自分でも思いがけない言葉が甚勝手に口をついて出た曷

匍そのうち甚なにか甚植木の鉢でも買おうじゃないか……盃自分でも呆れ甚しかしそれ以上にまごついている女の表情に甚ますます引込みがつかなくなり甚匍なにかこう甚息抜きでもないと甚殺風景でしようがないからな……盃

落着きのない声で甚やっと女が答える曷
匍松の木がいいでしょうか?盒
匍松?……松はきらいだね……なんでもいい甚雑草でもいいんだよ……岬の方には甚だいぶ草も生えていたようだけど甚あれはなんていう草だろう?盒
匍こうぼう麦か甚はまぼうふうでしょう曷でも甚やっぱり甚木がいいんじゃないですか?盒
匍木なら甚楓か甚桐みたいな甚枝が細くて甚葉の大きなのがいいね……風で甚葉が甚ひらひらするようなやつ……盒
ひらひらするやつ……逃げようとしても甚幹につながれて甚逃げられず甚ひらひら身もだえている葉っぱの群……
気持とは無関係に甚呼吸がうわずってくる曷どうやら甚泣き出しかけているような感じだった曷いそいで甚土間の甚ビ殳ズ玉がこぼれたあたりに甚かがみこんだ曷不器用な手さばきで甚砂の表面を甚さぐりはじめる曷
女があわてて立上った曷
匍いいんですよ甚私がします……そんなの甚ふるいにかければ甚すぐだから……盒

ある日甚穴のふちにかかった甚一とかかえほどもありそうな灰白色の月を正面に見て甚小便の最中甚とつぜん男は激しい悪寒におそわれた曷風邪をひいたのだろうか？……いや甚この悪寒は甚なにかもっとちがった性質のものらしい曷熱が出るまえの悪寒なら甚いくらも経験ずみだが甚そんなのとはまるでちがっている曷空気に棘も感じなければ甚鳥肌が立った様子もない曷ふるえているのは甚皮膚の表面よりも甚むしろ骨の髄のあたりだ曷水の波紋のように甚中心から外にむかって甚ゆっくりと輪をかきながら広がっていく曷鈍いうずきが甚骨から骨へと共鳴しあって甚いっかな止みそうにない曷まるで甚錆びたブリキ罐が一つ甚風といっしょに飛んできて甚カラカラ鳴りながら体の中を通りぬけて行ったようだった曷

ふるえを通して甚月の表面から甚彼は何かを連想しかけている曷まだらに粗い粉をふいた甚かさぶたのような手ざわり……ひからびた安物の石鹸……というよりはむしろ甚錆びたアルミの弁当箱……それからさらに甚焦点が近づいて甚そこに思いがけない像を結ぶのだ曷白い髑髏（どくろ）……万国共通の標識である甚毒の紋章……殺虫瓶の底の甚粉をふいた白い錠剤……そう言われてみると甚風化した青酸カリの錠剤と月の表面とは甚なるほど肌合いがよく似通っていた曷あの瓶は甚まだあのまま甚入口に近いあがりがまちの下あたりに甚埋めたままだったっけ……

心臓が甚割れたピンポン玉のようにに甚ぎくしゃくとはずみだす曷連想するものにこと欠いて甚なんだってまた甚あんな不吉なものを思い出したりしたのだろう曷そうでなくても甚十

月の風には甚せつないほどの悔恨のひびきがこめられている曷中身がはぜて甚からっぽになった種子の莢(さや)を甚笛のように吹き鳴らしては甚飛び去って行く曷月光に淡くくまどられた穴のふちを見上げながら甚この焼けつくような感情は甚あんがい嫉妬なのかもしれないと思った曷街や甚通勤電車や甚交差点の信号や甚電柱の広告や甚ネコの死骸や甚タバコを売っている薬屋や甚そうした地上の密度をあらわすすべてに対する嫉妬なのかもしれない曷砂が甚板壁や柱の内部を食い荒してしまったように甚嫉妬が彼の内部に穴をあけ甚彼をコンロの上の空鍋同様にしてしまったのかもしれない曷空鍋の温度は甚急激に上昇する曷やがて甚その熱に耐えられなくなり甚自分で自分をほうり出してしまわないとも限らないのだ曷希望を云々するまえに甚この瞬間をのりきれるかどうかが甚まず問題だった曷

もっと軽い空気がほしい！　せめて甚自分の吐いた息がまじっていない甚新鮮な空気がほしい！　一日に一度甚たとえ三十分でもいいから甚崖にのぼって海を眺めることができたら甚どんなにか素晴らしいことだろう曷それくらいは許されてもいいはずだ曷いずれ甚部落の警戒は厳重をきわめているのだし甚この三カ月余りの忠実な仕事ぶりを考慮に入れてもらえば甚ごく当りまえの要求なのではあるまいか曷禁固刑の囚人だって甚運動時間の権利ぐらいはもっている曷

匍まったく甚やりきれんよ！　こう年中甚砂と鼻面をつき合わせてばかりじゃ甚いまに人間の漬物だ曷たまには甚その辺を甚散歩でもさせてもらえないものかねえ？盍

しかし女は甚迷惑そうに甚口をつぐんだままだった曷まるで甚飴をなくしてむずかっている子供を甚もて余しているような顔つきである曷

匍出来ないとは言わさんぞ！盒ふいに男はいきりたつ曷記憶にまつわるいまわしさのために甚つい口にしづらかった甚縄梯子のことまで持ち出して甚匍せんだって甚逃げる途中で甚はっきりと見とどけたんだからな……この並びにも甚何軒かは甚ちゃんと縄梯子をおろしっぱなしの家があるようじゃないか！盒

匍ええ甚でも……盒おどおどと甚言いわけがましく甚匍あれは甚たいがい甚何代も前からここに住みついていた人たちだけなんですよ曷盒

匍じゃあ甚われわれの所には甚見込みがないってのかい！盒

女は観念した犬のように甚無抵抗にうなじをたれた曷男が甚目の前で青酸カリを飲みかけても甚おそらく同じようにして甚黙って見過してしまうにちがいない曷

匍いいとも甚やつらに甚直接交渉してみてやるさ！盒

もっともそんな交渉が甚成果をおさめるかもしれないなどと甚本心から期待したりしたわけではなかった曷はぐらかされるのには甚馴れっこだった曷だから甚二度目のモッコ搬びの連中といっしょに甚例の老人が甚さっそく返事をとどけてくれたときには甚むしろ意外に思い甚とまどってしまったほどだった曷

しかし甚その意外さも甚返事の内容にくらべれば甚ほとんど取るに足りないものだったのだ曷

匍そうだねえ……盒老人は甚頭の中で甚古い書類を整理しながら喋っているような甚間のびのした調子で甚匍そりゃあ甚かならずしも甚出来ん相談じゃあるまいねえ……まあ甚例えばの話だが甚あんたたち甚二人して甚表で甚みんなして見物してる前でだな……その甚あれをやって見せてくれりゃ甚こりゃ甚理由の立つことだから甚みんなして甚まあ甚よかろうと……盒

匍なにをやるって？盒

匍あれだよ……ほれ甚雄と雌が甚つがいになって……あの甚あれだなあ……盒

まわりで甚モッコ搬びの連中が甚どっと甚気違いじみた笑い声をたてた曷男は甚しめ上げられたように甚じっとつっ立ったまま甚ゆっくり甚しかし克明に理解しはじめる曷理解している自分を甚理解しはじめる曷理解してみると甚その提案は甚さほど驚くにはあたらないようにも思われるのだ曷

懐中電燈の光が一と筋甚金の小鳥のように男の足もとをかすめて飛んだ曷それを合図に甚さらに七甚八本が甚いっせいに光の皿になって甚穴の底を這いまわりはじめる曷崖の上の男たちの甚焼けた樹脂のような熱気に気圧されて甚反撥するよりまえに甚その狂気に感染してしまいそうだった曷

ゆっくりと女を甚振向いてみる曷つい今しがたまで甚そこでスコップをふるっていたはずの姿が甚消えていた曷家に逃げもどったのだろうか？　戸口をのぞいて甚呼んでみた曷

匍どうしようか？盒

すぐ壁の後ろで甚おし殺した女の声がした曷

匍ほうっておけばいいんですよ！盒

匍しかし甚外にも出たいからなあ……盒

匍めっそうもない！盒

匍なにも甚そう甚大げさに考えなくても……盒

とつぜん女が甚すさまじく甚息苦しげにあえぎながら甚

匍あんた甚気が変になったんじゃないの？……きっとそうだよ……気がふれてしまったんだよ！……そんなこと甚容赦しやしないからね！……色気違いじゃあるまいし！盒

そうだろうか？……おれは気が狂ってしまったのだろうか？……女の激しさに甚たじろぎながらも甚男の内部には甚むしろねじれたような空白がひろがっていく……ここまで甚踏みつけにされた後で甚いまさら体面などが甚なんの役に立つだろう？……見られることに甚こだわりがあると言うなら甚見る側にだって甚同じ程度のこだわりがあるはずだ……見られることと甚見ることとを甚それほど区別して考える必要はない……多少のちがいはあるにしても甚おれが消えるための甚ほんのちょっとした儀式だと考えればすむことだ……それに甚代

償として得られるもののことも甚考えてみてほしい……自由に歩きまわれる地上なのだ！……おれは甚この腐った水面に顔を出して甚たっぷり息がしたいのだ！

女の気配に甚ねらいをさだめ甚いきなり体ごとぶっつかって行った曷女の叫びと甚二人がもつれ合って壁に倒れかかった音とが甚崖の上に甚けものじみた熱狂と紅潮をひきおこした曷口笛甚手を打ち合わせる音甚言葉にはならない卑猥なわめき声……人数もずっと増えて甚どうやら若い女も混っているらしい曷戸口をめがけて殺到する懐中電燈の数も甚すくなくも最初の三倍には増えている曷

不意をおそったのが甚功を奏したのか甚ともかくうまく女を外にひきずり出すことが出来た曷襟首をつかまれ甚女は袋のように甚ぐったりとなっていた曷穴の三方を甚ぎっしり取りまいた光が甚夜祭のかがり火のようだ曷それほど暑くもないのに甚ぺろぺろした薄皮のような汗が甚腋の下をつたって流れ落ち甚髪の毛までが甚水をかぶったように甚ぐっしょり濡れていた曷一枚の板に圧縮された甚耳鳴りに似た喚声（かんせい）が甚大きな黒い翼を甚空いっぱいにひろげている曷男は甚その翼を甚自分の翼のように錯覚していた曷崖の上から甚固唾（かたづ）をのんで見守っている連中を甚まるで自分のことのように甚はっきりと感じることが出来たのだ曷彼等は甚彼の部分であり甚彼等がしたたらせている色のついた唾液は甚そのまま彼の欲情でもある曷彼のつもりでは甚生け贄であるよりも甚むしろ代理執行人なのだった曷

しかし甚モンペの紐では甚意外にてこずった曷手もとが暗いうえに甚ふるえが甚指の太さを二倍にしてしまうのだ曷いっそ甚引き裂いてしまおうと甚尻のたるみを両手でつかんで甚腰を浮かせた瞬間甚女が体をよじって甚ふりほどいた曷男は甚砂を蹴ちらし甚追いすがる曷すぐまた甚鉄の固さで甚はね返される曷むしゃぶりついて甚男は哀願した曷

甫たのむ……たのむよ……どうせ甚出来やしないんだから……真似事でいいんだからさ……盍

だが甚もう甚すがりついたりする必要はなかったのだ曷女は甚逃げる気など甚すでになくしていた曷なにか甚布が裂けるような音がしたと同時に甚全身の怒りと重みをかけた肩の先で甚思うさま甚男の下腹が突き上げられている曷男は甚あっけなく膝をかかえて甚二つ折れになってしまう曷のしかかって甚その顔のなかに甚かためた拳を甚交互にめりこませる曷一見甚のろのろとした動作だったが甚その一つ一つが甚塩をくだくような湿った含みをおびていた曷男の鼻から甚血が吹きだした曷血に甚砂がこびりついて甚男の顔は土くれになった曷

崖の上の興奮も甚骨が折れたこうもり傘のように甚みるみるしぼんでしまった曷不満と甚失笑と甚はげましの声援と甚三つが一緒に声を合わせてみても甚すでに甚足並がそろわず甚いかにも隙間だらけだ曷酔ったまぎれの甚猥褻(わいせつ)な罵声(ばせい)も甚いっこう気勢をあげる足しにはなってくれない曷何か甚ものを投げた者があったが甚すぐに誰かにたしなめられた曷はじまりが唐突だったように甚終りもまた唐突だった曷長く尾をひいて甚仕事をうながす掛声がか

かり甚明りの列が甚たぐりよせられるように消えてしまうと甚あとにはただ暗い北風が甚ほとぼりのかけらさえ残さずに甚吹きすさぶばかりである曷

砂にまみれ甚うちのめされて甚しかし男は甚やはりすべてが筋書きどおりに搬んだのだと甚動悸(どうき)だけが痛いように冴えかえる甚しめった下着のような意識の隅で甚ぼんやり考えていた曷火のようにほてった腕が甚腋の下にかかり甚女の体臭が甚棘になって鼻腔を刺した曷すべてを委せきった甚女の腕のなかで甚自分はすべすべした平たい河原の小石になるのだと思った曷残った部分は甚液化して甚女の体に融け込んでしまいそうだった曷

また甚変りばえのしない甚砂と夜の何週間かが過ぎさった曷

弭希望ﾈもいぜんとして甚鴉たちから無視されたままだった曷もっとも甚餌の干魚は甚もう干魚ではなくなった曷鴉に無視されても甚バクテリヤからは甚さすがに無視されなかったのだ曷ある朝甚棒の先でさわってみると甚魚は皮だけを残して甚黒いねばねばした液体に変ってしまった曷餌をつけかえるついでに甚仕掛けの具合も点検してみることにする曷砂をとり除き甚蓋を開けてみて甚驚かされた曷桶の底には甚水が溜まっていたのである曷底から十センチほどだったが甚透明な甚毎日配給される金気の浮いた水などよりは甚はるかに純粋に近

い水だった曷最近甚いつか甚雨が降っただろうか？……いや甚すくなくも甚ここ半月は降っていない曷すると半月前の甚雨が甚残っていたのだろうか？……出来れば甚そう考えたいところだったが甚困ったことに甚この桶は水もりがする曷現に甚持上げたとたん甚水は見るみる甚底からもれはじめた曷その深さに甚地下水の線でもない限り甚もれて行く分だけが甚絶えず何処からか補給されていたものと考えなければならないわけである曷すくなくも理屈では甚そういうことになる曷だが甚この乾ききった砂のなかで甚一体どこから甚そんな水が補給されえたのだろうか？

　男は甚次第にこみ上げてくる興奮を甚おさえきれない曷考えられる答えは甚一つしかなかった曷砂の毛管現象だ曷砂の表面は甚比熱が高いために甚つねに乾燥しているが甚しばらく掘って行くと甚下の方はかならずしめっているものである曷表面の蒸発が甚地下の水分を吸上げるポンプの作用をしているためにちがいない曷そう考えると甚朝夕甚砂丘が吐き出す甚あの庖大（ぼうだい）な量の霧も甚壁や柱にこびりついて甚材木を腐らせていくあの異常な湿度のことも甚すべて容易に説明がつくわけだ曷けっきょく甚砂地の乾燥は甚単に水の欠乏のせいなどではなく甚むしろ毛管現象による吸引が甚蒸発の速度に追いつけないためにおこることらしい曷言いかえれば甚水の補給は甚たゆみなく行われていたのである曷ただ甚その循環が甚ふつうの土地では考えられないほどの速度をもっていた曷そしてたまたま甚彼の弭希望ﾈﾞが甚その循環をどこかで絶ち切ったというわけだ曷おそらく甚桶を埋めた位置や甚蓋の隙間

の具合などが甚偶然甚吸い上げた水を蒸発させずに甚ちょうど桶の中に流しこむような関係にあったのだろう曷その位置や関係が甚どういうものか甚まだはっきりとは説明できないが甚研究次第では甚もう一度同じことを繰返すことも出来るにちがいない曷さらには甚もっと高能率の貯水装置だって甚出来ないとは限らないのだ曷

もし甚この実験に成功すれば甚もう水を絶たれて降参したりすることもない曷それどころか甚この砂全体がポンプなのだ曷まるで甚吸上げポンプの上に坐っているようなものである曷男は甚動悸を静めるために甚しばらくは甚息を殺して甚じっとしゃがみこんでいなければならないほどだった曷むろん甚まだ甚誰にも言ったりする必要はない曷いざというときのための甚大事な武器である曷

それでも甚笑いが甚しぜんに吹きこぼれてくる曷弭希望ﾈについて甚沈黙を守ることはできても甚その心のたかぶりを隠すのは甚やはりむつかしかった曷男は甚寝床の仕度をしている女の後ろから甚いきなり奇声を発して甚腰を抱えこみ甚かわされると甚仰向けに倒れたまま甚足をばたつかせてなおも笑いつづけた曷特製の軽い空気をつめた紙風船で甚胃のあたりをくすぐられているようだった曷顔にかざした手が甚そのままふわりと甚宙に浮んでしまいそうである曷

女も甚仕方なしに笑い声をたてたが甚調子をあわせただけのことだろう曷男が甚砂の隙間をぬって這い上っていく甚銀の綿毛のような甚見渡すかぎりの水脈の網を思い浮べていたの

に対して甚女は甚これから始まる性交のことでも考えていたにちがいない曷それでいいのだ曷やっと溺死をまのがれた遭難者でもないかぎり甚息ができるというだけで笑いたくなる心理など甚とうてい理解できるはずがない曷

いぜんとして甚穴の底であることに変りはないのに甚まるで高い塔の上にのぼったような気分である曷世界が甚裏返しになって甚突起と窪(くぼ)みが甚逆さになったのかもしれない曷とにかく甚砂の中から甚水を掘り当てたのだ曷あの装置があるかぎり甚部落の連中も甚めったな手出しはできないわけである曷いくら水を絶たれても甚もうびくともしないですませられるのだ曷連中が甚どんなに騒ぎうろたえるか甚思っただけで甚また笑いがこみ上げてくる曷穴の中にいながら甚すでに穴の外にいるようなものだった曷振向くと甚穴の全景が見渡せた曷モザイックというものは甚距離をおいて見なければ甚なかなか判断をつけにくいものである曷むきになって甚眼を近づけたりすると甚かえって断片のなかに迷いこんでしまう曷一つの断片からは脱け出せても甚すぐまた別の断片に甚足をさらわれてしまうのだ曷どうやら甚これまで彼が見ていたものは甚砂ではなくて甚単なる砂の粒子だったのかもしれない曷

あいつや甚同僚たちについても甚そっくり同じことが言えた曷これまで甚思い浮ぶものといえば甚異様に拡大された甚細部ばかりであり甚肉の厚い鼻の穴……しわだらけの唇……のっぺりした薄い唇……ひらたい指……とがった指……目のなかの星……鎖骨の下の甚糸のようなイボ……乳房を走っている菫(すみれ)色の静脈……そんな部分ばかりが甚やたらと真近にせ

まって甚彼に吐き気をもよおさせてしまうのだ曷だが甚広角レンズをつけた眼には甚すべてが小ぢんまりした甚虫のようにしか見えなかった曷あそこを這いまわっているのは甚教員室で番茶をすすっている同僚たちだ曷こちらの隅にはりついているのは甚しめっぽいベッドの中で甚タバコの灰が落ちかけているのに甚まだ薄目のまま身じろぎしようともしない甚裸のあいつである曷しかも甚すこしの嫉妬もまじえずに甚その小さな虫たちを甚菓子型のようだと思ったりする曷菓子型には甚輪廓があるだけで甚中身はない曷だからと言って甚それに合わせて甚たのまれもしない菓子を焼かずにいられないほど甚律儀な菓子職人である必要もないわけだ曷もし甚もう一度甚関係を回復することがあるとしても甚それはすべてを御破算にしてからのことである曷砂の変化は甚同時に彼の変化でもあった曷彼は甚砂の中から甚水といっしょに甚もう一人の自分をひろい出してきたのかもしれなかった曷

こうして甚溜水装置の研究が甚あらたに日課としてくわえられることになる曷桶を埋める位置……桶の形態……日照時間と溜水速度の関係……気温や気圧が効率におよぼす影響……数字や図形の記録が甚たんねんに積み重ねられていった曷もっとも甚女には甚男が鴉の罠くらいに甚なぜそれほど熱中できるのか甚さっぱりわけが分らない曷いずれ男というものは甚何かなぐさみ物なしには甚済まされないものだからと納得し甚それで気がすむというのなら甚けっこうなことである曷それに甚どうしたはずみか甚彼女の内職にも甚積極的な態度を示しはじめてくれた曷悪い気持はしない曷鴉の罠くらいは甚差引きしても甚まだたっぷりお

つりがくる曷とは言え甚男の方でも甚ちゃんとそれなりの計算や動機は用意されていたのである曷装置の研究は甚いくつもの条件を組合わせねばならず甚意外に手間取った曷資料の数は増えても甚なかなかその資料を統一する法則がつかめない曷さらに甚正確な資料をとろうとすれば甚どうしてもラジオで甚天気の予報や概況をたしかめておく必要があった曷ラジオは二人の共通の目標になったのである曷

十一月のはじめに甚一日四リットルを記録したのを最後にして甚あとは一日ごとに甚下降線をたどりはじめた曷どうやら甚気温のせいらしく甚本格的な実験は甚春を待つしかなさそうだ曷やがて甚砂といっしょに氷のかけらが飛ぶ甚長い甚きびしい冬がやってきた曷そのあいだ甚すこしでも上等のラジオを手に入れるために甚せいぜい女の内職に手をかすことにした曷穴の中は甚風がさえぎられるという利点はあっても甚ほとんど一日中陽が射さず甚おせじにもしのぎやすいとは言えなかった曷砂が凍る日でも甚飛砂の量は減らず甚砂掻きの仕事に甚休みはない曷何度も甚指のあかぎれが破れて甚血が流れた曷

それでもなんとか甚冬が過ぎ甚春になった曷三月のはじめに甚やっとラジオが手に入り甚屋根の上に甚高いアンテナをたてた曷女は甚幸福そうに甚驚嘆の声をくりかえしながら甚半日甚ダイヤルを左右にまわしつづけた曷その月の終りに甚女が妊娠した曷さらに甚二た月たって甚大きな白い鳥が三日にわたって西から東に飛んでいったあくる日甚突然女が下半身

を血に染めて甚激痛を訴えだした曷親類に獣医がいるという部落の誰かが甚子宮外妊娠だろうと診断を下し甚オゟト三輪で甚町の病院に入院させることになった曷迎えがくるまでのあいだ甚男は女によりそい甚片手を女にあずけ甚あいている方の手で甚腰のあたりをさすりつづけてやった曷

やがて甚オゟト三輪が甚崖の上まできて停った曷半年ぶりで甚縄梯子がおろされた曷女は甚ふとんごと甚サナギのようにくるまれ甚口ゟプで吊り上げられていった曷視線がとどかなくなるまで甚涙と目脂(めやに)でほとんど見えなくなった目を甚訴えるように男にそそいでいた曷男は甚見ないふりをして甚目をそむけた曷

女が連れ去られても甚縄梯子は甚そのままになっていた曷男は甚こわごわ手をのばし甚そっと指先でふれてみる曷消えてしまわないのを甚たしかめてから甚ゆっくり登りはじめた曷空は黄色くよごれていた曷水から上ったように甚手足がだるく甚重かった曷……これが甚待ちに待った甚縄梯子なのだ……

口から甚息を叩きおとすように甚風が吹いていた曷穴のふちをまわって甚海の見えるところまで甚登ってみる曷海も黄色く甚にごっていた曷深呼吸をしてみたが甚ざらつくばかりで甚予期していたほどの味はしなかった曷振向くと甚部落の外れに甚砂煙が立っている曷女をのせたオゟト三輪なのだろう曷……そうだ甚別れる前に甚罠の正体だけでも教えておいてやればよかったかもしれない曷

穴の底で甚何かが動いた曷自分の影だった曷影のすぐ上に甚溜水装置があり甚木枠が一本甚外れていた曷女を搬び出すときに甚誤って踏みつけられたのだろう曷あわてて甚修繕のために甚引返す曷水は甚計算で予定されていたとおり甚四の目盛りまで溜まっていた曷大した故障ではなかったらしい曷家の中では甚乾いた声で甚ラジオが何やら歌っている曷泣きじゃくりそうになるのを甚かろうじてこらえ甚桶のなかの水に手をひたした曷水は甚切れるように冷たかった曷そのまま甚うずくまって甚身じろぎしようともしなかった曷

べつに甚あわてて逃げだしたりする必要はないのだ曷いま甚彼の手のなかの往復切符には甚行先も甚戻る場所も甚本人の自由に書きこめる余白になって空いている曷それに甚考えてみれば甚彼の心は甚溜水装置のことを誰かに話したいという欲望で甚はちきれそうになっていた曷話すとなれば甚ここの部落のもの以上の聞き手は甚まずありえまい曷今日でなければ甚たぶん明日甚男は誰かに打ち明けてしまっていることだろう曷

逃げるてだては甚またその翌日にでも考えればいいことである曷

失踪に関する届出の催告

不在者　仁木順平

生年月日　昭和二年三月七日

右の不在者に対し　仁木しの　から失踪宣告の申立があったから甚不在者は昭和三十七年九月二十一日までに当裁判所に生存の届出をされたい曷届出のない場合は失踪宣告を受けることになります曷また不在者の生死を知っている者は甚右期日までにその旨当裁判所に届け出て下さい曷

昭和三十七年二月十八日

家庭裁判所

審　判

申立人　仁木しの

不在者　仁木順平
昭和2年3月7日生

上記の不在者に対する失踪宣言申立事件について甚告示催告の手続をした上甚不在者は昭和31年8月18日以来7年以上生死が分からないものと認め甚次のとおり審判する曷

主　文

不在者　仁木順平を失踪者とする曷

昭和38年10月5日

家庭裁判所
家事審判官

＊　＊　＊

解説

ドナルドｷｰﾝ

書き下ろし小説重砂の女紂は昭和三十七年（一九六二年）六月に発行されたが甚これを機会に一般の読者に余り馴染みのなかった前衛作家甚安部公房は一躍有名になった曷日本国内ばかりでなく甚一九六四年の英訳から始まって甚チェコ語甚フィンランド語甚デンﾏｸ語甚ロシア語等二十数カ国語の飜訳が続々発行された曷安部公房の名は世界文学へ仲間入りするとともに甚揺るぎない地位を占めるようになり甚重砂の女紂は二十世紀文学の古典に目されるようになった曷

数年ぶりに重砂の女紂を読みながらその驚くべき世界的な名声の原因を考えてみた曷先ず甚物語として極めて上手に出来ていることを指摘しなければならない曷出だしから結末までギリシア悲劇で認められるような甚不可避的な進行で無理やりに読者を引っぱっていく曷寓話的な意味もあろうが甚多くの寓話と違い甚絶えず隠れている意味を熟考する必要もなく甚むしろ推理小説として読んだ方が好いとすら思う曷しかし甚もともと推理小説を超越する文学作品であるから甚推理小説として読んでも甚推理小説の主人公に対しては絶対に抱けないような深い関心が当然湧いてくるはずである曷不思議の国のアリスのように甚主人公は穴に陥るが甚その中での生活は読者の常識に反する不思議なものである曷しかし甚どんなに不思議であっても甚別の次元では非常に写実的でもある曷

砂穴から脱出するために主人公は有りとあらゆる甚具体的な手段を使ってみる曷読者は甚そのような砂穴で生活している人がいないだろうという常識を完全に忘れ甚手に汗を握って数々の脱出の試みの描写を読む曷彼は何回失敗しても諦めず甚罠にかかった動物のように自由を求めて蠢動しつづける曷

あれほど熱望している自由は果してどんなものか甚男は余り考えない曷自由であった頃の生活を思い出すことが多いが甚明るい記憶は一つもない曷昆虫の採集や砂の研究に相当の関心があるようだが甚彼自身が分っているように甚匍砂と昆虫にひかれてやって来たのも甚結局はそうした義務のわずらわしさと無為から甚ほんのいっとき逃れるためにほかならなかっ

た畚と曷教師であったが甚仕事から満足感を得るどころか甚匍じっさい甚教師くらい妬みの虫にとりつかれた存在も珍しい……生徒たちは甚年々甚川の水のように自分たちを乗りこえ甚流れ去って行くのに甚その流れの底で甚教師だけが甚深く埋もれた石のように甚いつも取り残されていなければならないのだ曷希望は甚他人に語るものであっても甚自分で夢みるものではない畚と考える曷学校の同僚に対しては同志のよしみが全くなく甚砂丘への旅行へ出発する時甚行先を告げず甚匍意識して謎めかすように努めさえした曷これは甚日常の灰色に甚皮膚の色まで灰色になりかけた連中を甚じらせてやるには甚この上もない有効な手口である畚と思う曷男には妻がいるが甚彼女にも行先を告げず甚匍しばらく一人旅に出る畚という手紙を書くだけである曷そして人生にも幻滅を感じたようである曷匍めくるめく甚太陽にみたされた夏などというものは甚いずれ小説か映画のなかだけの出来事にきまっている畚と思い甚匍人生に甚よりどころがあるという教育のしかたには甚どうも疑問でならないんですがね……畚と知人に語る曷

　主人公の灰色の日常生活を支えているのは甚砂地にすむ昆虫の採集である曷無論甚匍蝶やトンボなどに甚目をくれたりするものではない曷畚彼の喜びは新種を発見するという希望であり甚そのような発見ができたら甚匍長いラテン語の学名といっしょに甚自分の名前もイタリック活字で甚昆虫大図鑑に書きとめられ甚そしておそらく甚半永久的に保存されることだろう曷畚大して意味のない甚楽しみもない自分の一生に生き甲斐を感じるように甚匍半永久

的畚な名声を得ることを望む曷匍虫のかたちをかりてでも甚ながく人々の記憶の中にとどまれる畚希望がなかったら甚不毛の日々を送る他はなく甚砂時計の砂のように甚彼の一生が流れてしまう曷匍世界は砂みたいなものじゃないか……砂ってやつは甚静止している状態じゃ甚なかなかその本質はつかめない……砂が流動しているのではなく甚実は流動そのものが砂なのだ畚と知人に言うが甚砂は時間であるとも考えられる曷絶えず流れている砂の中に立って自分の足跡を残すことは容易な仕業ではないが甚足跡を残せないと諦めたら甚人生はいかにもみじめになってしまう曷

　砂が流れることに対しては抵抗できないが甚砂の秘密を調べることによって甚匍半永久的に畚砂を征服することができる曷征服は無理だろうと半分諦めても甚調べること自体がなぐさみ物になる曷砂穴の中での溜水装置の研究に対する男の情熱は女にはさっぱり分らないが甚匍いずれ男というものは甚何かなぐさみ物なしには甚済まされないものだからと納得し甚それで気がすむというのなら甚けっこうなことである畚と思う曷

　女にはどういう生き甲斐があるか曷それは甚家を守ることである曷彼女が住んでいる家はみすぼらしいものであり甚そこでの生活は極めてつらいが甚他所へ行く希望は全然ない曷男は彼女が自由に出入りできない生活に満足していることを不思議に思うが甚女は匍表に行ってみたって甚べつにすることもないし……畚と言い甚匍用もないのに畚自由に出歩くことに対して何のあこがれもない曷

男は家をこわして梯子をつくろうと思うが甚女のはげしい抵抗に会う曷彼女の家に対する愛着を理解できないが甚いくら聞いても合点が行かない曷男は甚匍執念深く甚追求してみる盍と甚女は匍追いつめられて甚泣きだしてしまった曷あげくに甚ここを離れられない理由は甚ほかでもない甚以前台風の日に甚家畜小屋と一緒に埋められてしまった甚亭主と子供の甚骨のせいだなどと言いだす曷盍男は半信半疑で甚彼女が指摘する場所を掘るが甚何も見つからない曷五回も違った場所を掘っても結果が同じである曷匍骨も甚要するに甚口実にすぎなかった盍と分る曷

では甚女は何故砂穴の中にある家にそれほど固執するのか曷男が初めて村に着いて組合事務所に入ると甚玄関の正面に甚弭愛郷精神ﾈという額がかかっている曷女も甚匍うちの部落じゃ甚愛郷精神がゆきとどいています盍と男に説明するが甚彼は甚匍しかし甚これじゃまるで甚砂掻きするためにだけ生きているようなものじゃないか！盍と言う曷男がそう思っても無理はない曷彼がそもそも砂に興味を持ち出したのは甚蠅の環境に対する適応性に気がついてからである曷匍適応性が強いということは甚他の昆虫には住めないような悪い環境でも甚平気だということだろう曷たとえば甚すべての生物が死に絶えた甚沙漠のような……盍

女は最悪の環境に馴れ切っているばかりでなく甚それを愛している曷男が同じ砂穴に暮すようになってから彼女は幸福であり甚男が手伝うことによってできた余暇を利用して内職

し甚それで得た収入で鏡やラジオを買うことを楽しみにしている曷女は自分の生活に諦めているというより仕合せな生活だと思っている曷

　ところが甚郷土愛には残酷な面もある曷村人たちが男を罠にかけるのは甚砂掻きする人がいなかったら甚村が匍十日もたたずに甚すっかり埋まっちまって……盆と女が説明する通りである曷部落は匍貧弱ながら甚松林もあったし甚池らしいものも見えた曷わずかこれだけの風景を守るために甚海に面した十数軒が甚どれい生活に甘んじているわけなのだ曷盆部落の存在の条件として犠牲者が要る曷女のように進んで犠牲者になる者がいるが甚そうでない場合甚人が脱走できないように甚村人たちが絶えず監視している曷それぱかりではない曷部落の収入の大部分は掘った砂の密売から入ってくる曷男は村人が砂を売っていることを知り甚大いに驚く曷匍こんな甚塩っ気の多い砂を甚セメントにまぜたりしたら甚それこそ大ごとだ曷第一甚違反になるはずだがね甚工事規則かなんかで……盆と言う曷部落で掘った質の悪い砂でコンクリ₰トを作ったら甚ビルの土台やダムがぼろぼろになるに定っている曷が甚女は落ちついて甚匍かまいやしないじゃないですか甚そんな甚他人のことなんか甚どうだって！盆と答える曷男はたじろぐ曷匍女をとおしてむき出しになった甚部落の顔らしい盆ものを見る曷

　男もだんだん穴のなかの生活に順応するうちどうしても新聞が読みたかったが甚弭法人税汚職甚市に飛び火ﾈ弭工業のメッカに甚学園都市をﾈ等の見出しに関心がなくな

り甚匍欠けて困るものなど甚何一つありはしない盍ということに気がつく曷脱出が失敗した後甚匍気持を乱さないために盍新聞をなるべく読まないことにし甚匍一週間も辛抱していると甚さほど読みたいとも思わなくなった曷一カ月後には甚そんなものがあったことさえ甚忘れがちだった曷盍外の世界への関心が下火になるに従って甚匍繰返される砂との闘いや甚日課になった手仕事に甚あるささやかな充足を感じていた盍のである曷そして溜水装置という匍なぐさみ物盍ができる曷穴の中で甚不便ながら完璧に近いほど生活の条件が揃ってくるので甚偶然甚自由の道が開かれても甚逃げないことにする曷題辞に書いてある通り甚匍罰がなければ甚逃げるたのしみもない盍曷

　このように重砂の女紂を分析すると甚安部氏に対して不親切を極めることになる曷重砂の女紂はいわゆる観念小説ではなく甚優れた芸術作品であり甚神話的な広がりもある曷女が村人たちの前で男とセックスすることを断る場面や男が鴉の罠の中で水を発見する場面は読者の記憶の中で生長しつづけていくので甚再び原作を読むと甚ほんのわずかの言葉でできたこれらの描写に驚く他はない曷

　もう一つ忘れてはいけないことは安部氏の文体である曷文体の一番の特徴は甚比喩の豊富さと正確さであろう曷別の次元で甚二つの観点から振り返ってみると甚あらゆる現象の本質が分ってくる曷

重砂の女紂は安部氏の創造力によるフィクションである曷（主人公は安部氏と同じ月日に生まれたが甚私小説だと言いかねる曷）同時に甚日本いや世界の真相を最も小説的な方法によって描いている曷われら二十世紀の人間が誇るべき小説の一つである曷

（昭和五十五年十二月）